

# 宿久庄西遺跡 2

平成 29 年（2017 年）3 月



茨木市教育委員会



## 序 文

茨木市は京都と大阪との間、いわゆる北摂地域に位置しており、北は老の坂の山峰が連なり、南は安威川・茨木川等の豊かな水によって形成された三島平野が広がっています。三島平野には、古来から先人たちが生活を営み、その痕跡は、埋蔵文化財として今も土中に残り、当時の様子を知る手掛かりになります。

今回報告します宿久庄西遺跡は、茨木市の西側、箕面市との市境に位置しています。遺跡の南方には「西国街道」が通り、江戸時代には、西国の諸大名たちが江戸に向かう道として、また古代には京都と山陽道を繋ぐ道として、多くの人々が行き交いました。現在は、西国街道に沿うように国道171号線が通っており、古代の遺跡が多く存在しています。

現地調査では、古墳時代から古代の建物跡など多数の遺構・遺物が見つかりました。また、出土遺物の中には硯などもみられ、日本が律令制を確立する時代に、何らかの影響下にあった地域であると考えられます。

今回の発掘調査報告書は、開発の進む国道171号線沿いに埋もれていた集落遺跡の一端を明らかにするとともに、茨木市の古墳時代から古代にかけての人々の営み探る一助となることでしょう。

最後に、発掘調査を実施するにあたりまして、多大なご協力とご配慮をいただきました事業主、土地所有者、近隣の皆様をはじめとする関係各位に対し、深く感謝いたしますとともに、今後とも本市文化財保護行政により一層のご理解とお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

平成29年3月31日

茨木市教育委員会

教育長 岡田 祐一



## 例　　言

- 1 本書は平成6年度及び、平成23年度に実施した茨木市清水一丁目地内に所在する宿久庄西遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は事業者からの届出・依頼を受け、茨市教育委員会が行った。
- 3 平成6年度の発掘調査〔SHW94-1〕については、発掘調査員 宮脇薫（平成22年退職）が担当した。また、平成23年度の発掘調査〔SHW11-1〕については、嘱託調査員 関粹（平成25年退職）が担当した。本報告書刊行に係る調査体制は以下のとおりである。

教育総務部 社会教育振興課長 辻田新一・文化財係長 前田聰志、主査 黒須靖之  
発掘調査員 藤田徹也・坂田典彦・正岡大実・高村勇士  
嘱託調査員 川村和子・富田卓見・木村健明・水久保祥子・黒田昂嗣
- 4 遺構図面および出土遺物実測等の内業整理については、遺構図面整理作業を藤田が、出土遺物整理作業を川村が主担として行った。遺物整理作業については、その一部を国際文化財株式会社に委託し、茨木市立文化財資料館において実施した。
- 5 本書で用いた現地写真は、各調査担当者が撮影した。また、遺物写真の撮影については、嘱託調査員 中東正之が行った。
- 6 本書の執筆と編集は、藤田が行った。なお、遺物観察表、遺物写真のレイアウトは川村が主体となり作成した。
- 7 本書作成にあたっては、上記の他、調査補助員 川西宏実・川畠康雄・中川夕香・宮西貴史・吉田和弘が従事した。
- 8 本調査に係る記録類や出土遺物は、茨木市立文化財資料館〔〒567-0861 大阪府茨木市東奈良三丁目12番18号 電話（072）634-3433〕において保管している。広く活用されることを希望する。
- 9 現地調査、報告書の作成にあたっては、興和新薬株式会社・国際文化財株式会社より、様々なご協力・ご指導を賜った。記して感謝申し上げます。

## 凡　　例

- 1 本書に記載された測量成果については、世界測地系（測地成果2000）に基づいている。図中のX・Y座標は国土座標第VI系によるものであり、m単位で表記している。また、平面図の方位は座標北を示している。
- 2 標高は東京湾平均海面（T.P.+）値で示した。単位は全てmである。
- 3 本報告書に使用した地図は、国土地理院発行（1/25,000地形図）を拡大、縮小、加筆して使用したものである。
- 4 本報告書に記載している土層断面観察記録としての土色は、小山正忠、竹原秀雄編著『新版標準土色帖』に基づき、土の色相、明度及び彩度を判定したものである。また、地層の粒度の記載に関しては、現地発掘調査において記録された図面を基にしている。
- 5 本報告書において復元している掘立柱建物については、現地発掘調査において記録された遺構略図等を基に作成しているが、本報告書刊行に伴い整理作業を実施した成果も一部反映している。
- 6 遺物実測図の断面は、須恵器を黒塗り、瓦器はアミ掛け、それ以外のものは白抜きで示した。
- 7 遺物観察表の法量記載における（ ）は推定復元值、△は残存値を示す。

- 8 本書における遺構、遺物の時期決定は以下の文献を主な参考としている。

平安学園考古学クラブ 1966 『陶邑古窯址群Ⅰ』

古代の土器研究会編 1992 『古代の土器Ⅰ 都城の土器集成』

古代の土器研究会編 1993 『古代の土器Ⅱ 都城の土器集成Ⅱ』

古代の土器研究会編 1994 『古代の土器Ⅲ 都城の土器集成Ⅲ』

中世土器研究会編 1995 『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社

茨木市教育委員会 2016 『宿久庄西遺跡Ⅰ』

# 目 次

## 序文

### 例言・凡例・目次

第Ⅰ章 調査の経緯 ..... 1

## 第Ⅱ章 調査の成果

第1節 SHW11-1の調査 ..... 3  
第2節 SHW94-1の調査 ..... 26  
第3節まとめ ..... 31

遺物観察表 ..... 33

## 写真図版

## 報告書抄録

## 挿図目次

図1 調査区位置図	図18 SD1出土遺物
図2 茨木市遺跡分布図	図19 SD1平面・断面図
図3 SHW11-1・94-1調査区配置図	図20 第1調査区包含層出土遺物(1)
図4 第1調査区東壁面図	図21 第1調査区包含層出土遺物(2)
図5 第1調査区遺構平面図	図22 第1調査区包含層出土遺物(3)
図6 S11・S12遺構平面・断面図 出土遺物	図23 第1調査区包含層出土遺物(4)
図7 SB1平面・断面図	図24 SP280遺構平面・断面図 出土遺物
図8 SB2平面・断面図	図25 第2調査区遺構平面図
図9 SB3平面・断面図	図26 SK341遺構平面・断面図 出土遺物
図10 SB4平面・断面図	図27 第2調査区包含層出土遺物
図11 SB5平面・断面図	図28 第3調査区遺構平面・壁面図
図12 SX1遺構平面・断面図 出土遺物	図29 第4調査区遺構平面・壁面図
図13 SK117遺構平面・断面図 出土遺物	図30 第5調査区遺構平面図
図14 SK211遺構平面・断面図 出土遺物	図31 SHW94-1出土遺物(1)
図15 SK247・SP213遺構断面図 出土遺物	図32 SHW94-1出土遺物(2)
図16 SK247・SP213遺構平面図	図33 SHW94-1出土遺物(3)
図17 SP10・SP118・SP256 平面・断面図 出土遺物	図34 SHW94-1出土遺物(4)
	図35 SHW94-1遺構平面状況図

## 表目次

表1 11-1区出土遺物観察表(1)	表6 11-1区出土遺物観察表(6)
表2 11-1区出土遺物観察表(2)	表7 11-1・94-1区出土遺物観察表
表3 11-1区出土遺物観察表(3)	表8 94-1区出土遺物観察表(2)
表4 11-1区出土遺物観察表(4)	表9 94-1区出土遺物観察表(3)
表5 11-1区出土遺物観察表(5)	表10 94-1区出土遺物観察表(4)

## 写真図版目次

PL.1	1. 11-1 第1調査区全景（北から）	PL.11	1. 11-1 第1調査区 包含層出土土器
	2. 11-1 第1調査区全景（南から）	PL.12	1. 11-1 第1調査区 包含層出土土器
	3. 11-1 第1調査区 S I 1・S I 2 （南から）		2. 11-1 第1調査区 包含層出土土器
PL.2	1. 11-1 第2調査区全景（東から）	PL.13	1. 11-1 第1調査区 包含層出土土器
	2. 11-1 第3調査区全景（北から）		2. 11-1 第1調査区 包含層出土土器
	3. 11-1 第4調査区全景（東から）	PL.14	1. 11-1 第1調査区 包含層出土土器
	4. 11-1 第5調査区全景（南から）		2. 11-1 第1調査区 包含層出土土器
	5. 94-1 調査区（東から）	PL.15	1. 11-1 第1調査区 包含層、 第2調査区 包含層、S P 280、 SK 341出土土器
PL.3	1. 11-1 第1調査区 S I 1・2、 S X 1・SK 211・SD 1出土土器	PL.16	1. 11-1 第1調査区 包含層出土土器
PL.4	1. 11-1 第1調査区 SD 1、 包含層出土土器		2. 11-1 第1調査区 包含層、 第2調査区 SK 341出土遺物
PL.5	1. 11-1 第1調査区 S X 1出土土器	PL.17	1. 94-1区 出土土器
	2. 11-1 第1調査区 S P 10・213、 SK 117・211・247出土土器	PL.18	1. 94-1区 出土土器
PL.6	1. 11-1 第1調査区 S P 118・256、 包含層出土土器	PL.19	1. 94-1区 出土土器
	2. 11-1 第1調査区 包含層出土土器	PL.20	1. 94-1区 出土土器
PL.7	1. 11-1 第1調査区 包含層出土土器		2. 94-1区 出土土器
	2. 11-1 第1調査区 包含層出土土器	PL.21	1. 94-1区 出土土器
PL.8	1. 11-1 第1調査区 包含層出土土器		2. 94-1区 出土土器
PL.9	1. 11-1 第1調査区 包含層出土土器	PL.22	1. 94-1区 出土土器
	2. 11-1 第1調査区 包含層出土土器	PL.23	1. 94-1区 出土土器
PL.10	1. 11-1 第1調査区 包含層出土土器	PL.24	1. 94-1区 出土土器
	2. 11-1 第1調査区 包含層出土土器	PL.25	1. 94-1区 出土土器
		PL.26	1. 94-1区 出土土器
			2. 94-1区 出土土器

# 第Ⅰ章 調査の経緯

## 1. 調査の経緯（図1）

本書において報告するのは、茨木市清水一丁目地内にある興和新薬株式会社の倉庫等建物建設に伴って提出された発掘届出による2件の本発掘調査の成果である（SHW 94-1、SHW 11-1）。

当該地は宿久庄西遺跡にあたり、既往の調査より古代の集落跡が検出されることが予想された。記録の残っているSHW 11-1の調査では、平成23年12月21日に発掘届出を受理し、確認調査の結果、遺構・遺物を確認したことから、本発掘調査を実施することとなった。調査の実施は、平成24年1月17日～3月26日まで行った。

なお、両地区ともに調査担当者は退職しており、現段階で確認できた記録を基本として整理作業を進めた。その中で、掘立柱建物の復元など調査担当者の観察が記録として確認できたものについては、できるだけその意向に沿う形で報告している。また、現地調査で記録された原図を使用する際にも、原則的に現地調査の記録をそのまま採用することにし、過度な修正や加筆は行わなかったため、一部詳細不明のまま報告しているものもある。いずれにしても、両調査区は同一敷地内で行われた本発掘調査であり、極めて関連性が深いと考えられることから、ここに併せて報告するものである。

## 2. 既往の調査と周辺の環境（図2）

これまでの宿久庄西遺跡の茨木市教育委員会による調査事例は、本書掲載の調査以外に、『宿久庄西遺跡1』〔茨木市教育委員会 2016〕にて報告している調査がある。また、〔財〕大阪府文化財センターが平成12年より3次に亘り実施している〔〔財〕大阪府文化財センター 2002〕。

歴史的・地理的環境の詳細については前述報告書〔茨木市教育委員会 2016〕に委ねるが、既往の調査を概観すると、概ね古代を中心とした展開が確認できる他、古墳時代末頃や中世段階の集落跡も散在的に確認できる。古代に該当する遺物として、円面硯・製塩土器をはじめ、鉄滓や輪の羽口といった生産関連遺物があり、公的な施設あるいは官人や有力氏族に関連した集落等、少なくとも一般的な集落と異なる性格が指摘されている。

当該地は、微視的には調査区北側を東流する勝尾寺川と南側を東流する箕川によって形成された河岸段丘上に位置していると言えるが、巨視的に捉えれば、老の坂山地から派生した茨木丘陵と、南に位置する千里丘陵北縁部の間に位置する谷間状の地形を呈する。そのため、当該地周辺は北側と南側の両方向に傾斜地を持つ特徴がある。近年では、国道171号線沿いの開発や、西側に位置する大阪モノレール「豊川駅」付近の開発によって、明治期までにみられた地割はほとんど失われているが、一步離れると自然豊かな田園風景が広がる。



図1 調査区位置図

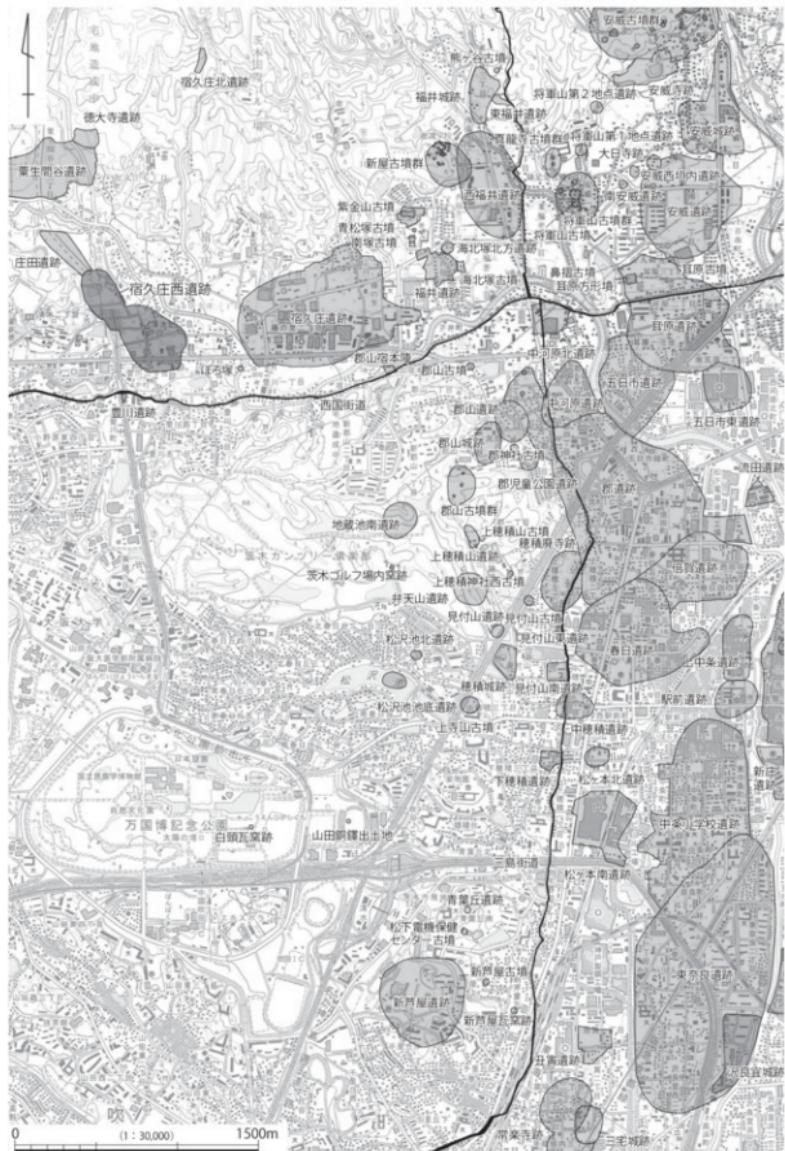


図2 茨木市遺跡分布図

## 第II章 調査の成果

### 第1節 SHW11-1 の調査

#### 1. はじめに（図3）

当調査区（SHW11-1）は、興和新薬株式会社の倉庫建設に伴う調査である。第2節で報告するSHW94-1も同敷地内の案件であり、両調査区の成果は、密接に関連するものと考えられる。

届出のあった計画によれば、建物基礎工事等に伴う掘削箇所は、5つに分けられる。そのため便宜上、第1調査区から第5調査区に振り分けて調査を行った。遺構番号については、全調査区の通し番号とし、内業整理を経てSD、SK等の記号を付与している。なお、第5調査区については、遺構断面図の記録から遺構番号が与えられていることが確認できるが、遺構と番号を対応させる図面を確認することができなかった。

また、SHW94-1については、各遺構番号等と出土遺物の照合をとれなかつたため、当調査区を理解する上で、補足的な資料として取り扱うこととする。



図3 SHW11-1・94-1調査区配置図

#### 2. 第1調査区

##### （1）基本層序（図4・図5）

第1調査区の西側は後世の擾乱により破壊を受け、調査区断面はすべて擾乱である。また、東側壁面の南側についても、後世の擾乱により破壊を受けているため断面観察はできなかつたが、遺構面については、破壊を受けずに残存していた。

基本的な層序としては、上層から1層 現代盛土（層厚約25cm）、2層 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土を主体とし 2.5Y4/1 黄灰色粘質土が混じる整地土（層厚約10cm）、3層は包含層（層厚約5cm）であり、3層を除去後、10YR5/6 黄褐色粘質土～10YR7/6 明黄褐色粘質土で構成される地山となる。今次調査区で検出した遺構は、すべて地山上面である。

なお、現地調査で記録されていた調査区壁面図の原図では、3層の土層観察による土色注記に、「10YR10/2 褐色粘質土マンガン多く含む」と記載されている。しかしながら、「新版 標準土色帖」には10YRには10/2という土色はない。また、褐色という土色についても、10YR4/4・4/6、または7.5YR4/3・4/4・4/6のいずれかであり、土色番号もしくは色名のいずれかの記載に誤りがあると思われるが、ここでは判断できない。ただし、写真等の記録を見る限りでは、褐色系の土色を呈することや、調査担当者の「3層が遺物包含層である」という見解に異論はない。よって、本報告書では土色・土質に拘わらず、3層が「地山直上に堆積した遺物包含層である」という層位解釈を引き継ぐことにする。

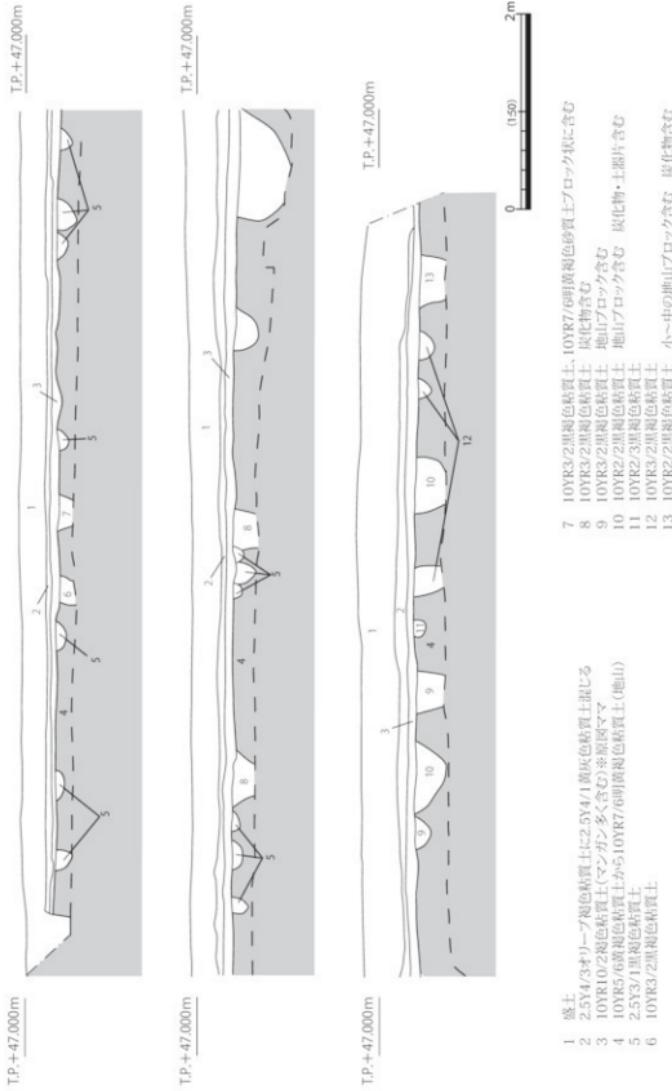


図 4 第1調査区東壁面図

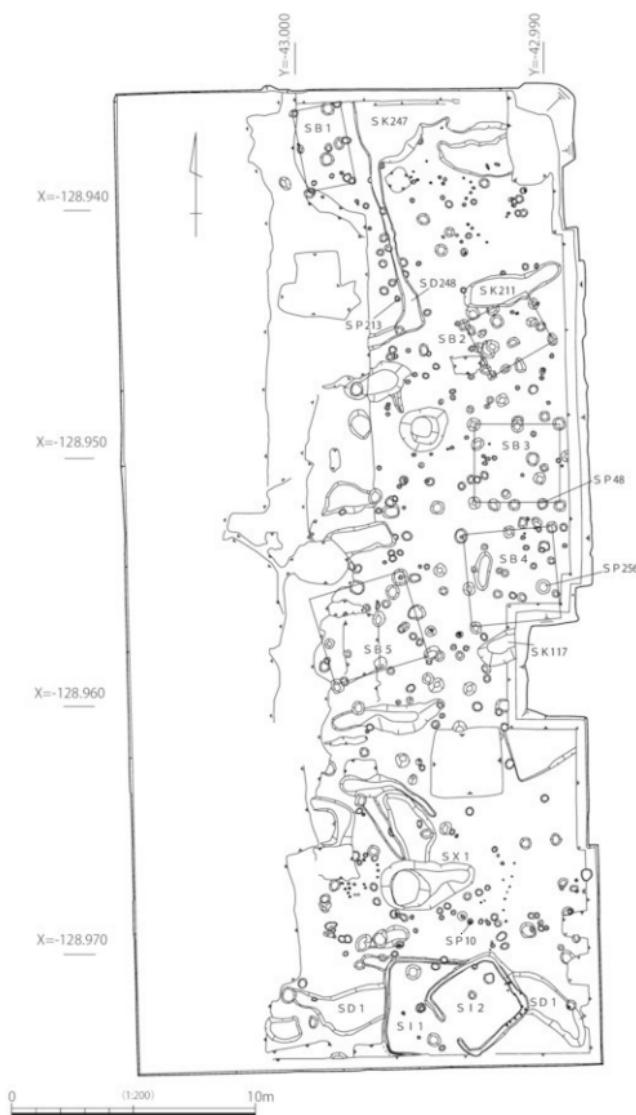


図5 第1調査区遺構平面図

## (2) 遺構と遺物

## 竪穴建物

S I 1 (図6・PL. 1) 調査区東端で検出した。後述するS I 2に切られている。また、南側は調査区外へ続くため、全容は不明であるが、推定規模南北軸4m、東西軸約4mの正方形を呈するものと考えられる。図6に図示した遺構断面図は南北方向の断面であるが、どのラインで図化されたものであるか記録がないため、詳細は不明である。また、現地にて記録された遺構略図には、「炉」と記載された箇所がある。遺構平面図には、その位置が示されていないため、遺構略図から推察した位置を図示している。竪であった可能性が高い。出土遺物としては、須恵器壺蓋(1)が挙げられる。1は復元口径13.1cm、器高4.4cmを測る。やや丸みをおびた天井部にはわずかに回転ヘラケズリが認められ、ヘラ記

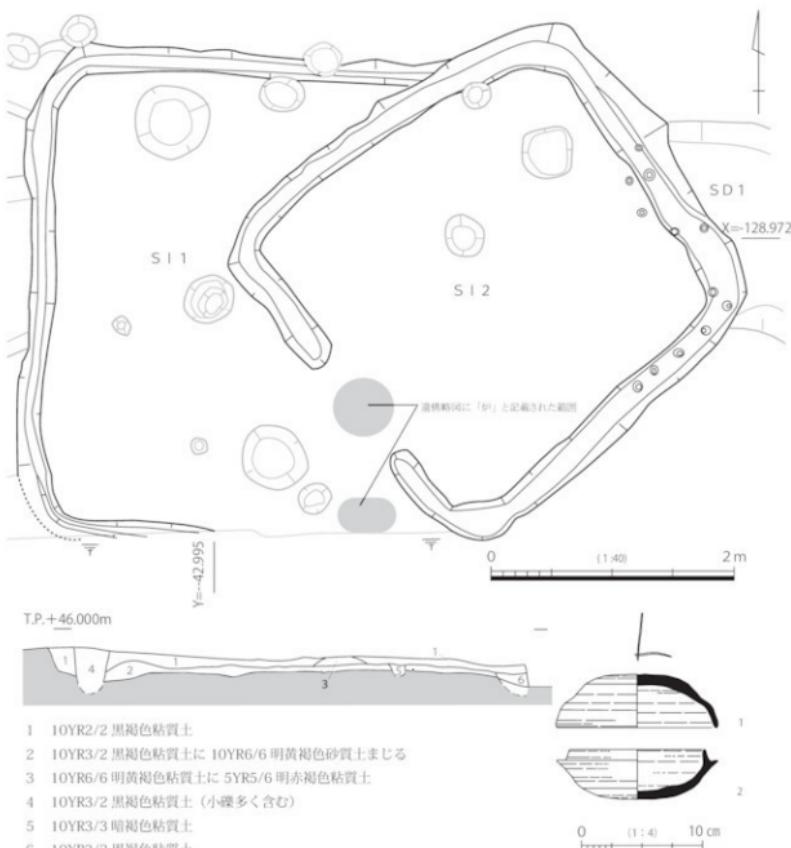
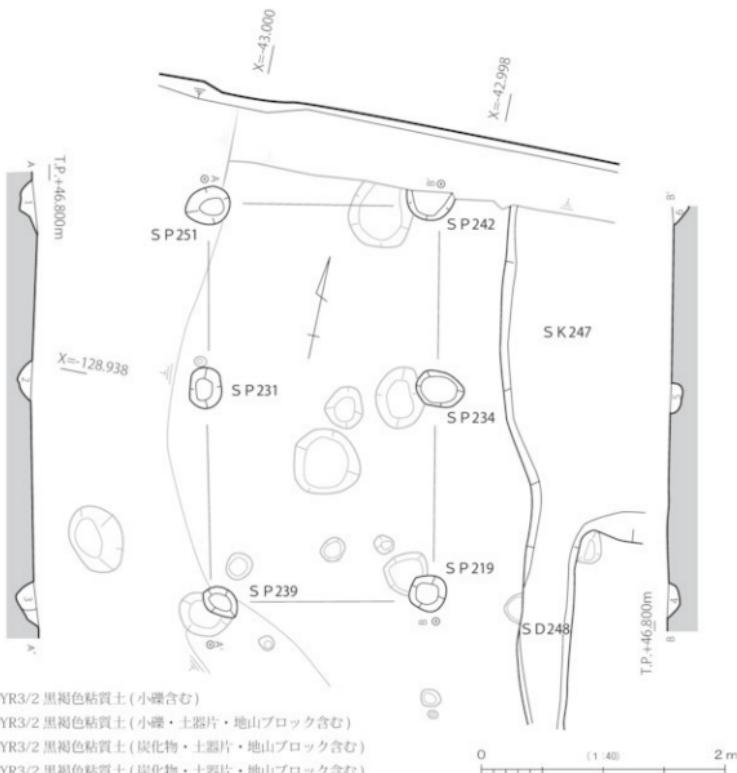


図6 S I 1・S I 2遺構平面・断面図 出土遺物



- 1 10YR3/2 黒褐色粘質土(小礫含む)
- 2 10YR3/2 黒褐色粘質土(小礫・土器片・地山ブロック含む)
- 3 10YR3/2 黒褐色粘質土(炭化物・土器片・地山ブロック含む)
- 4 10YR3/2 黒褐色粘質土(炭化物・土器片・地山ブロック含む)
- 5 10YR3/1 黒褐色粘質土(小礫・炭化物含む)
- 6 10YR3/1 黒褐色粘質土(小礫・炭化物含む)

図7 SB 1平面・断面図

号が認められる。T K 43～209型式に相当し6世紀後半頃に位置づけられる。その他、細片のため図示はできなかったが、土師器も出土している。

S 12 (図6・PL. 1) S 11同様、調査区南端で検出し、切り合いの関係からS 11より後出するものである。全形として、1辺約3.4mのほぼ正方形を呈し、南西の一部は壁溝が途切れている。遺構略図に記された「炉」の位置と合わせると竈であった可能性が高い。出土遺物として、須恵器坏身(2)が挙げられる。復元口径11.1cm、器高4.1cmを呈し、たちあがりはやや内傾しながらも上方にたちあがる。口径が小さいながらも、器高は高いプロポーションを維持しており、M T 85～T K 43型式頃、6世紀中頃から後半頃の所産と考えられる。

各出土遺物の下限を採用した場合、遺構の新旧関係と、図示し得た遺物の所属時期が逆転するという矛盾が生じる。2の取り上げ記録には、S 12側溝から貼床と明記されており、この記録を積極的に

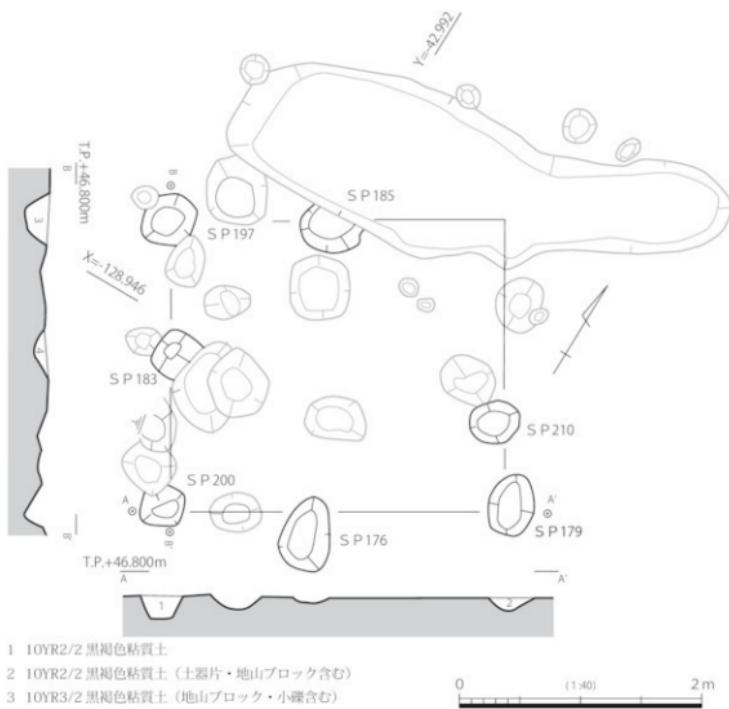


図8 S B 2平面・断面図

評価するにすれば、この竪穴建物構築時期に限りなく近いものとして捉えられる。その他の遺物として、土師器が挙げられるが、細片のため図示することはできなかった。現段階では2の环身をもって時期を決定するほかない、この場合、S I についてはさらに時期を遡らせる必要がある。いずれにしても、『宿久庄西遺跡1』で報告した S HW 15-1 調査区検出の飛鳥I期とされた竪穴建物よりも古い段階に位置付けられよう。

#### 掘立柱建物

S B 1 (図7) 調査区北側で検出した。遺構の西側と南側が搅乱によって削平を受けており、北側は調査区外へと続くため、全体的な規模は不明である。検出した規模は南北方向2間(3.6m)×東西方向1間(1.8m)、柱間は約1.5m~1.8mである。他の掘立柱建物と比べると柱穴の規模はやや小さく感じられる。出土遺物はS P 234から須恵器細片が出土しているが、器種・時期ともに不明である。このS B 1と軸を同じくし、隣接するS D 248は南方で西側方向に屈曲するL字の溝であり区画溝と考えられる。S D 248は、北側でS K 247に接している。S D 248とS K 247の新旧関係は不明だが、両遺構出土遺物で最も新しい時期を示すものは、瓦器椀片である。各遺構とも明確に時期を特定できる

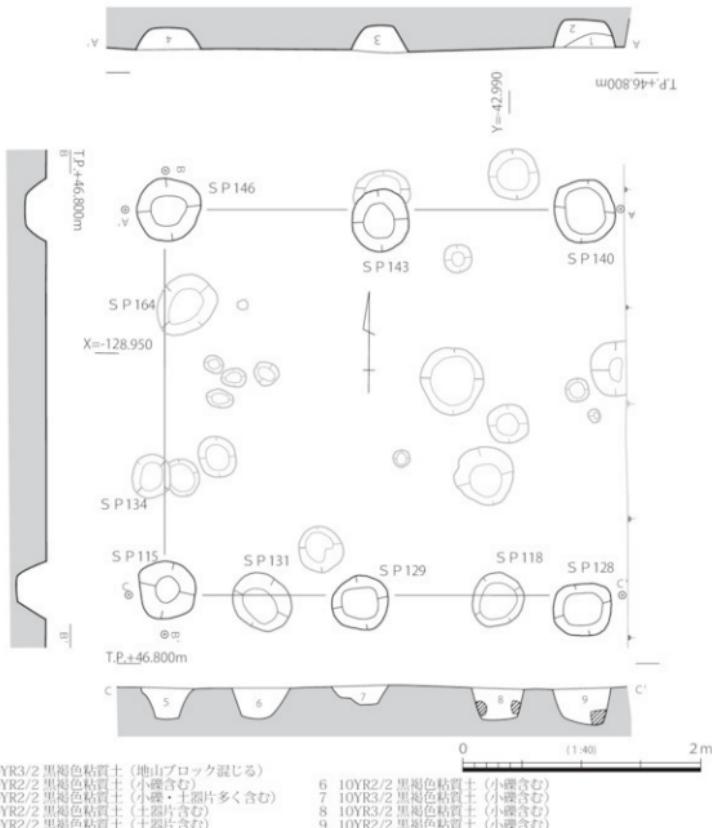


図9 SB 3平面・断面図

材料に欠けるが、ここでは、SB 1・SD 248・SK 247ともに中世段階の可能性のみ指摘しておきたい。

SB 2(図8) 調査区北東に位置する。一部の柱穴はSK 211に切られており、北側隣に存在したであろう柱穴は消滅している。規模は北西方向2間(2.4m)×南東方向2間(2.8m)である。柱間は1.2m~1.6mを測る。各柱穴の全形は、やや不正形な円形を呈するが、SP 200のように隅丸方形ともとれる形のものもある。出土遺物はSP 179から土師器の壺と思われる細片が出土しているが、いずれも細片のため図示できず、詳細な時期は不明だが、古代の範疇で取まるものと考えられる。

SB 3(図9) 調査区中央やや東側で検出した。東側は調査区外へと延びるため、全体的な規模は不明だが、検出した規模は南北方向1間(3.2m)×東西方向2間(3.5m)である。柱間は南北方向約3.2

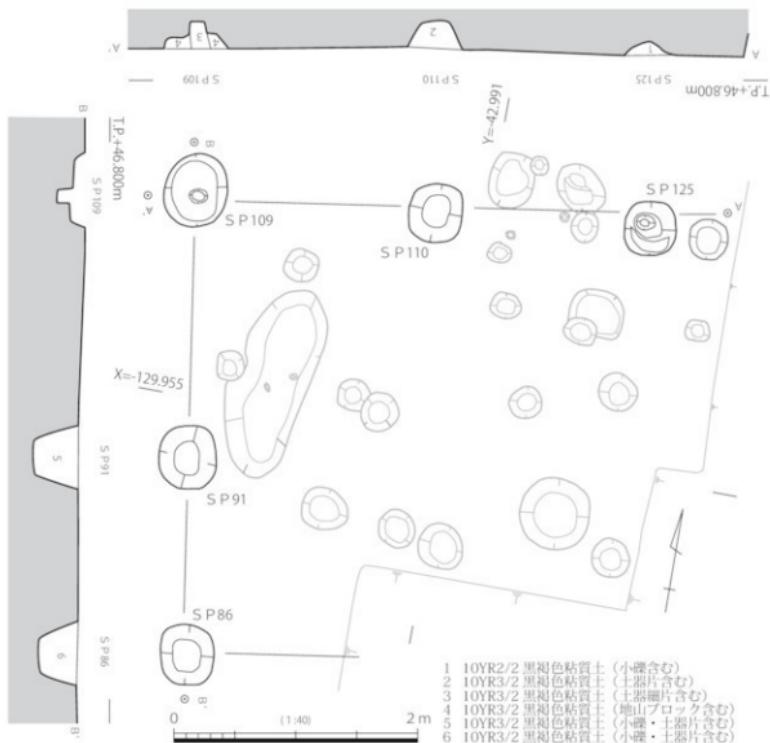


図 10 SB 4平面・断面図

m、東西方向約1.6m～1.8mを測る。いずれの柱穴からも時期の特定できる出土遺物は認められず、建物の所属時期は不明であるが、前述した竪穴建物S I 1と同軸方向であることを積極的に評価すれば、古墳時代後期と捉えることも可能であろう。

SB 4(図10) 調査区ほぼ中央東側で検出した。規模は南北2間(3.8m)×東西2間(3.7m)である。建物の東側と南側の一部は調査区外となり、特に東側へはさらに延びる可能性がある。柱間は南北方向1.6m～2.2m、東西方向1.8m～2mを測る。出土遺物はSP 86から須恵器片、SP 91から土師器片、SP 110から土師器片と須恵器片が挙げられる。いずれも細片のため図示できず、詳細な時期は不明であるが、土師器は壺と考えられる細片で古代の所産と考えられる。

SB 5(図11) 調査区ほぼ中央付近で検出した。西側は搅乱により削平を受けているため、本来北西隅にあったと考えられる柱穴は消滅している。検出した規模は、南北方向2間(3.4m)×東西方向2間(4m)である。柱間は1.4m～2mを測る。SP 103は柱根が残っていた。

遺物はSP 98から須恵器片と土師器片が出土したが、細片のため時期の特定は困難である。各柱穴の全形は、圓丸方形がやや崩れた楕円形状を呈しており、他の掘立柱建物を構成する柱穴よりもやや大

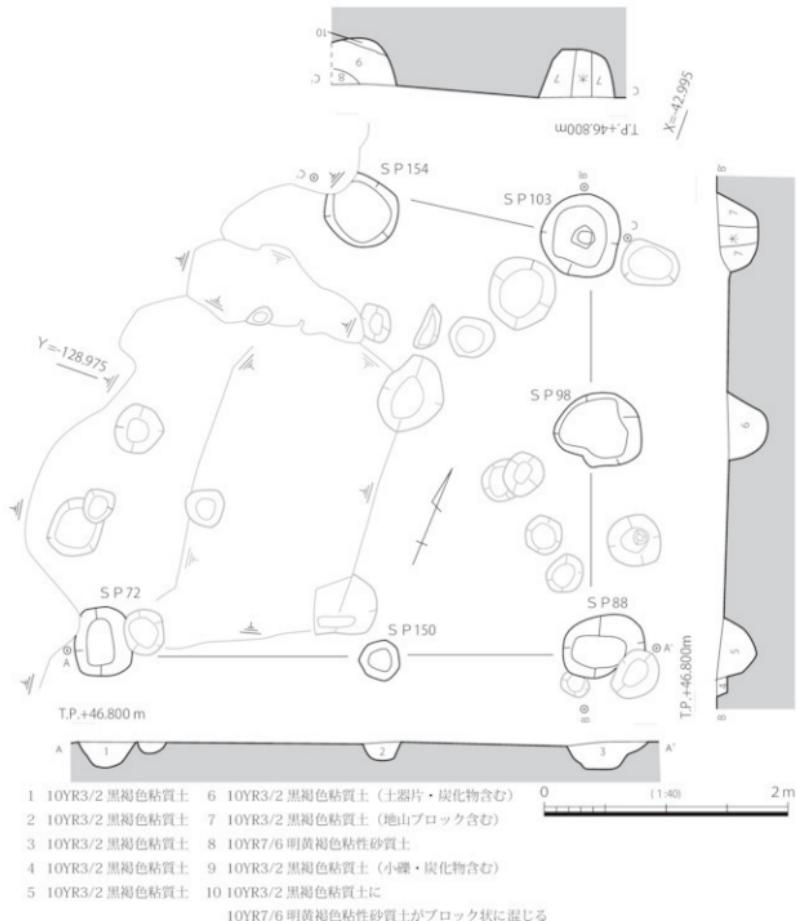


図 11 SB 5 平面・断面図

きいのが特徴である。

#### その他の遺構

S X 1 (図 12) 調査区の南側で検出した。規模は長軸が東西幅約 3.8m、短軸南北幅約 2 m を測る。西側は一段下がって深くなり、独立したピット状を呈するが、遺構の切り合い等は不明である。断面観察は、遺構のほぼ中央で南北方向の観察を行った。1 層および 2 層には炭化物が含まれており、特に 2 層には約 20cm 台の礫が多く含まれている。3 層は黒褐色粘質土、4 層には 3 層に加え、地山土と同様の明黄褐色粘性砂質土が含まれており、開口時に肩部が削れた状況を呈する。礫が敷き詰められた 2 層

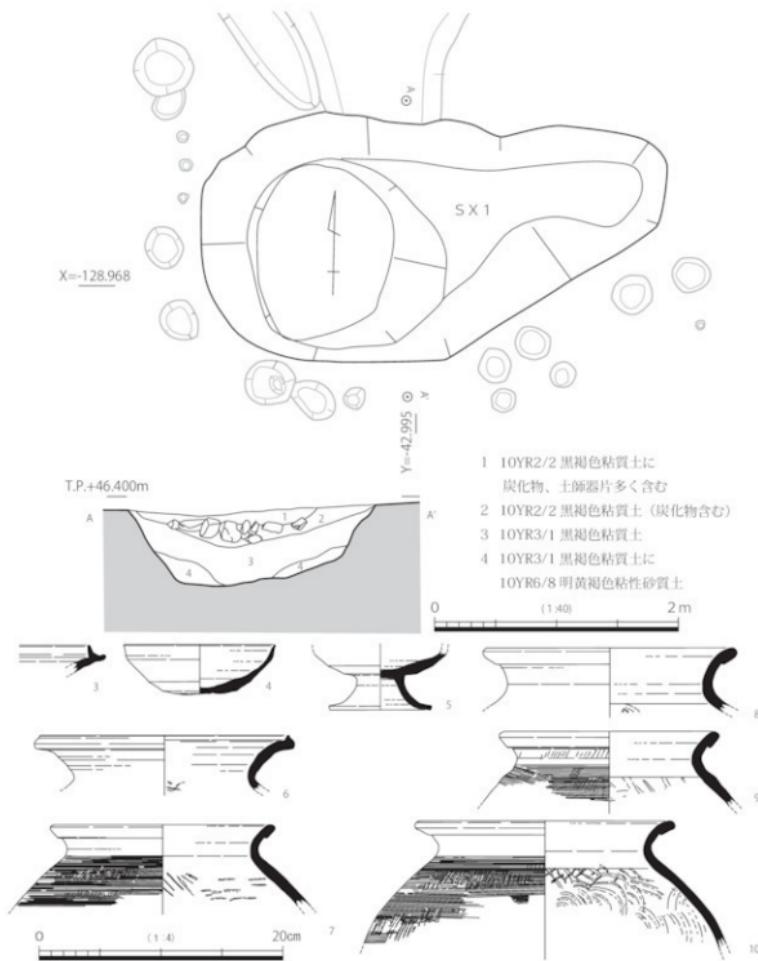


図 12 SX1 遺構平面・断面図 出土遺物

の状況を加味すると、遺構掘削時期から3層埋没時期までと、3層上面が遺構下面として認識された時期から1層まで埋没した時期の2段階の埋没時期を考えられる。

図示できた遺物として、3～10が挙げられる。いずれも須恵器で、3・4は环身、5は高環、7～10は甕である。3は口縁部のみが残存している。残存率が悪いため、口径の復元はできなかった。口縁の立ち上がりはゆるやかに湾曲しながら内傾し、端部は丸く收める。TK 43～TK 209型式に相当し、6世紀後半の所産と考えられる。4は復元口径 12.3cm、器高 4.15cmを測る。下部 1/3 に回転へ

ラケズリが施されている。TK 209～TK 217型式に相当し、6世紀末頃から7世紀初頭にかけての所産と考えられる。4は、环身とも蓋とも取れるプロポーションを呈し、器高がやや高い観もある。しかしながら、同時期の环蓋に施される回転ヘラケズリが、天井部のわずかな範囲にみられる傾向や、当資料の底部が比較的平坦に施されている特徴を評価し环身とした。5は体部から口縁部にかけて欠損している。脚の裾部は外反し、端部を丸く收める。6世紀末から7世紀初頭頃の所産と考えられる。6～10は甕である。いずれも頸部から口縁部にかけて短く緩やかに外反する。6は口縁端部付近でつまりあげ上方に伸びる。7～10は口縁部は端部を折り曲げ外方に肥厚する。体部は平行タタキのちカキ目が施される。10の内面には同心円状タタキが残る。所属時期は、先述した各遺物と同様に6世紀末から7世紀初頭に類すると考えられるが、6については、やや古い段階の様相をもつ。

S K 117（図13）調査区中央の東側壁付近で検出した。遺構は調査区外へと続くため全容は不明であり、溝状の遺構になる可能性もあるが、ここでは土坑として報告する。検出した規模は、東西軸約1.6m、南北幅1.3mである。埋土は1層で黒褐色粘質土である。図化できた出土遺物として、11が挙げられる。底部から脚もしくは高台にかけてが残存している。脚付きの壺等が考えられるが、器種・所属時期は不明である。

S K 211（図14）調査区の北側で検出した。先述したS B 2を構成する柱穴を切っている。長軸が東西方向約4.2m、短軸が南北方向1.2mを呈する。埋土は黒褐色粘質土を主体としているが、肩部下方付近は、地山土と思われる黄褐色粘質土が含まれる層（2層）に分けられる。

図示できた遺物として、12～16が挙げられる。12は土師器の皿で、ほぼ完形で出土した。口径23.6cm、器高4.2cmを測る。13は須恵器の环蓋である。復元口径は10.2cm、器高は3.2cmを測る。外面は口縁部から体部にかけてナデ調整が施され、天井部は回転ヘラケズリの後、丁寧なナデ調整が施されている。内面は回転ナデが施されており、口縁部やや先が細くなり、端部を丸く收める。内面に自然釉が認められ、窯内の置き方にもよるが、蓋ではなく身の可能性も否定できない。14は須恵器の环身としたが、口縁端部は先細りしており、蓋の可能性もある。15は器種不明の土師質の把手である。断面は楕円形を呈する。接合部と先端部が欠損しているため、詳細は不明だが、やや上方に伸びるようである。16は土師器の甕である。復元口径23.1cm、残存高4.2cmを測る。口縁は外反しながら斜め上方に伸びる。外面は縦方向のハケが施され、内面は屈曲部のやや下に横方向のハケが認められる。以上のように所属時期にややばらつきがみられ、図化できなかった遺物についても同様のことと言えるが、下限でいえば土師

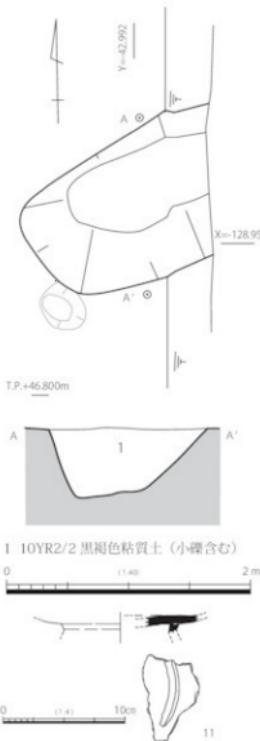


図13 S K 117 遺構平面・断面図 出土遺物

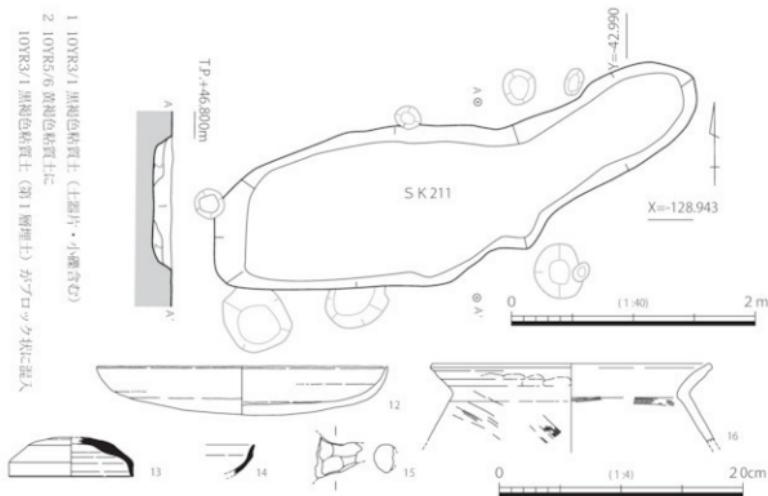


図14 SK 211 遺構平面・断面図 出土遺物

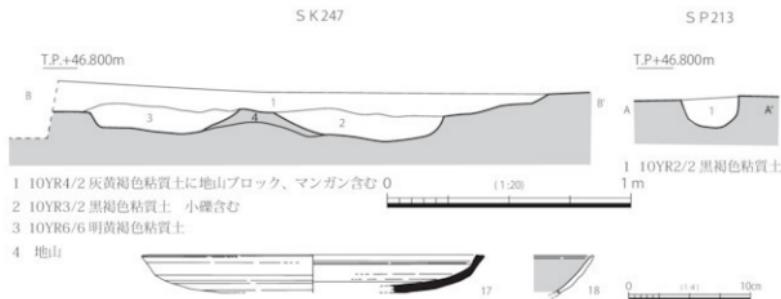


図15 SK 247・SP 213 遺構断面図 出土遺物

器の皿や甕から、おおまかに8世紀代と捉えられるであろう。

SK 247 (図16) 調査区北側で検出した。検出した平面形は不定形であり、南側に伸びるSD 248との切り合い関係は不明であるものの、遺構西側の掘方ラインはSD 248の掘方の可能性もある。遺構の全形についても、調査区北・東側両方に続く。断面の観察では、2層と3層が遺構中央で掘方が上がる形状となるため、それぞれ単独の遺構のように見て取れる。3層の埋土は明黄褐色を呈し、付近で検出した地山と同様の色調を呈しており、埋戻し土の可能性もある。また、1層の埋土はSD 248の埋土と同様の灰黄褐色粘質土であり、他のほとんどの遺構埋土が黒褐色系であること、後述する出土遺物を加味すると、最終埋没時期はこれまで述べてきた各遺構より、新しい段階のものと考えられる。出土遺物としては、17が挙げられる。17は須恵器の皿である。復元口径26.8cm、器高3.1cmを測る。8世紀代の所産と考えられる。しかし、図化できなかったものを見ると、黑色土器A類楕、瓦器楕など

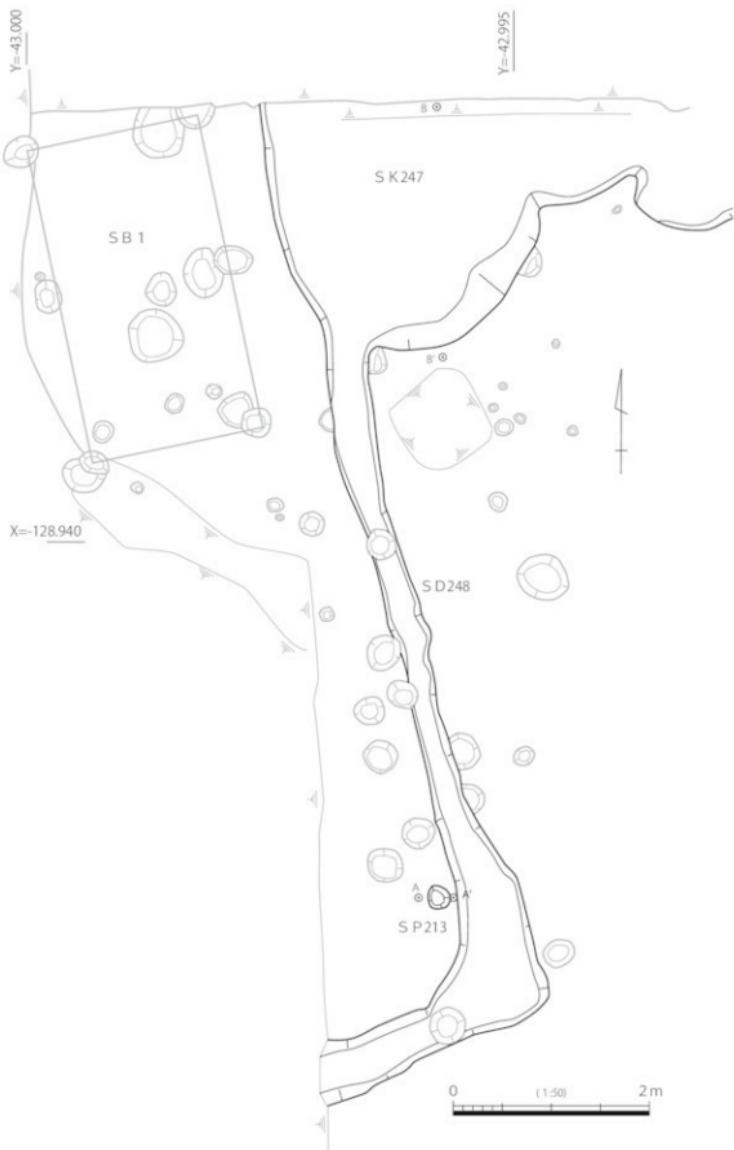


図 16 SK 247・SP 213 遺構平面図

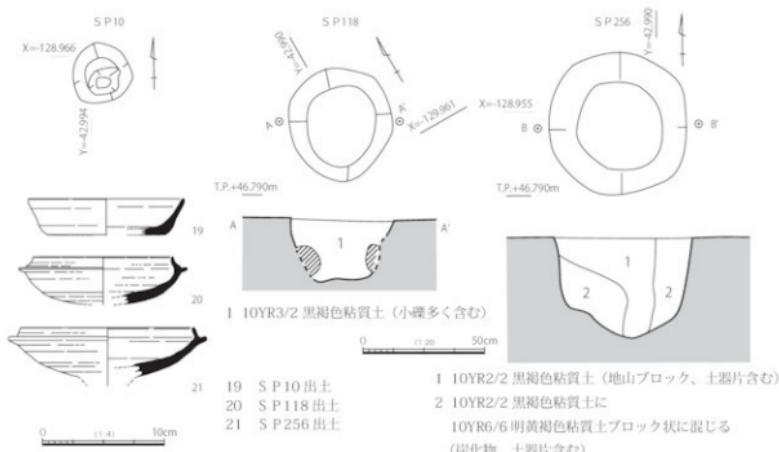


図 17 S P 10・S P 118・S P 256 平面・断面図 出土遺物

が挙げられ、埋没時期は中世段階と考えられる。

S P 213(図16) S D 248が西側に折れ曲がる付近で検出した。平面形は直径約20cmの円形を呈し、深度は約10cmを測る。埋土は黒褐色粘質土である。出土遺物として、黒色土器A類碗(18)が挙げられる。18は細片のため、口縁等の復元は困難であるが、口縁部付近内面に沈線が認められる。内外面のヘラミガキは、摩耗が著しいため確認できない。10世紀前半頃の所産である。

S P 10(図17) 調査区の南側、竪穴建物(S I 1・S I 2)の北側で検出した。検出幅25cmの円形を呈する。深度及び埋土については、現地調査の際に記録されたであろう遺構断面図を確認することができなかつたため不明である。出土遺物として須恵器の環(19)が挙げられる。復元口径12.8cm、器高3cmを測る。内外面ともナデが施されており、底部はヘラケズリがみられる。8世紀前半頃の所産と考えられる。

S P 118(図17) 調査区の東側で検出した。幅約45cm、深度約25cmを測る。S P 131とともに、先述したS B 3を構成する柱間にあり、関連する可能性がある。また、後述するS P 256は、S P 131とほぼ同軸上の南に位置するため、両遺構が同一の掘立柱建物を構成する可能性もある。出土した遺物として須恵器環(20)が挙げられる。復元口径11.4cm、器高3.9cmを測る。口縁は内傾気味にたちあがり、端部は丸く收める。S I 2で出土した須恵器環と同時期のものでMT 85～TK 43型式、6世紀中後半の所産と思われる。いずれも口径の縮小傾向が見て取れる段階でありながら、やや器高が高いイメージを持つ。

S P 256(図17) 調査区の中央付近東側で検出した。幅約60cm、深さ約40cmの円形を呈する。1層は検出面に向かって垂直に上がるラインと、肩部に向かって緩やかに上がるラインの傾向や、埋土に地山ブロックが含まれる様相から柱抜き取りの痕跡であると思われる。出土遺物として、須恵器の高环(21)が挙げられる。復元口径14.2cm、残存高4cmを測る。

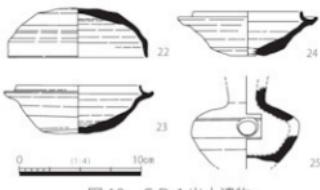


図 18 SD 1 出土遺物

SD 1(図19) 調査区の南側で検出した。先述した竪穴建物(SI 1・SI 2)に切られている。検出した規模は、東西方向約12m、南北幅約2mを測る。深さは確認できた断面図による深度で約20cmである。溝の東端は調査区隅で掘方が上がり、西側はピットや搅乱によって破壊を受けているため、全容を把握することは困難であるが、本来の遺構面が検出した地山面よりも上部であることを想定し、溝の下端のみを検出したものとして考えれば、調査区を横断する溝であったものと考えられる。

図示できた遺物として、須恵器の坏蓋(22)、坏身(23・24)、ハソウ(25)が挙げられる。22は復元口径11.25cm、器高4.05cmを測る。口縁は下方に伸び、端部はやや鋭い。天井部は丸みを帯び、回転ヘラケズリが認められる。外面全体にはナデが施される。23は復元口径10.1cm、器高4cm、24は復元口径9cm、器高3.5cmを測る。ともに口縁は内傾しながら上方に伸び、端部は丸く収め、受け部から口縁にかけての短さや内傾度合から、TK 209～TK 217型式を想定できるが、同時期の資料としては、口径の割に器高が高い観がある。25は口縁、底部とも欠損しており、肩部から体部にかけての資料である。腹径は8.8cmを測る。肩部付近に沈線が1条めぐる。

### (3) 包含層出土遺物(図20)

第1調査区の包含層から出土した遺物は、SHW 11-1調査区から出土した遺物の大半を占めている。現地調査段階で記載された注記を確認すると、第1調査区包含層の中でも、「包含層掘削・機械掘削」



図 19 SD 1 平面・断面図

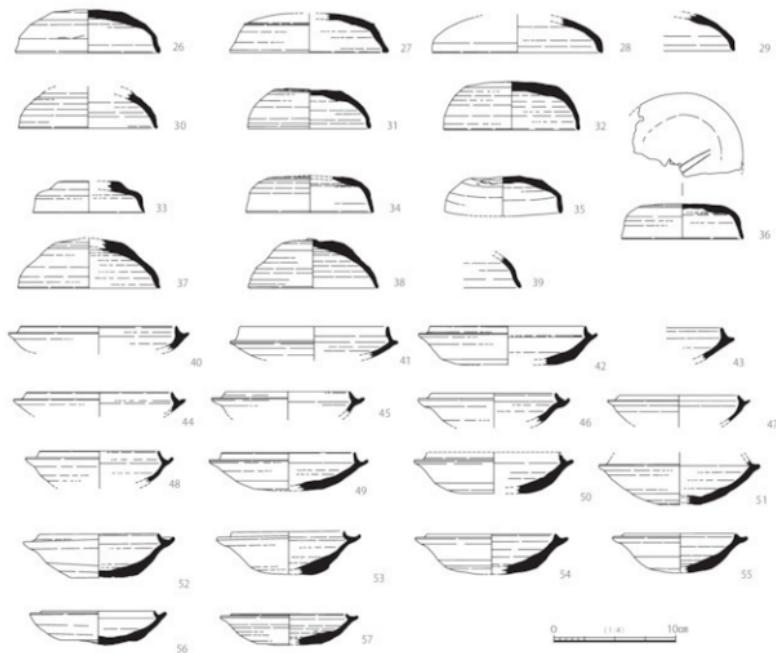


図 20 第1調査区包含層出土遺物（1）

等と記されたもの他に、「中央・南側」等の場所を記すもの、「上面・上層・下層・I層」等包含層中の層位を記すものがみられた。ただし、先述したように調査区壁面図に記載された包含層は1層のみであり、また、取り上げ場所についても、「調査区中央」等場所が記載されたものと、「包含層掘削」あるいは「包含層上面」とのみ記載されたものとは場所・層位ともに明確な差異を言及できない。

調査段階では担当者の意図があった可能性はあるが、本報告では「包含層」と記載されたすべてを同一の包含層と認識して報告することにする。

26～39は須恵器環口蓋である。口径・器高、天井部の様相から大きく3つに分けられる。26～29は口径11cm～12cm、器高はおむね3.5cm程度を測り、天井部は丸みを帯びる。26には回転ヘラケズリが認められる。30～36は口径10cm前後、器高は3cm前後となり、26～29の蓋よりも小型化する。32のように天井部が丸みを帯びるものもあるが、大半は扁平となる。天井部に回転ヘラケズリが認められるものは、32と36である。36の天井部には線刻が認められる。37～39は口径10cm前后を測り、口径のみをみれば30～36と大差ないが、器高が4cm程を測り、口径の割に高い観がある。37の天井部には回転ヘラケズリが施されるが、それ以外にはみられない。また、形状の特徴として天井部が先細りとなる。いずれの資料も口縁端部は丸く收まり、直下に伸びるものも32や35など一部に認められるが、大半は緩やかに外反する特徴をもつ。

40～57は須恵器環口身である。40～44は口径約12～13cmを測り、器高については42以外に

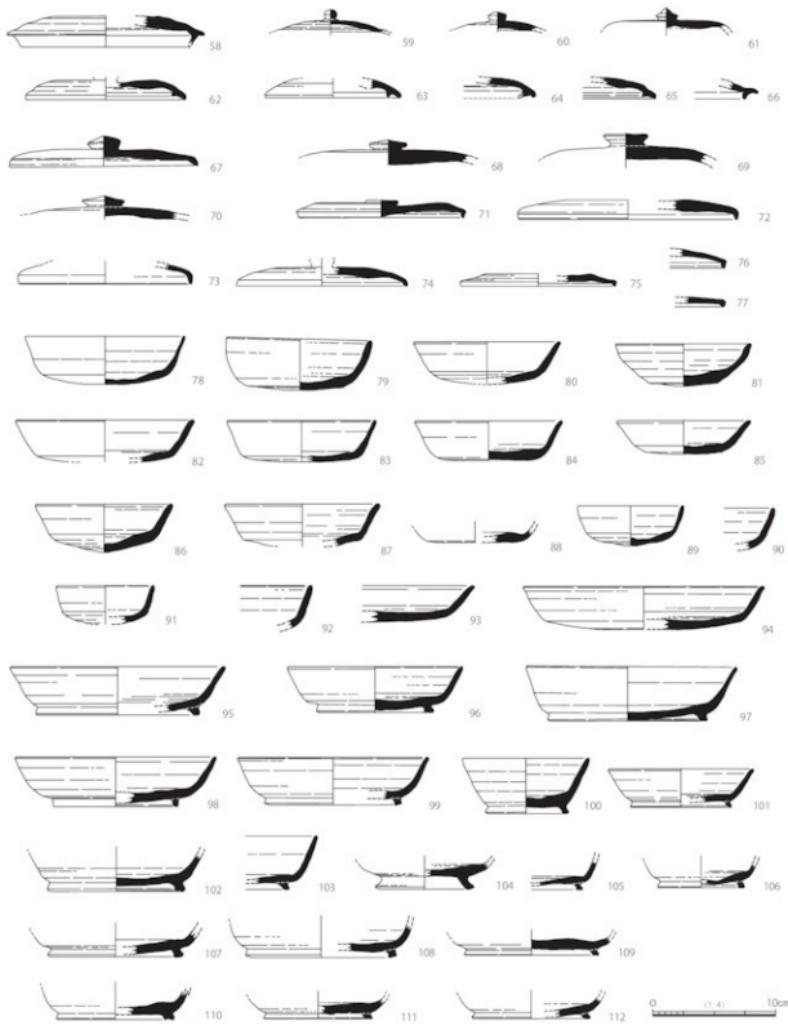


図21 第1調査区包含層出土遺物（2）

推定できるものはないが、3cm前後になるものと思われる。口縁端部は丸く收め、やや内傾気味に立ち上がる。41は口縁が長く上方に立ち上がるものである。42は底部の状況がわずかに確認でき、回転ヘラケズリが認められる。45～51は口径10cm前後、器高は49で3.1cm、50で3.4cmを測る。先述の40～44と比較し、器高はほぼ同じ高さであるが、口径が小さくなる。52～57は口径9cm～10cm前

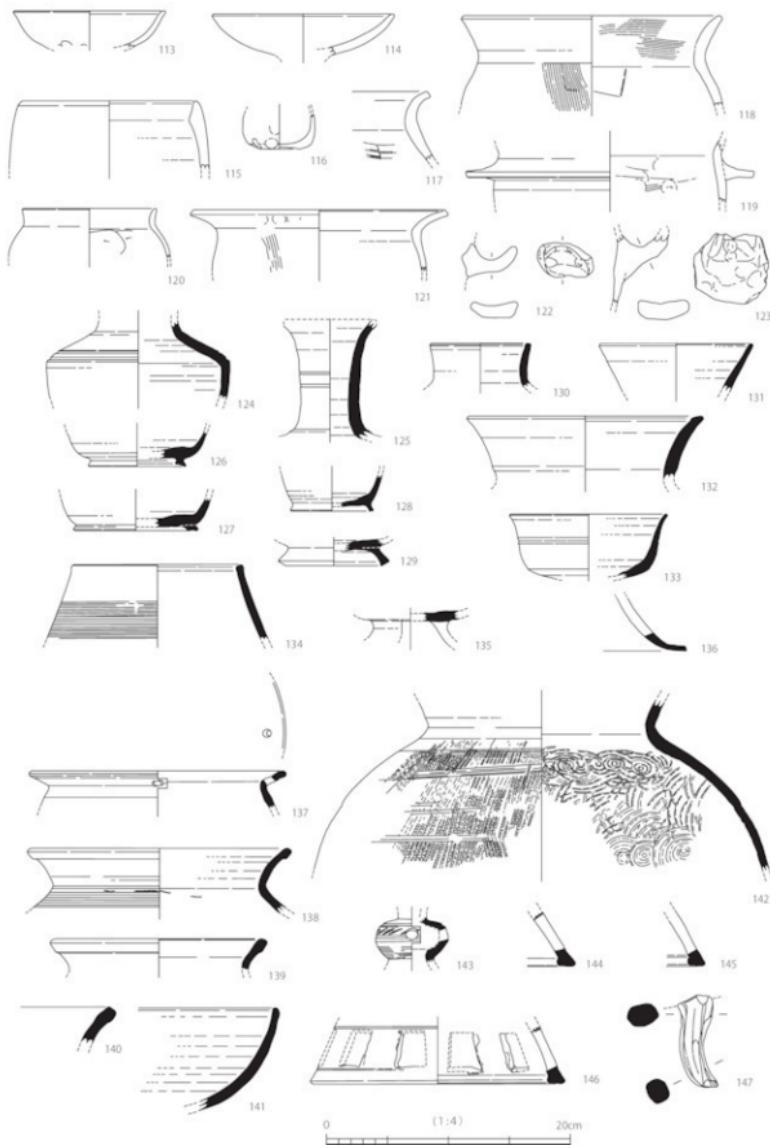


図 22 第1調査区包含層出土遺物（3）

半、器高は 52 ~ 55 の 3cm ~ 4 cm を測るような口径に対し器高が高いものと、56 ~ 57 のように 2 cm 台となるやや扁平なイメージのものに分かれるが、口縁の立ち上がりが短く、先に示した資料よりも内傾し、受け部は口縁と比較し長く上方に伸びるものが多く、結果的に口縁端部と受け部に差がみられるくなる点が共通する。

これらの資料の中で、32 や 41 は他資料よりもやや古いタイプのものとして評価することができ、TK 43 型式、他の資料は TK 209 ~ TK 217 型式に該当するものと考えられ、6 世紀後半から 7 世紀初頭に位置付けられる。

図 21 で示した 58 ~ 77 は須恵器環 B 盖である。58 は口縁端部が欠損しており、口縁部の詳細については不明で、环身の可能性もある。しかし、先に示した环身の口径と比較し大きいこと、口径と比較し器高が低いことから蓋とした。59 ~ 61 は宝珠つまみ、67 ~ 71 は扁平化し形骸化した宝珠つまみがつく。62 ~ 66 の蓋には、かえりがわずかに認められ、67 ~ 71・73 ~ 77 の蓋はかえりが消滅し短く下方に伸びる。78 ~ 112 は須恵器環 B・G の身である。78 ~ 80 は蓋として捉えても違和感のないものである。しかし、口径が 12cm を超え、器高も 4 cm を測るなど、先に示した环 H 盖と比較すると大きい。また、法量的にそれらの資料と合わせるであろう环身の資料がほとんどみられないことなどから、ここでは环身とした。ただし、环 Hにおいてもみられたように、口径に対して器高が高いプロポーションをもつ資料が認められることから、本報告書に記載した資料以外も含め検討が必要であろう。89 や 91 は口径 10cm にも満たない資料でありながら、器高が 4 cm を測り、口径に対して器高が高いイメージである。

95 ~ 112 は环 B 身である。95 や 98 など高台から斜め上方に緩やかに伸び、体部へと続くタイプが大半を占めるが、103 のように高台が八の字形で踏ん張り、高台から水平に伸びた後、明瞭な角をもって屈曲し、直線的に口縁に至る形状は、これら資料の中ではやや新しい要素のものである。

以上、図 21 で示した資料は、蓋・身が逆転する可能性があるものもあるが、概ね 7 世紀代、103 のようなやや新しい時期のものを踏まえても 7 世紀 ~ 8 世紀前半頃までの範疇で収まるものである。

113 は土師器の环である。口径 12.3cm、器高は残存高で 3.15cm を測る。外面は指頭圧痕がわずかにみられ、内面はミガキが認められる。

114 は土師器の高环である。口径は 14.8cm を測る。内外面とも摩耗が著しいため詳細は不明である。

115 は土師質器種不明品である。口縁部内側に面をもち、やや内傾しながら立ち上がる。類似する形態的特徴のものとして陶邑古窯址群 TK 41 号窯から出土した鉢とされるものがあり、TK 217 型式併行期とされる。この資料は土師質のものであるが、当調査区出土遺物には、形態的に須恵器と思われるものでも、いわゆる生焼けとは異なって土師質を呈する資料が少なからず見受けられ、この資料も本来は須恵器として作成された可能性もある。

116 は土師器の壺底部、117・118・121 は土師器の甕、土師器の羽釜、120 は土師器の壺である。122・123 は器種不明土師器の把手である。断面形状は扁平な梢円を呈する。

124 ~ 132 は須恵器の壺である。124 は体部から肩部を経て頸部に伸びるところで欠損している。125 は頸部から口縁にかけての資料であるが、口縁端部は欠損している。126 ~ 129 は台付壺の底部で、いずれも外側に踏ん張る形状を呈するが、129 は高台が長い。130 ~ 132 は壺の口頸部である。

133 は高环、135 は环底部から脚部にかけての一部、136 は高环脚部の裾部で、外下方に下り裾部で外反する。

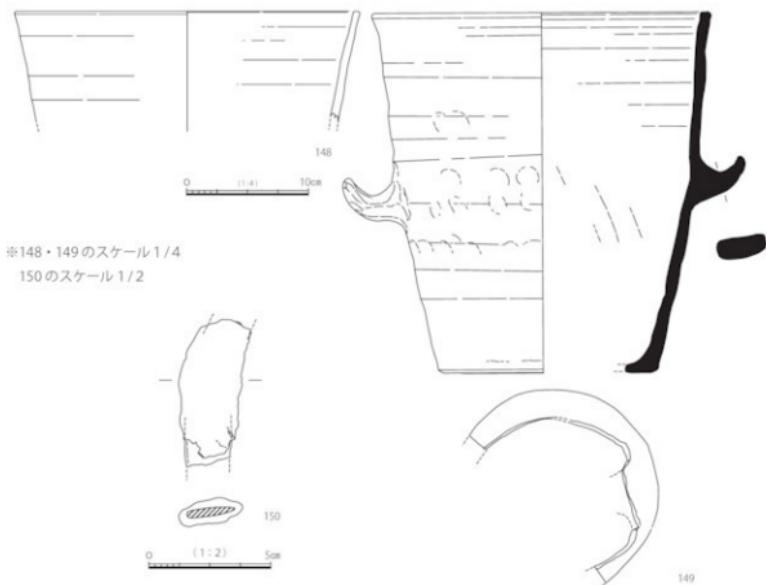


図23 第1調査区包含層出土遺物（4）

134は、須恵質であるが器種不明である。口径13.6cm、残存高6.1cmを測る。体部から口縁部にかけて内傾する特徴をもつ。

137～140・142は、須恵器の甕である。137は体部から口縁に外反するところに穿孔が認められる。観察から焼成前の穿孔である。138～140の甕の口縁は外反し、外側に肥厚し玉縁状を呈する。

142は甕の体部で、外面は平行タタキの後カキメ、内面は同心円状タタキがみられる。

143はハソウで体部は完形であり、腹径は5.95cmを測る。

144～147は硯の脚部である。144～146は透孔が認められ、146は8方向に穿たれていたと考えられる。147は外面にヘラケズリが施された脚を4個もつタイプのものと考えられる。

148・149は瓶である。148は土師質を呈し、復元口径27.95cmを測る。内外面ともにヨコナデが確認できる。149は色調が灰白色を呈しており、焼きのあまい須恵器である。口縁部については、ほぼ完形であり、体部、底部についても残存率が高い。口径27.3cm、器高29.35cm、底部の復元径17.9cmを測る。外面体部にはユビオサエによる指頭圧痕が残る。

150は鉄製品である。幅は2.6cm、厚さ1.2cmで残存する長さは約6cmである。長軸はやや丸みをおび、緩やかに曲がることから、小刀とも考えられるが、詳細については不明である。

### 3. 第2調査区

#### (1) 基本層序

第2調査区は第1調査区の北東角と接しており、基本的な層序は第1調査区と同様で、1層 現代盛土、2層 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土を主体とする整地土、3層は包含層、その下は地山となる。壁面の観察によれば2層の整地土の土色に「2.5Y5/4 黄褐色粘質土」の記載もあるが、第1調査区の2層（整地土）と同様のものであると考えられる。一部旧耕土も確認されているが、第1調査区よりも後世の搅乱により削平を受けている面積が多い。

#### (2) 遺構と遺物

先述したように、第1調査区と比較して出土した遺物が少なく、第1調査区でみられたような掘立柱建物の復元には至らなかったため、各遺構を検討するには困難な状況である。図25で示すように柱穴を中心に多くの遺構を確認したが、遺物が出土した遺構は15基であった。そのうち、出土遺物が図化できたものは以下に記す2基のみである。

土坑は4基確認したが、そのうちの2基について報告する。

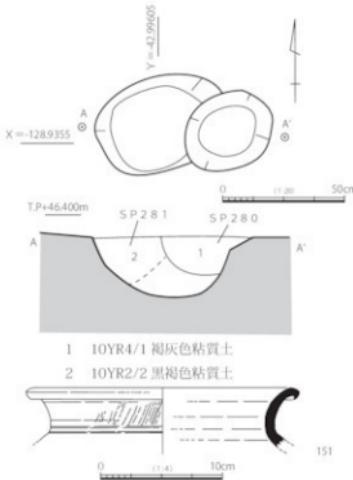


図24 SP 280 遺構平面・断面図 出土遺物

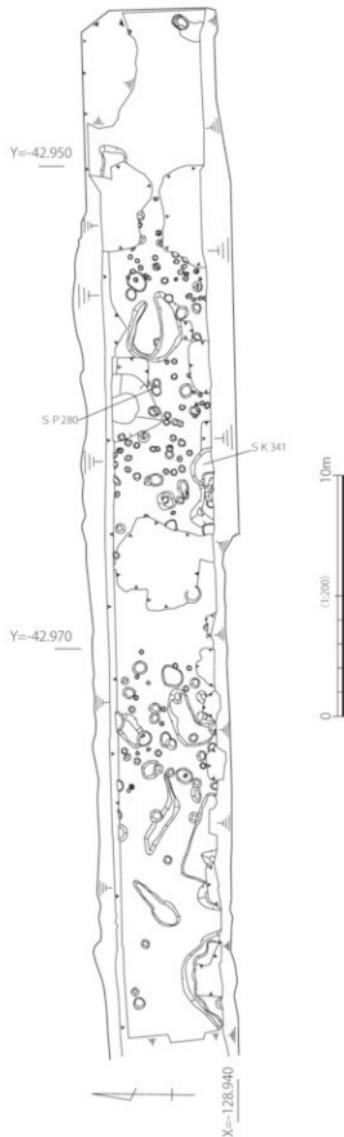


図25 第2調査区遺構平面図

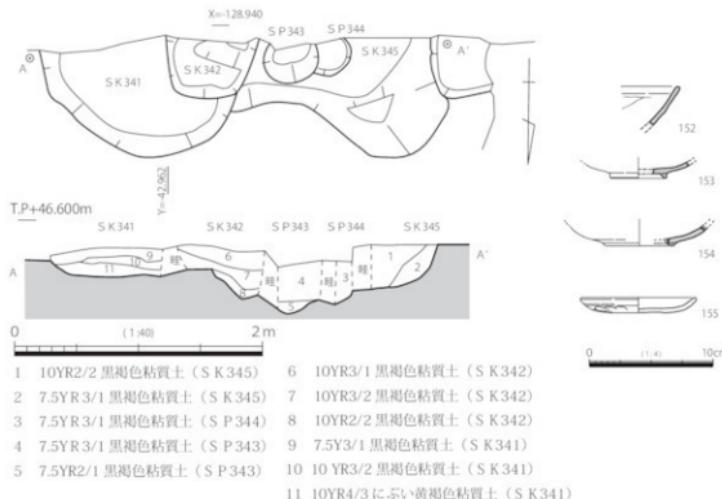


図26 SK 341 遺構平面・断面図 出土遺物

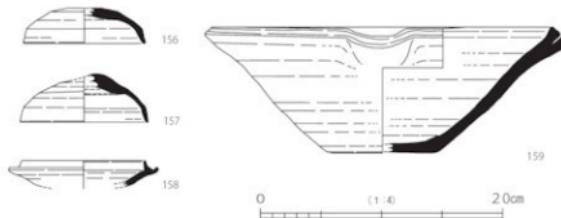


図27 第2調査区包含層出土遺物

S P 280 (図24) 調査区の中央付近で検出した。遺構断面図の原図では S P 280 と 281 が切り合うように分層され、それぞれに遺構番号が振られているが、その後、「同一」というメモ書きがなされている。

したがって、担当者は遺構2基の切り合いでなく、層位の差と解したものと読み取れる。しかしながら、航空写真撮影図化業務による遺構平面図では2基が切り合ったままの状況が記録されている。現段階においては、記録された図面のまま掲載した。なお、出土遺物の注記は280とされている。

S K 341 (図26) 調査区中央南側壁面付近で検出した。検出した規模で幅1.4mの円形状を呈し、深度約20cmを測る。埋土は3層に分かれ。一部S K 342によって切られている。出土遺物は、いずれも中世段階のものとみられ、152～154は和泉型瓦器碗である。いずれも破片であり法量を計測するには至らなかったが、153・154の高台などから和泉型瓦器碗編年III期後半からIV期前半に該当する13世紀前半頃の所産と考えられる。155は土師器皿で口径9.3cm、器高1.2cmを測る。所属時期を特定できる材料は乏しいが、出土した和泉型瓦器碗で導き出される時期の所産と考えられる。

## (3) 第2調査区包含層出土遺物(図27)

156～159は、包含層から出土した遺物である。156・157は須恵器環H蓋、158は須恵器環H身である。蓋・身ともに口径約10cm程度を測り、157は、器高がやや高いタイプで、第1調査区からも出土している。いずれもTK 209～TK 217型式頃に相当し、6世紀末から7世紀初頭頃の所産と考えられる。159は東播磨系須恵器のこね鉢である。口縁端部は上方に拡張されるもので、12世紀代の所産と考えられる。

## 4. 第3調査区(図28)

第3調査区は、第2調査区の南東方向に位置し、後述するSHW94-1調査区の北側に位置する。調査範囲は、約75m<sup>2</sup>であるが、北側約1/3の範囲は後世の擾乱によって削平を受けている。検出した遺構は、ピットや溝であるが、遺物が出土していないため、詳細は不明である。

ただし、各遺構埋土をみる限り、第1調査区や第2調査区で確認したものと相違が認められないため、同様の所属時期であると考えられる。

なお、基本的な層序は、第1調査区の包含層が褐色系粘質土であるのに対し、黒褐色系粘質土であること、包含層とされる層が3層・4層の2層に分けられることが、当該調査区の特徴であると言える。

後述する第4調査区では、黒褐色系を呈する包含層上面より切り込む遺構の存在が調査区壁面図で図示されている。各調査区間の層位関係については記録がなく推察の域を出ないが、南に向かってやや傾斜する当地形を加味すれば、標高が下がる場所に包含層が厚く堆積し、それに伴い複数の遺構面が形成されているものと考えられる。

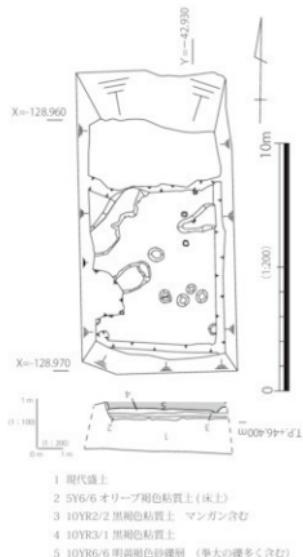


図28 第3調査区遺構平面・壁面図

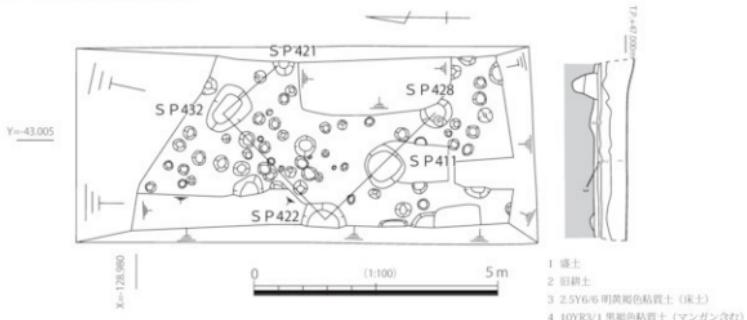


図29 第4調査区遺構平面・壁面図

## 5. 第4調査区（図29）

第1調査区の南側に位置する。調査区南側壁面の観察によれば、包含層に該当する4層上面から切り込むピットが東側に確認できる。このピットの埋土については、調査区壁面図の層位説明に記載がないため詳細は不明だが、南側壁面の西側にもピット状の遺構が地山面から切り込んでいるため、2面の遺構面を見て取ることができる。S P 411・421・422・428・432は、いずれも柱穴と考えられ、掘立柱建物として復元できる。遺構は幅1m近いものであり、他のピット状遺構と比較しても大きい。出土遺物がないこと、第1調査区で検出した掘立柱建物と主軸が異なることから、帰属時期について

は不明である。

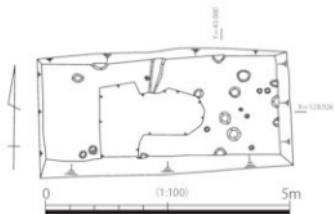


図29 第4調査区遺構平面図

## 第2節 SHW94-1の調査

### 1. はじめに（図35）

先述したように当調査区については、下端の記載のない遺構平面図と思われる図面と当調査区から出土したとされる遺物の確認にとどまり、詳細について述べることはできない。遺構下端の記載がない図面（レベル読み値の記載はあるが、レベル高がないため、標高は不明）を掲載することに躊躇するが、SHW11-1においても多数の遺構が検出されており、おそらくは関連性の高いものであると判断し、掲載することにする。なお、下端については、参考程度とするものである。

### 2. 出土遺物（図31～図34）

図示した遺物は、SHW94-1調査区からの出土であるが、遺物取り上げ時の記録等を確認できなかつたため、出土した箇所を判断することはできていない。

160は弥生土器の甕底部である。確認できた弥生土器は1点のみであるが、当該地周辺に弥生時代の集落が展開していたことを示唆するものである。

161～163は土師器の壺である。いずれも放射状暗文が施される。163の外面には口縁部付近にミガキが認められる。

164～167は土師器の皿である。164と165の口縁端部は、内側に丸く取まり沈線をめぐらす。これらの資料は外面の摩耗が著しく、口縁端部のミガキやヘラケズリが確認できないが、一部指頭圧痕がみられる。168は土師器壺の高台、167・169・170・172は土師器の高壺、171は壺の底部と考えられる。173は甕、174は甕の把手である。

175～179は土師器の甕である。いずれも口縁が外反するタイプで外面にハケメ、内面にケズリが認められる。179の口縁は口縁付近で外反した後、上方にのびる。180は鍔釜である。

これらの資料は、概ね8世紀代の所産であり、168・179・180はやや新しく9世紀代の所産と考

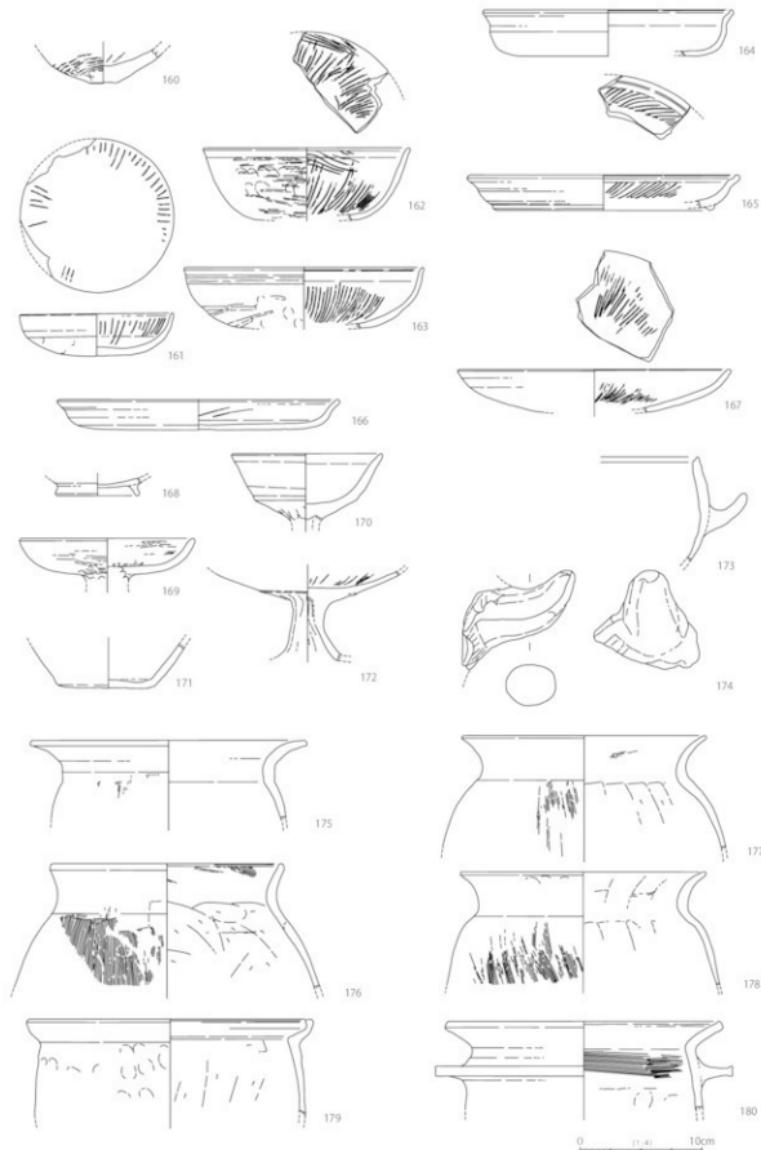


図31 SHW94-1 出土遺物（1）

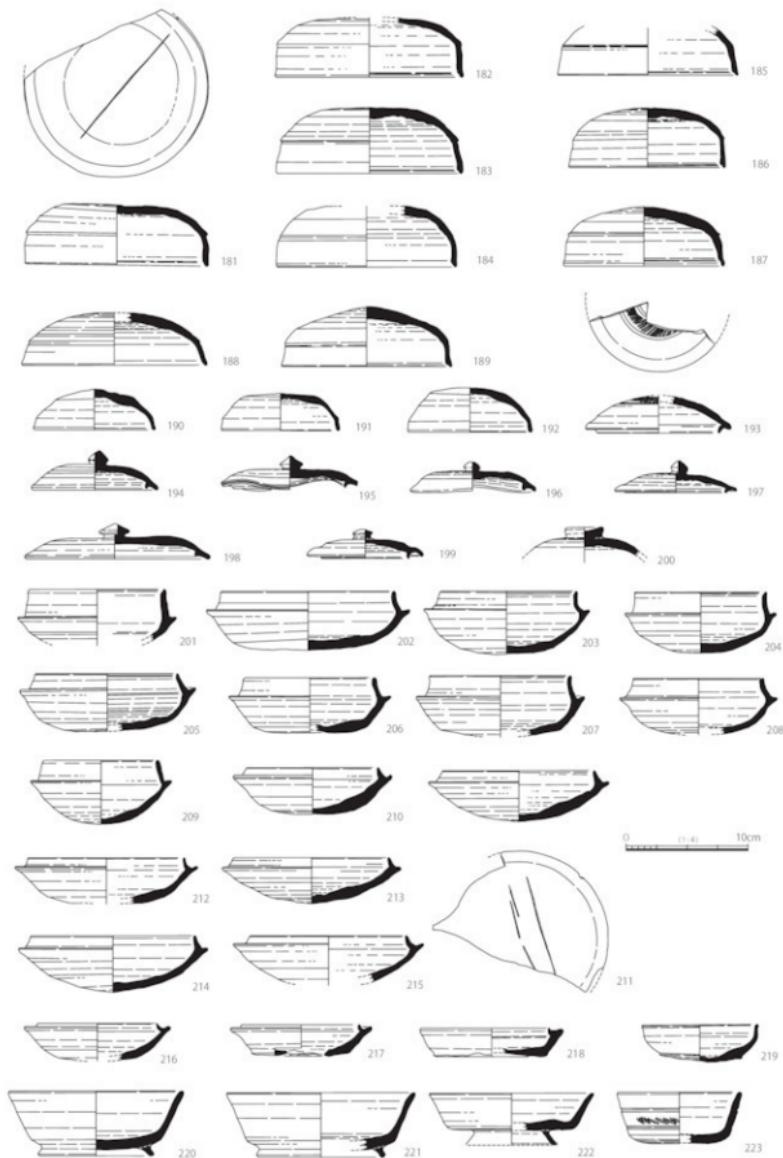


図32 SHW94-1 出土遺物（2）

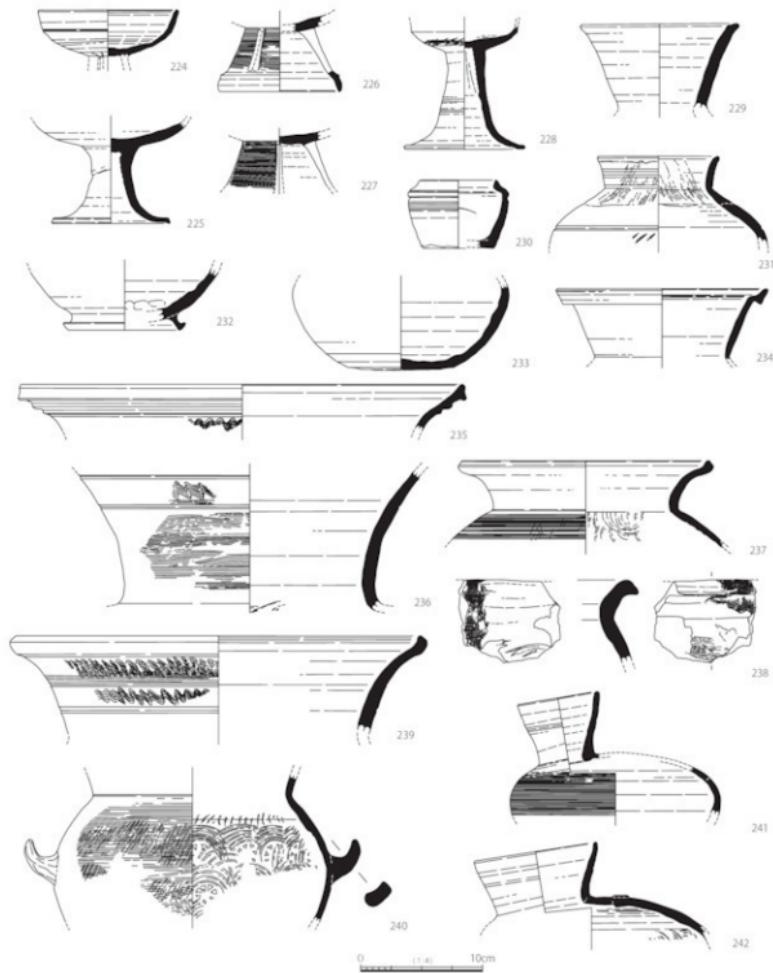


図33 SHW94-1出土遺物（3）

えられる。

181～192は須恵器環H蓋である。181・182は本書で報告する調査区で出土した古墳時代の資料としては最も古い段階の資料で、MT 15型式（6世紀前半頃）と考えられ、天井部は扁平で、稜も今回の資料の中ではしっかりと認められる。183～189は天井部が丸みを帯び、稜もわずかに認められる程度である。法量的に小型化するものもあり、TK 10～MT 85型式に併行する段階のもので、6世紀中頃と考えられる。



図34 SHW94-1出土遺物(4)

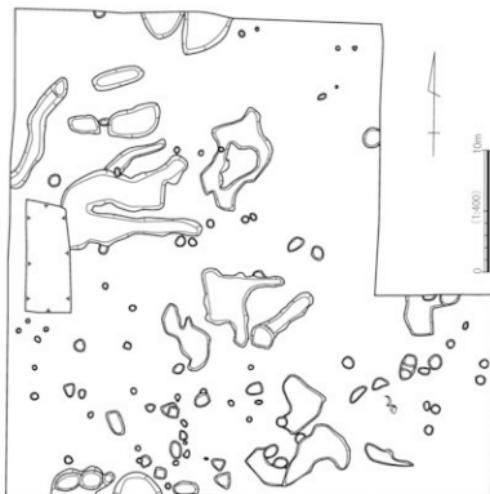


図35 SHW94-1遺構平面状況図

190～192は須恵器環H蓋、193～197・199は須恵器環G蓋、198は他の環蓋よりも口径が大きく天井部は扁平であり須恵器環B蓋であろう。193の天井部にはヘラ描きによる沈線と列点文が認められる。TK 209～TK 217型式に相当し、6世紀末から7世紀前半の所産である。200は須恵器環の蓋である。

201～218は須恵器環H身である。201は受け部から口縁端部にかけてほぼ真上に伸びる。203～209は口径約10cm強～12cmで器高は4cmを超えるものである。口縁は受け部から内傾気味に

たちあがり、口縁端部は内傾し段を

なしているもの（203～205）、やや丸みをおびるか鋭さにかけるもの（206～209）がある。前者のものが古いタイプでTK 23型式、後者がTK 47型式頃に位置づけられ、5世紀末から6世紀初頭の所産であろう。202は口径14cmを測り大型化する。MT 15型式に位置づけられ、6世紀前半の所産であろう。210～218は前述の環H身と異なり、受け部から口縁部への立ち上がりが短く内傾し、216～218は受け部の高さとほとんど変わらないような状況になる。各資料の出土状況が不明なので個々の観察による型式認定をする他ないが、216～218についてTK 217型式と評価でき

るのであれば、210～215については、その前段階であるTK 209型式あるいはTK 43型式に位置づけられる。しかし、TK 217型式のもつ時間幅の長さを考慮すると、TK 217型式にも含まれる可能性がある。219は環G身で7世紀代、220～223は高台を持つタイプで須恵器環B身であり、7世紀後半頃の所産であろう。223については、ヘラ描きによる沈線と列点文が体部に認められる。底部の中央は欠損しており、詳細は不明であるが、状態の観察から高环の脚部が付く可能性はない判断した。また、須恵器壺A蓋の可能性も考えたが、蓋とした場合、復元した口径がやや小さいと思われ、ここでは环身としたが課題としたい。

224～228は須恵器高环である。225～228は脚部で、225・228は鞍部が外側に大きく外反する。226の脚部は外反しながら下方に下り、鞍部付近で屈曲した後、下方に伸びる。229～234は壺、235～240は甕である。235・236・239の体部には波状文が残る。特筆すべきは238の甕で、口縁部から頸部にかけて布目の痕跡が残る。他に類似する遺物を確認できなかったが、布を用いる技術からみて、瓦陶兼用の工人を推察させるものである。241～242は平瓶である。

243～245は和泉型瓦器椀である。口径は14cm後半から15cm、器高は5cm近くを測る。内外面とも摩耗が著しいため詳細は不明であるが、241には見込み部に平行線状暗文が認められる。和泉型瓦器椀編年のII期後半からIII期前半、12世紀後半頃の所産であると思われる。246は土師器皿、247は瓦質羽釜三足の脚部である。248は瓦質の器種不明製品であるが、天地左右とも詳細は不明である。おそらくは外面にあたる箇所に比較的密にハケメが残る。

### 第3節 まとめ

これまで、SHW11-1と94-1調査成果の概略を述べてきた。11-1の調査区では竪穴建物2棟、復元できた掘立柱建物6棟を確認した。11-1第1調査区で復元した掘立柱建物は、調査担当者の現地調査記録に依るところが大きい。反面、土層観察・遺構番号等、記録を確認できなかったものについては過度な推察を避けるため、最小限度の報告に留めた。

当遺跡および隣接する箕面市庄田遺跡を含めた集落の動態については、すでに『宿久庄西遺跡1』でまとめられているので、重複は避けるが、今回の報告で得られた新たな知見について述べたい。

前報告書で記載されている最も古い段階の遺構として11-1区の遺構が挙げられている。これは、第1調査区のS I 2出土の須恵器環Hのこと指している。しかしながら、明確な遺構出土ではないが、94-1調査区から出土した遺物には6世紀前半にまで遡る資料も認められる。また、11-1第1調査区包含層出土の遺物の中にも、6世紀前半から中頃までのものが含まれること、94-1出土の弥生土器のことを含めても、前報告書で描かれた集落の展開については少なからず加筆する必要があるであろう。

ただし、当調査区においても、主体となる時期は6世紀末から7世紀前半頃以降になることに相違はなく、特に古墳時代終末期から古代にかけての遺跡的性格は、硯等の出土からみても当該地域の様相を知る上で欠かせない遺跡であると言える。

出土遺物については、先述したように、須恵器甕の内外面に布目が残る資料を確認した。布目を用いるという技術的な侧面から瓦工人の存在を想起させ、瓦陶兼用窯で生産されたものと捉えることができる。茨木市内における千里丘陵上の窯跡の詳細は明らかではないが、地理的な状況から見ても千里古窯跡群である可能性が高い。須恵器環Hについては、陶邑古窯跡群の出土資料のイメージと比較すれば

口径の割に器高が高いイメージを持つ資料が認められるのも、生産地の傾向を考える一助となろう。

同時に各遺構の所属時期の認定に課題を残す。つまり、我々が一般的にイメージする須恵器型式の認定の方法である。こうした須恵器型式認定について、近年、植田隆司氏や三好玄氏によって問題点が整理されつつある。つまり、「田辺編年を用いて特定資料の型式を同定する場合、各人が標式として念頭に置く基準資料のイメージと照らし合わせることになるが、この観念的な基準資料のイメージが研究者によって大なり小なり異なっている。」[植田隆司「古墳時代須恵器編年の限界と展望」2012]と指摘する。植田氏は、田辺編年の各型式に合致する窯跡資料の口径・器高の法量グラフを作成している。詳細は、氏の論考を参照されたいが、法量的にみると、少なからず型式単位でばらつきがみられ、同時に各型式と、連続する型式との法量範囲が異なることを示している。环身のたちあがり角度と長さの形状についても計測値をグラフ化しており、例えばTK 209を中心とした場合、前後型式のTK 43とTK 217(古段階)の重なりが認められる。植田氏の指摘による型式認定の個人差、法量グラフ等の差を考えた場合、特に当遺跡のように古墳時代終末期から飛鳥時代、つまり須恵器編年でいうTK 209を中心としてその後資料が多い遺跡の各遺構の時間的な序列については、各須恵器型式認定をどう行うかが重要になる。

したがって、本報告者が捉えた須恵器型式と他の市調査員が捉える型式が一定ではない場合、遺構の序列やその評価が変わる可能性がある。

前述した布目痕跡の残る須恵器甕を踏まえても、当遺跡やその周辺遺跡を踏まえた須恵器の整理をした上で、生産地の想定や『宿久庄西遺跡1』で報告した飛鳥期の堅穴建物とその他各遺構の前後関係を整理し、改めて当遺跡周辺地域の様相を考える必要があるであろう。今後の課題としたい。

#### 〔参考文献〕

- 茨木市史編さん委員会 2003『新修 茨木市史』第四巻史料編 古代中世  
植田隆司 2012『古墳時代須恵器編年の限界と展望』『龍谷大学考古学論集II 一綱干善教先生追悼論文集』龍谷大学考古学論集刊行会  
大阪府教育委員会 1997『泰庵寺・麻生中下代遺跡発掘調査概要』  
大阪府教育委員会 1977『陶邑 II』大阪府文化財調査報告書 第29輯  
木庭元晴 2012『基盤地質』『山地と平野の地形のしくみ』『新修 茨木市史』第一巻通史1 茨木市史編さん委員会  
合田幸美 2011『古代の堅穴建物—大阪府を中心に—』『大阪文化財研究 第39号』(公財)大阪府文化財センター編集・発行)  
(財)大阪府文化財調査研究センター 1999『庄田遺跡』((財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書 第35集)  
(財)大阪府文化財センター 2002『宿久庄西遺跡』((財)大阪府文化財センター調査報告書 第80集)  
(財)大阪府文化財センター 2003『栗生間谷遺跡 古代・中世編』((財)大阪府文化財センター調査報告書 第85集)  
菅原正明 1983『畿内における土釜の製作と流通』『文化財論叢』奈良国立文化財研究所創立30周年記念論文集  
森本徹・廣瀬時習・島崎久恵・市村慎太郎 2007『摂河泉古墳時代集落の基礎研究』『調査研究報告 第5集』((財)大阪府文化財センター編集・発行)  
三好玄 2016『古墳時代須恵器編年にかんする方法論的検討』『古代文化 第68巻 第1号』(公財)古代学協会  
吉田知史 2012『大阪府内の様相』『第61回埋蔵文化財研究集会 集落から見た7世紀—律令体制成立期前後における地域社会の変貌— 発表要旨集』(埋蔵文化財研究会・第61回埋蔵文化財研究集会実行委員会編集・発行)

表1 11-1区出土遺物観察表(1)

件号	図面番号	実測No	区	出土地	器種	形態	法寸(cm)	残存	色調	胎土	調整	備考
6-1	3	787	第1調査区	S-1-1	須恵器	环唇	口径：13.0 高さ：4.4	口縁部3/16 底部1/3	W:2.5/6/1黒灰色 内・底：2.3/7/1白	3.5mm以内の粒 白色含む	外面：回転ナメ 回転ベラケツリ 内面：回転ナメ	丸井溝への記号
6-2	3	804	第1調査区	S-1-1	須恵器	环身	口径：11.30 高さ：4.1	2/3	W:2.6/6灰 内：N7/6灰 底：N8/6白 壁：10/8/1白	中空部(約6mm程度) の石點を少量含む	外面：回転ナメ 回転ベラケツリ 内面：回転ナメ	
12-3	5	811	第1調査区	SX-1	須恵器	环身	口径：12.23 高さ：4.1	口縁・底部1/12	W:2.5/5/1Bk, 5W/6/1W 内：5W/6/1W 底：10/8/1白	(1mm以下の粒含む)	外面：回転ナメ 内面：回転ナメ	墨との差れ焼き
12-4	3	809	第1調査区	SX-1	須恵器	环唇	口径：12.28 高さ：4.15	1/2	W:2.6/7/6, SW/6/1W 内・底：N7/6白 壁：10/8/1白	黒(約2mm程度)の 石點を微量に含む	外面：回転ナメ 回転ベラケツリ 内面：回転ナメ	
12-5	3	810	第1調査区	SX-1	須恵器	环唇	口径：8.82 高さ：4.6 底径：4.6	口縁1/2 底部2/3	W:2.3/8/1Bk, 10W/6/1W 内：10/8W/1Bk, 2.3V/7/1W 底：10/8W/1RG1	黒(約1mm程度)の 石點を微量に含む	外面：回転ナメ 回転ベラケツリ 内面：回転ナメ	
12-6	5	809	第1調査区	SX-1	須恵器	環	口径：20.3 高さ：4.6 底径：4.6	口縁部1/11 底部1/11	W:1.73Y/1オリーブ 内：7.5Y/5/1W 底：5W/6/1W	0.5mm以下の粒含む	外面：ヨコナメ 内面：ヨコナメ・同心円タキ	
12-7	5	815	第1調査区	SX-1	須恵器	環	口径：11.70 高さ：6.7 底径：6.7	口縁～底部上 1/4	W:2.6/6灰 内：N7/6白 底：N6灰	黒(約2mm程度)の 石點を微量に含む	外面：回転ナメ タキを後手キ 内面：回転ナメ タキを後ナメ	
12-8	5	816	第1調査区	SX-1	須恵器	環	口径：20.2 高さ：5.3 底径：5.3	口縁部1/4	W:1.0W/7/1白 内：2.5Y/5/1W 底：2.5Y/6/2黑	黒(約4mm程度)の 石點を微量に含む	外面：回転ナメ 内面：回転ナメ・タキ	外側とも自然焼 あり
12-9	3	817	第1調査区	SX-1	須恵器	環	口径：17.2 高さ：6.15 底径：6.15	口縁部1/4	W:2.6/6灰, 2.5Y/6/1W 内：2.5Y/6/1黒 底：N8/6白, N7/6白	中空部(約5mm程度) の石點を少暈含む	外面：回転ナメ タキを後手キ 内面：回転ナメ タキを後ナメ	
12-10	3	818	第1調査区	SX-1	須恵器	環	口径：20.2 高さ：7.06 底径：7.06	口縁～底部1/4	W:1.0W/6, 2.5Y/6/1W 内：1.0S/6, 2.5Y/6/1白 底：2.5Y/6/1白	黒(約1mm程度)の 石點を少暈含む	外面：回転ナメ タキを後手キ 内面：回転ナメ 同心円タキ	
13-11	5	806	第1調査区	SX-117	須恵器	環	口径：9.00 高さ：△1.4 一部	底部～両端に 1/2	W:2.6/6灰 内：N6灰 底：N5灰, N7/6白	黒(1mm以下)の石 點を少量含む	外面：回転ナメ 内面：回転ナメ	
14-12	3	739	第1調査区	SX-211	土師器	瓶	口径：2.36 高さ：4.2	はぼ完形	W:内・1.0W/6/4灰黒 内・底：1.0W/6/6黒	黒(1mm以下)の石 點、石點を少暈含む	外面：ナメ	
14-13	3	755	第1調査区	SX-211	須恵器	环唇	口径：10.25 高さ：3.2	2/5	W:1.0W/7/1白 内・底：1.0W/6/6	1mm以下の粒含む	外面：回転ナメ 回転ベラキナメ 内面：回転ナメ	内面に自然焼
14-14	5	756	第1調査区	SX-211	須恵器	环身	口径：△2.5 高さ：△2.5	ごく一部	W:1.0W/6/1白 内・底：N6/6白	1mm以下の粒含む	外面：回転ナメ 内面：回転ナメ	
14-15	5	757	第1調査区	SX-211	土師器	把手	直径：△3.9 厚さ：△1.6	把手の一部	W:1.0W/6/1白 内・底：2.5Y/6/1黒	1mm以下の粒含む	外面：ユビオサエ、ナメ	
14-16	3	758	第1調査区	SX-211	土師器	瓶	口径：22.0 高さ：△6.4	口縁部1/6	W:2.5/7/6/6 内：1.5W/6/6	黒(1mm以下)の石 點、クリミナル	外面：ナメ ハケ、ユビオサエ 内面：ナメ ハケ	
15-17	5	900	第1調査区	SX-247	須恵器	瓶	口径：12.88 高さ：△3.1	1/5	W: NS/6灰, N7/6白 内：NS/6灰, N6/6灰 底：N7/6白	黒(約4mm程度)の 石點を少暈含む	外面：回転ナメ 回転ベラケツリ 内面：回転ナメ	
15-18	5	808	第1調査区	SP-213	黑色土器	瓶	口径：△3.2 高さ：△3.2	一部	W: 底：2.5Y/6/4に△2.4, N2/黒 内：2.5Y/6/3黒模様, N2/黒	黒(1mm程度)の石 點を少暈含む	外・内面：ナメ	
17-19	5	786	第1調査区	SP-10	須恵器	环唇	口径：12.28 高さ：3.0	1/6	W・底：SY/7/1白 内：SY/6/1白	黒(1mm以下)の石 點を少暈含む	外面：回転ナメ 回転ベラケツリ 内面：回転ナメ	
17-20	6	807	第1調査区	SP-118	須恵器	环身	口径：11.40 高さ：△3.9	1/5	W: N7/6白, 2.5Y/7/1白 内：N7/6白	黒(約3mm程度)の 石點を少暈含む	外面：回転ナメ 回転ベラケツリ 内面：回転ナメ	
17-21	6	819	第1調査区	SP-250	須恵器	环身	口径：14.25 高さ：△4.0	口縁部1/6	W:1.0W/7/1白 内：1.0W/7/1白	黒(1mm以下)の石 點を少暈含む	外面：回転ナメ 内面：回転ナメ、ナメ	
18-22	3	790	第1調査区	S-D-1	須恵器	环唇	口径：11.25 高さ：4.05	口縁部～底部 1/3	W:2.5/9/1黒 内：2.5Y/7/1白	1.5mm以下の粒含む	外面：回転ナメ 回転ベラケツリ 内面：回転ナメ	
18-23	4	797	第1調査区	S-D-1	須恵器	环身	口径：10.03 高さ：4.0	口縁部少々 底部1/4	W:内・外：2.5W/2/2白 内：2.5Y/6/1白	2mm以内の粒含む	外面：回転ナメ 回転ベラケツリ 内面：回転ナメ	外側とも燒成 あり
18-24	4	784	第1調査区	S-D-1	須恵器	环身	口径：9.0 受部：11.5 高さ：△3.5	1/4	W:2.5/7/1白 内・底：SY/7/1白	黒(表面を少暈含む)	外面：回転ナメ 回転ベラケツリ 内面：回転ナメ	内面と外側に縦跡 に自然焼
18-25	4	798	第1調査区	S-D-1	須恵器	ハツク	口径：△6.2 側厚：△8.8	底部	W:内・底：2.5Y/6/1白 内・底：SY/6/1白	2mm以内の粒含む	外面：回転ナメ 内面：回転ナメ	焼成不良

表2 11-1区出土遺物観察表(2)

標団 番号	回収 番号	実測 No.	区	出土地	器種	形態	法量(cm)	残存	色調	地土	質感	備考
20-26	4	840	第1區 査区	包合層 包合層	瓦器	片蓋	口径:0.16 高さ:3.55 天井深2.3	口縁部1/10 休部1/3 天井部2/3	外:95%断:10YR7/10,13 内:7.5Y2/1緑黒 断:5YS/1灰	1mm以下の砂利含む 外面:回転ナメ、回転ヘラケズリ 内面:回転ナメ	外面に灰がりと 自然釉	
20-27	4	862	第1區 査区	包合層 包合層	瓦器	片蓋	口径:0.239 高さ:1.32	1/3	外:5.56/灰、2.5Y6/1黒灰 内:7.5Y2/1緑黒 断:5YS/1灰	中空部φ~1mm程度 の石を少量含む 外面:回転ナメ 内面:回転ナメ	外面と自然釉 かかる	
20-28	6	836	第1區 査区	包合層 包合層	瓦器	片蓋	口径:0.340 高さ:1.29	1/4	外:5.56/灰、2.5Y6/1黒灰 内:7.5Y2/1緑黒 断:5YS/1灰	周φ~3mm程度の石 を少量含む 外面:回転ナメ 内面:回転ナメ		
20-29	6	829	第1區 査区	包合層 包合層	瓦器	片蓋	口径:1.305 高さ:1.33	口縁・休部1/11 天井部1/8	外:95%断:2.5Y5/1黒灰 内:7.5Y2/1緑黒 断:5YS/1灰	1mm以下の砂利含む 外面:回転ナメ 内面:回転ナメ		
20-30	6	891	第1區 査区	包合層 包合層	瓦器	片蓋	口径:1.139 高さ:1.31	口縁・休部1/7 天井部1/3	外:5YS/1灰 内:7.5Y2/1黒灰 断:5YS/1灰	1.5mm程の砂利含む 外面:回転ナメ、回転ヘラケズリ 内面:回転ナメ		
20-31	4	748	第1區 査区	包合層 包合層	瓦器	片蓋	口径:0.489 高さ:1.33	口縁部1/4 休部1/3 天井部1/8	外:5.56/灰、2.5Y6/1黒灰 内:7.5Y2/1緑黒 断:5YS/1灰	1.5mm以下の砂利含む 外面:回転ナメ、回転ヘラキラナメ 内面:回転ナメ	口縁部程ねじきの 跡	
20-32	4	775	第1區 査区	包合層 包合層	瓦器	片蓋	口径:0.160 高さ:4.0	1/3	外:5YS/1灰 内:2.5Y6/16EL、10YR8/2灰白 断:2.5Y7/16EL、10YR8/2灰白	中空部φ~3mm程度 の石を少量含む 外面:回転ナメ、回転ヘラケズリ 内面:回転ナメ		
20-33	6	878	第1區 査区	包合層 包合層	瓦器	片蓋	口径:0.911 高さ:1.66	1/4	外:10YR3/1灰白 内:7.5Y6/灰 断:10YR6/1灰白	周φ~1mm以下の石 を微量含む 外面:回転ナメ、回転ヘラケズリ 内面:回転ナメ、ナメ		
20-34	6	844	第1區 査区	包合層 包合層	瓦器	片蓋	口径:0.162 高さ:1.295	口縁部3/16 休部3/4 天井部3/16	外:5YS/1灰、7.5Y4/1灰 内:5.56/灰 断:5YS/2灰	1.5mm以下の砂利含む 外面:回転ナメ、回転ヘラケズリ 内面:回転ナメ		
20-35	4	788	第1區 査区	包合層 包合層	瓦器	片蓋	口径:0.93 高さ:1.53	口縁部1/3 休部3/4 天井部1/4	外:5.56/16EL、10YR4/1灰白 内:2.5Y5/1黒灰 断:5YS/1灰	1mm以下の砂利含む 外面:回転ナメ 内面:回転ナメ	部分的に自然釉	
20-36	4	768	第1區 査区	包合層 包合層	瓦器	片蓋	口径:0.098 高さ:1.29	口縁部3/16 休部3/4 天井部3/8	外:2.5Y5/1黒灰、NS/灰 内:5.56/灰 断:5YS/5C灰~5C灰	周φ~1mm程度の石 を微量含む 外面:回転ナメ、回転ヘラケズリ 内面:回転ナメ	天井部にテラ起因	
20-37	4	832	第1區 査区	包合層 包合層	瓦器	片蓋	口径:0.151 高さ:1.40	1/2	外:2.5Y7/16EL、2.5Y7/2灰 内:2.5Y7/2灰 断:2.5Y7/16EL、2.5Y7/2灰	周φ~2mm程度の石 を微量含む 外面:回転ナメ、回転ヘラケズリ 内面:回転ナメ		
20-38	6	845	第1區 査区	包合層 包合層	瓦器	片蓋	口径:0.041 高さ:1.43	口縁部3/16 休部3/4 天井部3/8	外:2.5Y4/1灰 内:7.5Y5/1灰 断:5YS/8	1mm以下の砂利含む 外面:回転ナメ、回転ヘラケズリ 内面:回転ナメ		
20-39	6	829	第1區 査区	包合層 包合層	瓦器	片蓋	口径:1.26 高さ:1.26	口縁部1/7 休部1/8 天井部1/6	外:5YS/1灰 内:7.5Y3/1灰 断:5YS/8	1mm以下の砂利含む 外面:回転ナメ 内面:回転ナメ		
20-40	6	884	第1區 査区	包合層 包合層	瓦器	片蓋	口径:0.127 高さ:1.26	口縁部1/3 休部1/3 天井部1/6	外:10YR6/16EL、2.5Y6/1灰白 内:2.5Y5/1灰 断:10YR6/16EL	1mm程度の砂利を 微量含む 外面:回転ナメ		
20-41	6	793	第1區 査区	包合層 包合層	瓦器	片蓋	口径:0.168 高さ:1.38	口縁部1/6 休部1/6 天井部1/6	外:5.56/灰 内:5.56/灰 断:5Pb6/1灰	周(灰色)を多く含 む 外面:回転ナメ 内面:回転ナメ		
20-42	6	835	第1區 査区	包合層 包合層	瓦器	片蓋	口径:0.255 高さ:0.351	1/5	外:5.56/灰 内:7.5Y6/16EL 断:10YR8/26EL	周φ~5mm程度の石 を微量含む 外面:回転ナメ、回転ヘラケズリ 内面:回転ナメ		
20-43	6	824	第1區 査区	包合層 包合層	瓦器	片蓋	口径:1.227 高さ:1.165	口縁部1/6 休部1/6 天井部1/6	外:5.56/灰 内:7.5Y5/2灰 断:5YS/5C灰	1.5mm以下の砂利含む 外面:回転ナメ 内面:回転ナメ		
20-44	6	780	第1區 査区	包合層 包合層	瓦器	片蓋	口径:0.196 高さ:1.165	口縁部1/12 休部1/12 天井部1/6	外:5.56/灰 内:10YR4/1灰 断:10YR4/1灰	周φ~1mm以下の石 を微量含む 外面:回転ナメ 内面:回転ナメ		
20-45	7	892	第1區 査区	包合層 包合層	瓦器	片蓋	口径:0.120 高さ:1.18	口縁部1/8 休部1/8 天井部1/6	外:5.56/灰 内:2.5Y7/16EL 断:10YR6/16EL	1mm以下の砂利含む 外面:回転ナメ 内面:回転ナメ		
20-46	7	888	第1區 査区	包合層 包合層	瓦器	片蓋	口径:0.090 高さ:1.255	口縁部1/8 休部1/8 天井部1/6	外:2.5Y5/16EL 内:10YR8/26EL 断:10YR8/26EL	周φ~1mm程度の石 を微量含む 外面:回転ナメ 内面:回転ナメ		
20-47	7	851	第1區 査区	包合層 包合層	瓦器	片蓋	口径:0.169 高さ:1.215	口縁部1/12 休部1/12 天井部1/6	外:2.5Y7/16EL 内:2.5Y6/1灰 断:5YS/1灰	1mm以下の砂利含む 外面:回転ナメ 内面:回転ナメ		
20-48	7	777	第1區 査区	包合層 包合層	瓦器	片蓋	口径:0.097 高さ:1.227	口縁部1/6 休部1/6 天井部1/6	外:2.5Y7/16EL 内:2.5Y6/1灰 断:2.5Y7/16EL	周φ~1mm程度の石 を微量含む 外面:回転ナメ 内面:回転ナメ		
20-49	7	776	第1區 査区	包合層 包合層	瓦器	片蓋	口径:0.080 高さ:1.31	1/8	外:5.56/灰 内:5.56/灰 断:10YR7/21C灰~5C灰	周φ~3mm以下の石 を微量含む 外面:回転ヘラケズリ 内面:回転ナメ		
20-50	7	907	第1區 査区	包合層 包合層	瓦器	片蓋	口径:0.080 高さ:1.34	口縁部1/5 休部1/4 天井部1/4	外:2.5Y5/16EL 内:7.5Y6/16EL 断:5YS/16EL	1mm以下の砂利含む 外面:回転ナメ、回転ヘラケズリ 内面:回転ナメ	外面に灰がり若干 あり	

表3 11-1区出土遺物観察表(3)

件名	図版 番号	実測 No.	区	出土地	器種	断面	法寸 (cm)	残存	色調	胎土	調整	備考
20-51	7	903	第1期 西区	追跡層	瓦	円錐形	口径：13.2 高さ：△3.7	1/3	外：10YR6/1黒灰、10YR5/1黒灰 内：2.5YR7/10赤 裏：10W7/10白	黒(1.6~3mm程度の石 粒を少量含む) 内面：同軸ナデ		
20-52	8	830	第1期 西区	追跡層	瓦	円錐形	口径：9.65 受部：12.4 高さ：△3.6	3/4	外：2.5YR6/1黒灰、2.5YR7/1黒灰 内：2.5YR7/10赤 裏：10YR8/10黒	黒(1.6~4mm程度の石 粒を少量含む) 内面：同軸ナデ	地成不良	
20-53	8	829	第1期 西区	追跡層	瓦	円錐形	口径：9.2 高さ：△3.55	2/3	外：10N8灰、10YR7/10白 内：10N8灰 裏：10YR8/10黒	黒(1.6~1mm程度の石 粒を微量に含む) 内面：同軸ナデ	自然釉	
20-54	7	779	第1期 西区	追跡層	瓦	円錐形	口径：10.45 高さ：3.3 底部：3/16	1/3 内：1.5 底部：2.5W/10白	外：10YR6/2黒黒灰、10YR5/2黒黒灰 内：1.5 底部：2.5W/10白	1mm以下の砂粒含む 内面：同軸ナデ、回転ヘラケズリ		
20-55	8	846	第1期 西区	追跡層	瓦	円錐形	口径：9.08 高さ：3.2 底部：1/3	1/3 内：1.5 底部：2.5W/10白	外：10YR8/10白 内：1.5 底部：2.5W/2黒	(1.5mm以内の砂粒含む) 内面：同軸ナデ、回転ヘラキリ端ナデ		
20-56	8	785	第1期 西区	追跡層	瓦	円錐形	口径：9.25 受部径：11.2 高さ：2.7	ほぼ完形	外：内：10YR8/10赤	(1mm以下の砂粒含む) 内面：同軸ナデ、回転ヘラケズリ	地成不良	
20-57	8	773	第1期 西区	追跡層	瓦	円錐形	口径：9.03 高さ：2.55 底部：底部3/8	1/3 外：2.5YB/1黒灰 内：10YR6/10黒 裏：10YR6/10黒	外：2.5YB/1黒灰、2.5YB/1黒灰 内：1.5 底部：2.5YB/2黒 裏：10YR6/10黒	(1.5mm以内の砂粒含む) 内面：同軸ナデ、ヘラ切り端削りのナデ		
21-58	7	790	第1期 西区	追跡層	瓦	円錐形	口径：△2.3	無限	外：2.5Y5/1黒灰 内：2.5Y5/1黒灰 裏：2.5YB/1黒	(1mm以内の砂粒含む) 内面：同軸ナデ	手ねじきの痕跡	
21-59	7	814	第1期 西区	追跡層	瓦	円錐形	口径：△1.8	瓦井部1/7	外：10YR7/10赤、10YR6/10黒 内：10YR7/10赤 裏：10YR6/10黒	(1mm以下の砂粒含む) 内面：同軸ナデ	瓦かぶりと自然釉	
21-60	7	765	第1期 西区	追跡層	瓦	円錐形	口径：△1.5 瓦井部1/6 つまみ端形	無限	外：2.5Y5/1黒灰 内：10N7/10白 裏：2.5Y5/2黒	(1mm以下の砂粒含む) 内面：同軸ナデ	瓦かぶりと自然釉	
21-61	7	837	第1期 西区	追跡層	瓦	つまみ端形	口径：△1.8 高さ：△1.7	無限	外：10YR7/10赤 内：N7/10白 裏：1.5N4/10	黒(1.6~1mm程度の 石粒を微量に含む) 内面：同軸ナデ	自然釉	
21-62	7	853	第1期 西区	追跡層	瓦	円錐形	口径：△1.0 高さ：△1.4	1/3 外：2.5YB/1黒灰 内：1.5 底部：1/4	外：N7/10白 内：1.5 底部：1/4	黒(1mm程度の砂粒、 黒色含む) 内面：同軸ナデ		
21-63	7	850	第1期 西区	追跡層	瓦	円錐形	口径：△1.0 高さ：△1.5	1/3 外：2.5YB/1黒灰 内：1.5 底部：1/4	外：N7/10白 内：1.5 底部：1/4	(1mm以内の砂粒含む) 内面：同軸ナデ、ヘラケズリ	手ねじきの痕跡	
21-64	9	823	第1期 西区	追跡層	瓦	円錐形	口径：△1.6 高さ：△1.6 底部：1/2	1/3 外：2.5Y5/1黒灰 内：2.5Y5/1黒灰 裏：1.5YR7/10赤	外：2.5Y5/1黒灰 内：2.5Y5/1黒灰 裏：1.5YR7/10赤	(2mm以内の砂粒含む) 内面：同軸ナデ		
21-65	9	825	第1期 西区	追跡層	瓦	円錐形	口径：△1.7 高さ：△1.7	1/3 外：2.5YB/1黒灰 内：1.5 底部：1/2	外：N7/10白 内：1.5 底部：1/2	5mmの砂粒含む 内面：同軸ナデ、回転ヘラケズリ		
21-66	9	827	第1期 西区	追跡層	瓦	円錐形	口径：△1.4 高さ：△1.4 底部：1/2	1/3 外：N7/10白 内：1.5 底部：1/2	外：N7/10白 内：1.5 底部：1/2	(1mm以内の砂粒含む) 内面：同軸ナデ		
21-67	8	803	第1期 西区	追跡層	瓦	円錐形	口径：1.52 高さ：2.45	1/3 外：10YR6/10赤 内：1.5 底部：1/4	外：10YR6/10赤 内：1.5 底部：1/4	黒(1.6~1mm程度の石 粒を微量に含む) 内面：同軸ナデ	西面自然釉あり	
21-68	9	762	第1期 西区	追跡層	瓦	円錐形	口径：△2.0 高さ：△2.0	瓦井部1/2 瓦井部1/2 瓦井部1/2	外：N7/10白 内：1.5 底部：1/2	(1mm以内の砂粒含む) 内面：同軸ナデ		
21-69	9	1052	第1期 西区	追跡層	瓦	つまみ端形	口径：△2.5 つまみ径：△2.5	無限	外：7.5YR7/10赤 内：1.5 底部：1/2	外：7.5YR7/10赤 内：1.5 底部：1/2	黒(2mm前後のチャーベル、 長い、石塊含む) 内面：ナデ	
21-70	9	857	第1期 西区	追跡層	瓦	つまみ端形	口径：△1.8 高さ：△1.8	無限	外：2.5YR7/10赤 内：1.5 底部：1/2	黒(1mm程度の砂粒、 黒色含む) 内面：ナデ		
21-71	8	787	第1期 西区	追跡層	瓦	円錐形	口径：△1.0 高さ：△1.4 底部：1/2	1/3 外：2.5YB/1黒灰 内：1.5 底部：1/2	外：N7/10白 内：1.5 底部：1/2	(1mm以下の砂粒含む) 内面：同軸ナデ、ヘラケズリ		
21-72	9	1053	第1期 西区	追跡層	瓦	円錐形	口径：△1.7 高さ：△1.6	1/3 外：2.5YB/1黒灰 内：1.5 底部：1/2	外：N7/10白 内：1.5 底部：1/2	黒(1mm程度の白色粘、 黒色含む) 内面：同軸コロナデ		
21-73	9	772	第1期 西区	追跡層	瓦	円錐形	口径：△1.65 高さ：△1.65	ごく一部	外：10YR6/10赤 内：1.5 底部：1/2	黒(1mm以下以降の 石粒を微量に含む) 内面：同軸ナデ		
21-74	9	854	第1期 西区	追跡層	瓦	円錐形	口径：△1.0 高さ：△1.5	1/3 外：2.5YB/1黒灰 内：1.5 底部：1/2	外：N7/10白 内：1.5 底部：1/2	黒(1mm程度の白色粘、 黒色含む) 内面：同軸ナデ		
21-75	9	871	第1期 西区	追跡層	瓦	円錐形	口径：△1.0 高さ：△1.0	1/3 外：2.5YB/1黒灰 内：1.5 底部：1/2	外：N7/10白 内：1.5 底部：1/2	(2mm以内の砂粒含む) 内面：同軸ナデ		
21-76	9	870	第1期 西区	追跡層	瓦	円錐形	口径：△1.05 高さ：△1.05	1/3 外：2.5YB/1黒灰 内：1.5 底部：1/2	外：N7/10白 内：1.5 底部：1/2	(1mm以下の砂粒含む) 内面：同軸ナデ		

表4 11-1区出土遺物観察表(4)

標団 番号	実用 番号	区	出土地	器種	形態	法量(cm)	残存	色 調	胎 土	質 構	備 考
21-77	9	879	第1回 杏区	鉢形罐	平底	高さ:7.0cm	1/12	外・内・黒:2.5Y6/1黒灰 高さ:7.0cm	礫(ø~1mm)以下の 石粉を微量に含む 内面無	外面:回転ナメ 内面:回転ナメ	
21-78	8	795	第1回 杏区	鉢形罐	圓底盤	口径:10.2cm 高さ:3.9cm	底部1/2 底部2/3	外・内・黒:2.5Y7/1黒白 高さ:3.9cm	Gsm以内の砂利含む	外面:回転ヘタケツリ後ナメ 内面:回転ナメ	
21-79	8	800	第1回 杏区	鉢形罐	平	口径:10.1cm 高さ:4.3cm	2/3	外:2.5Y6/1黒灰 内:866灰 黒:97/80白	ø1mm以下の石粉含む 内面:回転ヘタケツリ後ナメ 高さ:少量化	全体的に墨みあり	
21-80	9	860	第1回 杏区	鉢形罐	圓底盤	口径:10.1cm 高さ:3.3cm	1/4	外:866灰 内:87/90白 黒:2.5Y7/1黒白	ø1mm程度の白色砂 粒、黒色斑合む 内:87/90白	外面:回転ナメ。回転ヘタケツリ。回転ヘ タリ 内面:回転ナメ。ナメ	
21-81	8	769	第1回 杏区	鉢形罐	圓底盤	口径:10.0cm 高さ:3.4cm	底部1/1 底部2/8 底盤2形	外:2.5Y6/1黒灰、2.5Y5/1黒灰 内・黒:2.5Y6/1黒灰	ø1mm以下の石粉含む	外面:回転ナメ。回転ヘタリ後ナメ 内面:回転ナメ。一方の辺上げナメ	
21-82	10	910	第1回 杏区	鉢形罐	圓底盤	口径:10.4cm 高さ:3.3cm	底部1/6 底部2/8	外:2.5Y6/1黒 内:2.5Y6/1黒 黒:57/71黒 白:2.5Y7/1黒	ø1mm以下の石粉含む	外面:遺識の為不明	
21-83	10	862	第1回 杏区	鉢形罐	圓底盤	口径:10.2cm 高さ:3.4cm	1/10	外:2.5Y5/1黒 内:10Y6/10黒 黒:866灰	ø1mm程度の砂利含 む 内:866灰	外面:回転ナメ。回転ヘタケツリ。ヘタリ 内面:自然地	
21-84	10	864	第1回 杏区	鉢形罐	圓底盤	口径:10.2cm 高さ:3.2cm	1/4	外:866灰 内:87/90白 黒:866灰	ø1mm程度の白色砂 粒、黒色斑合む 内:87/90白	外面:ナメ。回転ヘタリ後ナメ 内面:回転ナメ。ナメ	
21-85	10	858	第1回 杏区	鉢形罐	圓底盤	口径:10.0cm 高さ:3.2cm	1/8	外・内・黒:2.5Y6/1黒 高さ:1.2cm	ø1mm程度の砂利半 量、黒色斑少量化 内:866灰	外面:回転ヘタケツリ。回転ヘタリ 内面:ナメ	
21-86	11	861	第1回 杏区	鉢形罐	圓底盤	口径:10.1cm 高さ:3.8cm	1/4	外:866灰 内:87/90白 黒:866灰	ø1mm程度の白色砂 粒、黑色斑合む 内:87/90白	外面:回転ナメ。回転ヘタケツリ 内面:回転ナメ。ナメ	
21-87	10	890	第1回 杏区	鉢形罐	圓底盤	口径:10.2cm 高さ:3.0cm	底部1/12 底部2/3 底盤1/8	外・内・黒:2.5Y6/1黒灰 高さ:1.2cm	ø1mm以下の石粉含む	外面:回転ナメ。回転ヘタリ後ナメ 内面:回転ナメ	口縁部歪みあり
21-88	10	904	第1回 杏区	鉢形罐	圓底盤	口径:10.5cm 高さ:1.1cm	底部1/3 高さ:1.1cm	外・内・黒:87/90白 高さ:1.1cm	ø1mm以下の石粉 粒を少量含む	外面:回転ナメ 内面:回転ナメ	
21-89	10	813	第1回 杏区	鉢形罐	圓底盤	口径:10.8cm 高さ:3.3cm	底部1/3 底部2/3	外・内・黒:87/90白 高さ:1.3cm	ø1mm程度の白色砂 粒、黒色斑合む 内:87/90白	外:回転ヘタリ 内面:回転ナメ。ナメ	
21-90	10	822	第1回 杏区	鉢形罐	圓底盤	口径:10.3cm 高さ:3.3cm	底部1/16 底盤1/16	外・内・黒:2.5Y6/1黒灰 高さ:1.3cm	ø1mm程度の白色砂 粒 内:85/90、88/90白	外面:回転チヂ 内面:回転ナメ	
21-91	10	771	第1回 杏区	鉢形罐	圓底盤	口径:10.5cm 高さ:1.3cm	1/5	外:84/8 内:866灰 黒:85/90、88/90白	ø1mm以下の石粉の石 粒を中量含む	外面:回転ヘタケツリ 内面:回転ナメ	
21-92	10	821	第1回 杏区	鉢形罐	圓底盤	口径:10.3cm 高さ:3.5cm	底部1/12 底盤1/12	外・内・黒:2.5Y6/1黒灰 高さ:1.2cm	ø1mm以下の石粉含む	外面:回転ナメ 内面:回転ナメ	
21-93	10	809	第1回 杏区	鉢形罐	圓底盤	口径:10.2cm 高さ:2.7cm	底部1/12 底盤1/12	外・内・黒:2.5Y7/1黒白 高さ:1.2cm	ø1mm程度の白色砂 粒多く含む	外:回転ヘタケツリ。回転ヘタリ 内面:回転ナメ。ナメ	
21-94	15	831	第1回 杏区	鉢形罐	圓底盤	口径:10.4cm 高さ:3.5cm	1/3	外:2.5Y7/1黒白 内:866灰 黒:2.5Y7/1黒白	ø1mm以下の石粉含 む 内:866灰	外面:回転ナメ。回転ヘタケツリ後回転ナ メ 内面:ナメ	
21-95	10	894	第1回 杏区	鉢形罐	圓底盤	口径:10.7cm 高さ:3.3cm	底部1/12 底盤1/6	外:866灰 内・黒:2.5Y6/1灰 高さ:1.2cm	ø1mm以下の石粉含む	外面:回転ナメ 内面:回転ナメ	
21-96	15	828	第1回 杏区	鉢形罐	圓底盤	口径:10.4cm 高さ:3.7cm	底部1/4 底盤1/12	外:2.5Y5/1黒灰、2.5Y6/1黒 内:2.5Y6/2黒 高さ:1.2cm	ø1mm以下の石粉含む 内:2.5Y6/1黒	外面:回転ナメ 内面:回転ナメ	ツメ相錯
21-97	15	789	第1回 杏区	鉢形罐	圓底盤	口径:10.6cm 高さ:3.9cm	底部1/12 底盤1/6	外:2.5Y7/1黒白 内・黒:2.5Y7/1黒白、2.5Y7/2黒 高さ:1.2cm	Gsm以内の砂利含む	外面:回転ナメ 内面:回転ナメ	
21-98	15	856	第1回 杏区	鉢形罐	圓底盤	口径:10.6cm 高さ:4.1cm	底部1/12 底盤1/8	外:2.5Y5/1黒灰 内:87/90白 黒:2.5Y7/1黒白 高さ:1.4cm	ø1mm以下の石粉含む 内:87/90白	外:回転ナメ 内面:回転ナメ	
21-99	12	843	第1回 杏区	鉢形罐	圓底盤	口径:10.6cm 高さ:3.8cm	底部1/16 底盤1/8	外:2.5Y5/1黒灰 内・黒:2.5Y6/1黒灰 高さ:1.1cm	ø1mm以下の石粉含む 内:865灰	外面:回転ナメ 内面:回転ナメ	
21-100	13	799	第1回 杏区	鉢形罐	圓底盤	口径:10.6cm 高さ:4.5cm	底部1/4 底盤1/8	外:2.5Y5/1黒灰 内:87/90白 黒:2.5Y6/1黒 高さ:1.6cm	ø1mm以下の石粉含む 内:87/90白	外面:回転ナメ 内面:回転ナメ	
21-101	13	750	第1回 杏区	鉢形罐	圓底盤	口径:10.6cm 高さ:3.15cm	底部1/16 底盤1/4	外:2.5Y5/1黒灰 内:87/90白 黒:2.5Y6/1黒 高さ:0.8cm	ø1mm以下の石粉含む 内:87/90白	外面:回転ナメ 内面:回転ナメ	

表5 11-1区出土遺物観察表(5)

件名	回復 番号	実測 No.	区	出土地	器種	形態	法量(cm)	残存	色調	胎土	調整	備考
21-11 763	第1周	沿岸域	泥炭層	环	高さ:(2.9) 径幅:(11.15)	高台1/8	外・内・黒:10YR7/18EZ	(2.5mm以下の少様含む)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ			
102												
21-12 855	第1周	沿岸域	泥炭層	環	高さ:(4.4) 径幅:(2.15)	高台～高台部 一部	外: NS/9R 内・黒: NR/9R	赤(1mm程度の砂粒、黒 色點含む)	外面:回転ナデ、ナデ 内面:回転ナデ			
103												
21-12 877	第1周	沿岸域	泥炭層	台付環	高台付:(1.7) 径幅:(2.15)	高台1/8	外: 2.5Y7/18R 内・黒: NR/9R	赤(1～1mm程度の石 粒を少量含む)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ			
104												
21-12 893	第1周	沿岸域	泥炭層	环	高さ:(2.3) 径幅:(1.9)	高台1/8	外: N6/9R, NS/9R 内・黒: NR/9R	(2mm以内の少様含む)	外面:回転ナデ 内面:ナデ多方面			
105												
21-12 897	第1周	沿岸域	泥炭層	环	高台付:(0.8) 径幅:(1.9)	高台1/3	外: N6/9R, NT/9R 内: NT/9R	赤(1～1mm程度の石 粒を微量含む)	外面:回転ナデ、ナデ 内面:回転ナデ			
106												
21-12 882	第1周	沿岸域	泥炭層	环	高台付:(1.0) 径幅:(2.2)	高台1/3	外・内: NL/9R 内: NS/9R	赤(1～4mm程度の石 粒を少様含む)	外面:回転ナラズリ 内面:回転ナデ、ナデ			
107												
21-12 876	第1周	沿岸域	泥炭層	环	高台付:(1.1) 径幅:(2.7)	高台1/3	外: 10YR6/1MER 内: NT/9R 外: 2.5Y7/18EZ 内: 2.5Y7/18EZ	赤(1～1mm程度の石 粒を微量含む)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ			
108												
21-12 908	第1周	沿岸域	泥炭層	环	高さ:(1.4) 高台付:(10.9)	高台1/2	内・外: NS/9R 外: 7.5YR6/28R	(3mm以内の少様含む)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ			
109												
21-11 802	第1周	沿岸域	泥炭層	环	高さ:(2.3) 高台付:(9.9)	高台1/2	外: N6/9R 内: NT/9R 外: N6/9R, NT/9R	赤(1～1mm程度の石 粒を少様含む)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ			
110												
21-12 905	第1周	沿岸域	泥炭層	环	径幅:(8.7) 径幅:(1.6)	高台1/2	外: 7.5YR6/36R 内: NL/9R 外: SYRS/28R	中や赤(1～1mm程度 の石粒を少様含む)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ			
111												
21-12 902	第1周	沿岸域	泥炭層	台付環	高台付:(0.6) 径幅:(2.7)	高台1/3	外: 2.5Y7/18EZ, 2.5Y7/18EZ 内・外: 2.5Y/18R	赤(1～2mm程度の石 粒を微量含む)	外面:回転の赤手印 内面:回転ナデ			
112												
21-13 898	第1周	沿岸域	土師器	环	口径:(12.8) 径幅:(2.15)	口径部1/12 外: 10YR7/32C/25-35 内: 10YR7/32C/25-35	外: 10YR7/32C/25-35 内: 10YR5/1MER	(1mm以下のチャート、 白石、石墨、カサリ繊 維含む)	外面:ナデ、ユビオサエ 内面:焼成の赤手印			
113												
21-13 896	第1周	沿岸域	土師器	环	口径:(11.8) 径幅:(3.4)	口径部・外縁 外: 7.5YR7/42EZ 内: 2.5YR/18R	(2mm以内のチャート、 白石、石墨、カサリ繊 維含む)	外面:焼成の赤手印 内面:白石、石墨、カサリ繊 維含む				
114												
21-13 885	第1周	沿岸域	土師器	环	口径:(11.2) 径幅:(3.4)	1/8	外: 7.5YR8/4MER 内: 2.5YR/18R 外: 7.5YR/18R	赤(1～4mm程度の石 粒を少様含む)	外面:ナデ 内面:ナデ、ヨコナデ	内面とも焼成し ている		
115												
21-11 848	第1周	沿岸域	土師器	壺	高さ:(2.8) 径幅:(5.9)	高部1/8 底部完形	外・内・黒: 10YR7/42C/25-35 外: 10YR7/42C/25-35	(1.5mm以下の白石、チ ャート、カサリ繊維含む)	外面:ナデ、ユビオサエ 内面:ナデ	埋付		
116												
21-13 866	第1周	沿岸域	土師器	壺	高さ:(5.5) 口径:(2.5)	1/8	外・黒: 7.5YR8/4浅黄 内: 7.5YR8/28R	赤(1mm程度の白色砂粒 を微量含む)	外面:ナデ 内面:ヘラケズリ			
117												
21-13 867	第1周	沿岸域	土師器	壺	口径:(21.0) 径幅:(7.5)	1/10	外: 7.5YR7/42C/25-35 内: 10YR7/25C/25-35 外: 5YR7/0	赤(1mm程度の白色砂粒 を微量含む)	外面:ナデ、ハケ 内面:ヘラケズリ			
118												
21-13 911	第1周	沿岸域	土師器	壺	高さ:(5.1) 口径:(23.6)	1/8	外: 10YR7/25C/25-35 内: 10YR8/28R 外: 10YR8/28R	(1.5mm以下のチャー ト、白石、石墨、カサリ繊 維含む)	外面:ヨコナデ 内面:ハケ			
119												
21-13 897	第1周	沿岸域	土師器	壺	口径:(10.89) 径幅:(4.0)	口径部1/8 頭・底1/8	外・内・黒: 10YR7/42C/25-35 外: 10YR7/42C/25-35 頭・底1/8	(2mm以内のチャート、 白石、石墨、カサリ繊 維含む)	外面:焼成の赤手印 内面:ハケ			
120												
21-13 893	第1周	沿岸域	土師器	壺	口径:(20.3) 径幅:(5.0)	口径部1/8	外: 10YR7/32C/25-35 内: 10YR7/32C/25-35 頭・底1/8	中や赤(1～6mm程度 の石粒、白石、石墨、 カサリ繊維含む)	外面:ヨコナデ、ハケ、 ユビオサエ 内面:ヨコナデ			
121												
21-13 886	第1周	沿岸域	土師器	把手	径幅:(4.35) 幅:(2.2) 厚:(1.3)	把手下方 幅:(2.85)	外・内・黒: 10YR6/1MER 内: 10YR6/28R 外: 10YR6/28R	赤(1～1mm程度の白 石、白石を少量含む)	外面:ナデ 内面:ナデ、ハケ			
122												
21-13 868	第1周	沿岸域	土師器	壺	径幅:(5.7) 幅:(6.1)	把手	外: 7.5YR7/6R 内: 7.5YR8/32浅黄 外: 7.5YR8/18R	赤(1～3.5mm程度の 石粒を少様含む)	外面:ユビオサエ、ナデ 内面:ナデ			
123												
21-14 906	第1周	沿岸域	泥炭層	壺	径幅:(5.4) 幅:(11.3)	1/8	外: 2.5Y7/18EZ 内: 2.5Y7/18EZ	5mmの砂粒含む	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ			
124												
21-14 792	第1周	沿岸域	泥炭層	壺	径幅:(5.15) 幅:(5.9)	1/8	外・内・黒: 2.5Y7/18EZ	赤(黒色を含む)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ			
125												
21-14 901	第1周	沿岸域	泥炭層	台付壺	高台付:(17.8) 径幅:(2.95)	高台部1/4	外・内・黒: NR/9R 内: 10YR6/28R 頭部	黒(約1～1mm以下の 石粒を微量含む)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ			
126												

表6 11-1区出土遺物観察表(6)

標印 番号	認定 番号	実用 名	区	出土地	器種	形態	法量(cm)	残存	色 調	胎 土	質 種	備 考
21-14	909	第11區	包装層	瓦當層	瓦付瓦	高面:△2.6 低面:△0.29	底面3/16	外:白 内:朱Y7/1朱白 軸:SYS1朱	1mm以下の砂利含む 内:回転ナデ	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ		
127												
21-15	764	第11區	包装層	瓦當層	瓦付瓦	高面:△3.0 低面:△1.4	底面3/8	外:白 内:朱Y7/1朱白 軸:SYS1朱	1.5mm以下の砂利含む 内:回転ナデ	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ		
128												
21-15	794	第11區	包装層	瓦當層	瓦付瓦	高面:△2.1 低面:△2.2	底面3/12	外:白・内:朱:NT/朱白	1mm以下の砂利含む 内:回転ナデ	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ		
129												
21-14	895	第11區	包装層	瓦當層	瓦	口徑:△2.75 高面:△3.6	底面3/16	外:△2.5Y6/20朱 内:△2.5Y7/1朱白	△5mm以下の砂利含む 内:回転ナデ	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ		
130												
21-14	880	第11區	包装層	瓦當層	瓦	口徑:△2.4 高面:△4.0	底面3/16	外:△2.5Y6/20朱 内:△2.5Y7/1朱白	△5mm以下の砂利含む 内:石粉を微量に含む 軸:10YR4/1褐灰	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ		
131												
21-14	852	第11區	包装層	瓦當層	瓦	口徑:△9.4 高面:△5.2	底面3/16	外:△・内:朱:NT/朱白	△2mm程度の砂利含む 内:回転ナデ	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ		
132												
21-15	833	第11區	包装層	瓦當層	瓦	口徑:△2.6 高面:△5.2	底面3/8	外:白 内:朱:NT/朱白	△1mm以下の砂利含む 内:軸を幾層に含む	外面:回転ナデ 回転ヘタツリ 内面:回転ナデ		
133												
21-14	842	第11區	包装層	瓦當層	不明	口徑:△3.6 高面:△6.1	底面3/12	外:△2.5Y6/20朱 内:△:NS/NC	△5mm以下の砂利含む 内:ヨコナデ	外面:ヨコナデ カキ目赤~茶本/茶 内面:ヨコナデ	外曲うすく凹かぶり	
134												
21-14	770	第11區	包装層	瓦當層	高H	基盤付:△6.4 高面:△2.0	△ごくわずか	外:△・内:△:NS/NC 軸:SYRS/20朱	△1mm以下の砂利含む 内:石粉を微量に含む	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	透孔	
135												
21-14	812	第11區	包装層	瓦當層	高H	口徑:△5.0 脚の一部	底面3/12	外:△10YR4/1 内:△2.5Y6/20朱	△1mm以下の砂利、黒色 内:△10YR4/1朱白	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ		
136												
21-16	847	第11區	包装層	瓦當層	廣	口徑:△20.9 高面:△3.1	底面3/8	外:△・内:△:2.5Y6/10朱白 1/10	△5mm以下の砂利含む 内:△:ヨコナデ	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ	焼成前穿孔1ヶ所残 存孔径0.6cm	
137												
21-16	834	第11區	包装層	瓦當層	廣	口徑:△1.0 高面:△5.3	底面3/10	外:△・内:△:10YR5/1朱白 内:△:NS/NC	△4~2mmの小穴を多 量含む	外面:ナデ タキキ 内面:ナデ タキキ		
138												
21-16	889	第11區	包装層	瓦當層	廣	口徑:△10.0 高面:△2.5	底面3/12	外:△・内:△:2.5Y6/10朱白 内:△:2.5Y6/10	△5mm以下の砂利含む 内:△:ヨコナデ	外面:燒成の為不規 則		
139												
21-16	869	第11區	包装層	瓦當層	廣	口徑:△3.0 高面:△3.1	底面3/16	外:△2.5Y6/10朱白 内:△2.5Y5/20朱 軸:2.5Y6/20朱	△5mm以下の砂利含む 内:△:ヨコナデ	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ	ほぼ全面に自然端	
140												
21-16	881	第11區	包装層	瓦當層	錘	口徑:△2.4 脚:△2.4	△一部	外:△:SYR1朱 内:△:2.5Y6/10朱白 軸:2.5Y6/10	△4~4mm程度の石 粉を少量含む	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	全体的に焼成が進 しい	
141												
21-15	875	第11區	包装層	瓦當層	廣	基盤付:△8.0 高面:△14.1	底面3/8	外:△:NT/NC 内:△:2.5Y6/10朱白 1/6	△3mm程度の石 粉を少量含む	外面:ヨコナデ 平行タキと後方14軋 内:ヨコナデ 肩心内タキタキ		
142												
21-15	838	第11區	包装層	瓦當層	ハサワ	口徑:△3.8 脚:△3.9	底面3/8	外:△:SY4/1朱 内:△:SY6/1朱白	△5mm以下の砂利含む 内:ヨコナデ ヘタツリ後方9.5日本 1/6	外面:ヨコナデ ヘタツリ後方9.5日本 内:ヨコナデ	焼成前穿孔1ヶ所	
143												
21-16	841	第11區	包装層	瓦當層	錘	口徑:△4.45 脚:△2.4	基盤付	外:△:NS/NC 内:△:NS/NC 軸:△:NS/NC	△5mm以下の砂利含む 内:△:ヨコナデ	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ	直方形透孔	
144												
21-16	849	第11區	包装層	瓦當層	錘	口徑:△4.55 脚:△2.4	基盤付	外:△:NS/NC 内:△:NS/NC 軸:△:NS/NC	△5mm以下の砂利含む 内:△:ヨコナデ	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ	直方形透孔	
145												
21-16	766	第11區	包装層	瓦當層	圓筒	口徑:△4.8 脚:△2.0	底面3/8	外:△・内:△:NS/NC 内:△:SYR1朱白	△5mm以下の砂利含む 内:△:ヨコナデ	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	透孔2ヶ所残存	
146												
21-16	862	第11區	包装層	瓦當層	圓筒	長さ:△7.7 幅:△2.9	△部分のみ	外:△:NT/NC 内:△:2.5Y6/10朱白 軸:△:7.0	△2mm程度の白色透 孔、黒色を含む	外面:ヘタツリ ナデ		
147												
21-16	751	第11區	包装層	土師器	土師器	口徑:△27.9 高面:△9.15	底面3/8	外:△:2.5Y6/10朱白 内:△:2.5Y6/20朱白	△5mm以下のチャート 長石、石英、クサリ透 孔	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ		
148												
21-15	1009	第11區	包装層	瓦當層	錘	口徑:△2.3 高面:△29.35 軸:△7.0	底面3/8	外:△・内:△:2.5Y7/10朱白 内:△:4/5 軸:△:2/2	△5mm以下の砂利含む 内:△:ヨコナデ	外面:ヨコナデ ユビナデ コビモサエ 内面:ヨコナデ ナデ		
149												
21-16	839	第11區	包装層	金属性	不明	長さ:△6.05 厚さ:△1.2倍 0.33 傾:△2.6度 重:△1.9kg	△	外:△:SY6/1朱 内:△:SY7/1朱白 SYR1朱白 軸:△:10YR8/1朱白	△3mm以下の砂利含む 内:△:ヨコナデ	外面:タキと後方14軋 内:ヨコナデ		
150												
24-15	805	第2回 古区	S-P280	瓦當層	廣	口徑:△2.0	底面3/8	外:△:SY6/1朱 内:△:SY7/1朱白 SYR1朱白 軸:△:10YR8/1朱白	△3mm以下の砂利含む 内:△:ヨコナデ	外面:タキと後方14軋 内:ヨコナデ		
151												
26-16	874	第2回 古区	S-K341	瓦層	錘	口徑:△3.2	△一部	外:△:NS/NC 内:△:NS/NC 軸:△:10Y7/1朱白	△1mm以下の砂利微細 含む	外面:ナデ ハラミガキ 内面:ナデ		
152												

表7 11-1・94-1区出土遺物観察表

件名	図面 番号	実測 No.	区	出土地	層位	断面	法面 (cm)	残存	色調	地土	調整	備考
26 153	16 153	872 第2調 西区	5・K341	瓦礫	複	高台付：(4.6) 路高：△3.1	高台1/4	W：10YR7/2C-5(調査 内：7.5YR7/4C(照査 部)	1m以下(約) の砂利地盤 含む	外山：ナダ 内山：ナダ		
26 154	16 154	1168 第2調 西区	5・K341	瓦礫	複	高台付：(3.6) 路高：△3.7	高台部1/10	W：10YR7/1BEE 内：7.5YR7/4C-5(調査 部)	1m以下(約) の白色砂利 地盤	外山：ナダ、ユビオサエ 内山：ナダ		
26 155	15 155	873 第2調 西区	5・K341	土脚層	複	W：9.3 路高：△3.7	1/3	W：10YR7/4C-5(調査 内：7.5YR7/4C-5(調 査部)	1m以下(約) の砂利地盤 含む	外山：ナダ、ユビオサエ 内山：ナダ		
27 156	16 156	760 第2調 西区	瓦沢層	泥炭層	複	W：10.0 路高：△2.9	1/4	W：10YR7/1BEE 内：10YR7/1BEE	(1m以内の砂利含む)	外山：回転ハケツリ 内山：回転ナダ		
27 157	15 157	783 第2調 西区	瓦沢層	泥炭層	複	W：10.4 路高：△4.0	1/3 路部2/3 瓦部2部完形	W・内・外：10YR7/1BEE 内：10YR7/1BEE	1.5m以下(約) の砂利含む	外山：回転ナダ、回転ハケツリ 内山：回転ナダ		
27 158	16 158	778 第2調 西区	瓦沢層	泥炭層	複	W：10.0 路高：△2.15	1/3 路部1/6	W：2.5YR7/1BEE, 2.5YR7/2BEE 内：1.5YR7/1BEE	(1m以下(約) の砂利含む)	外山：回転ナダ		
27 159	15 159	761 第2調 西区	瓦沢層	泥炭層	複	W：10.0 路高：10.35	1/2	W：10YR4/1BEE, NA/BR, 36E/灰 内：1.56E/灰 NA/NS, NS/灰	1.6～1mm程度の石 粒を少許含む	外山：ナダ		
31 160	17 160	1136 谷生	黒	高	△2.85 純性：(2.1)	瓦澤完形	W：10YR7/3C-5(調査、10YR4/1照査 内：10YR7/2C-5(調査 部)：10YR6/2B(瓦澤)	3m以内の長石、チャ ート、石斑、クサリ織合 む	外山：平行ラカリ(4本/1m), ナダ、ヨビ 内：ヘラケツリ	瓦澤完形		
31 161	17 161	1191 土脚層	灰	W：12.5 路高：3.9	ほぼ完形	W：7.5YR6/6(6) 内：53B6/6(6), 10YR6/6(瓦澤部) NA/NS(6)	0.6(～1mm以下) の砂利含む	外山：ナダ 内：ナダ、暗火				
31 162	29 162	1142 土脚層	灰	W：16.8 路高：△5.99	瓦澤・他部	W：7.5YR6/6(6) 内：7.5YR7/6(6) 瓦部1/5	1mm以内の長石、チャ ート、クサリ織合含 む	外山：ヘラケツリ、ユビオサエ 内：ヨコナチのち頭火				
31 163	17 163	1119 土脚層	灰	W：19.0 路高：△6.0	1/4	W：7.5YR7/6-6/6B 内：53B6/6(6)	0.6(～5mm程度の石 粒を幾箇所含む)	外山：ヨコナチ、ミカモ、ユビオサエ 内：ヨコナチ、暗火				
31 164	20 164	1165 土脚層	黒	W：20.2 路高：3.8 純性：(17.0)	瓦澤部・他部 瓦部1/8 瓦部1/6	W：7.5YR8/3(瓦澤部) 内：7.5YR6/4(他部)、7.5YR7/4に近 似	1mm以内の長石、チャ ート、クサリ織合含 む	外山：ナダ 内：ヨコナチ、ナダ		瓦澤部近くに黒斑		
31 165	29 165	1127 土脚層	黒	W：21.9 路高：2.9 瓦付高：(18.1)	瓦澤部1/12 他部1/8 瓦部1/10	W：7.5YR6/6(6) 内：2.5YR7/3(瓦澤 部)：7.5YR6/6(6)	0.5mm以内の長石、チャ ート、石斑含む	外山：ヨコナチ 内：ヨコナチのち頭火		瓦澤やや赤火		
21 166	17 166	1158 土脚層	黒	W：22.0 路高：2.5	1/4	W：5YR6/6-6/6B 内：53B6/6(6)	中空巣(0～5mm程度 の石粒を中量含む)	外山：ヘラケツリ、ユビオサエ 内：ヨコナチ、暗火、ナダ				
31 167	20 167	1135 土脚層	高灰	W：22.8 路高：△3.5	瓦澤部1/16 他部1/8	W：5YR6/6(6), 10YR6/6(瓦澤部) 内：灰：7.5YR7/4に近似	1.5m以内のチャ ート、長石、クサリ織合 む	外山：ナダ		内山とも瓦澤が 悪い		
31 168	20 168	1163 土脚層	灰	△1.45 純性付：(6.85)	瓦澤部1/2	W：10YR6/3C-5(調査、5YR6/6(6) 内：10YR3/1瓦澤、2.5Y/1瓦澤	2m以内の長石、チャ ート、クサリ織、石斑 含む	外山：ナダ				
31 169	17 169	1166 土脚層	高灰	W：11.0 路高：△3.6	瓦澤完形 他部ごく一部	W：7.5YR7/4C-5(調査、10YR6/2B(6) 内：灰：10YR7/4に近似	1.5m以内の長石、チャ ート、クサリ織、墨 色含む	外山：ヨコナチ、ヘラケツリ、ナダ 内：ヨコナチ、ヘラケツリ				
31 170	17 170	1183 土脚層	高灰	△1.45 路高：△3.55	瓦澤部	W：7.5YR8/1灰(白) 内：2.5YR7/3(瓦澤 部)：2.5Y/2(瓦澤)	0.6(～3mm以内のチ ャート、長石、クサリ織、 石斑多く含む)	外山：ナダ				
31 171	17 171	1197 土脚層	灰	△8.0 または 濃	瓦澤完形	W：2.5YR7/4(白) 内：灰：10YR8/2B(6) 5YR7/4(6)	中空巣(0～5mm程度 の石粒を中量含む)	外山：ナダ				
31 172	17 172	1147 土脚層	高灰	△7.4	瓦澤部1/3	W：1.10YR7/4C-5(調査 部上部瓦澤完形) 5YR6/6(6)	1m以下の長石、チャ ート、石斑、クサリ織 含む	外山：ナダ、ヘラケツリ 内：暗火		内山瓦澤が悪い		
31 173	20 173	1137 土脚層	黒	△8.6	瓦澤部1/16 上部1/8	W・内・灰：2.5YR7/6(6) 内：灰：10YR7/1灰(白)	2m以内の長石、チャ ート、石斑、クサリ織 含む	外山：ヨコナチ 内：ナダ、ヨコナチ、ユビオサエ				
31 174	20 174	1157 土脚層	他の 把手	把手 路高：△8.25 把手：△8.1 厚：3.05 厚：3.35	瓦澤の把手	W・内・灰：2.5YR7/1灰(白)	中空巣(0～5mm程度 の石粒を中量含む)	外山：暗火のため手明				

表8 94-1区出土遺物観察表(2)

標図 番号	回復 実用 No.	区	出土地	器種	形態	法量(cm)	残存	色調	胎土	質感	備考
31-17	1141		土師罐	壺	口径：(22.3) 高さ：(6.6) 底径：(10.25)	口縁部・頸部 5/16 胴部1/8	9×内・外：10YR8/0(淡黄褐色)	1.5mm以内の粗粒、チャート、ラサリ織、石灰化	外面：ヨコナデ。タテ方向ハケ 内面：横幅のため不明		
31-17	1128		土師罐	壺	口径：(8.8) 高さ：(5.5)	口縁部～胴部 1/2	9×内・外：10YR7/4(赤)	2mm以内の粗粒、チャート、ラサリ織、石灰化	外面：ヨコナデ。タテ方向ハケ面～本体1/2 内面：ハケ面～本体1/2、ヘラケアリ		
31-18	1133		土師罐	壺	口径：(10.0) 高さ：(5.5)	口縁部1/4 5/16 胴部1/8	9×内・外：10YR7/4(赤)	2mm以内の粗粒、チャート、ラサリ織、石灰化	外面：ヨコナデ。タテ方向ハケ面～本体1/2 内面：ヨコナデ、ヘラケアリ	外縁とも胎土が 濃い	
31-18	1154		土師罐	壺	口径：(20.0) 高さ：(5.2)	口縁部～上部胴 1/2	9×内：10YR8/0(淡黄褐色) 内：7.5YR8/0(淡黄褐色)	2mm以内の粗粒、チャート、石灰化	外面：ヨコナデ。折オサエ。ハケ目跡～本体1/2 内面：ヘラケアリ、ヘラケアリ	外縁とも胎土が 濃い	
31-18	1150		土師罐	壺	口径：(23.1) 高さ：(5.3)	口縁部～上部胴 9/16	9×内：10YR7/3C(淡い黄褐色) 内：7.5YR7/3C(淡い黄褐色)	1mm以内の粗粒、チャート、ラサリ織、石灰化	外面：ヨコナデ、ナメ、ヨビオサエ 内面：ヨコナデ、ボケナメ		
31-18	1121		土師罐	鉢	口径：(20.2) 高さ：(2.4)	口縁部～脚1/3 内：10YR8/0(淡黄褐色) 内：10YR7/3C(淡い黄褐色) 内：10YR8/0(淡黄褐色)	9×(φ～4mm)程度の石 英、長石等中量混入	外面：ヨコナデ 内面：ヨコハケ目跡(1cm)、ヨコナデ、ヨビ オサエ			
32-18	1176	回復層	研磨	口蓋	口径：(14.7) 高さ：(4.9)	3/4	外：86灰 内：N7/862	(φ～2mm)程度の砂 粒を中量含む	外面：回転ナメ。刮軸ヘラケアリ 内面：回転ナメ		
32-18	1177	回復層	研磨	口蓋	口径：(13.6) 高さ：(4.85)	1/3	外・内：86灰 内：N7/862	(φ～1mm)以下の砂 粒を少量含む	外面：回転ナメ。刮軸ヘラケアリ 内面：回転ナメ		
32-18	1180	回復層	壺	口径：(31.1) 高さ：(5.4)	口縁部1/7 胴部1/4 底部1/2	9×2.5YR6/1(黄赤)、2.5YR7/1(赤) 内：86灰 内：86灰	(φ～2mm)以下の砂 粒含む	外面：回転ナメ。折ヘラケアリ 内面：回転ナメ	外縁ばかりと若 子の自然地		
32-18	1194	回復層	研磨	口蓋	口径：(14.6) 高さ：(5.0)	1/3	9×5Y5/1R、2.5YR7/1(赤) 内：5Y5/1R、2.5YR7/1(赤)	(φ～1mm)程度の砂 粒混入	外面：回転ナメ。刮軸ヘラケアリ 内面：回転ナメ	外縁わずかに自然 地	
32-18	1202	回復層	研磨	口蓋	口径：(14.7) 高さ：(3.85)	口縁部1/4 休部ごと一部 内：N7/862 内：N7/862	9×(φ～1mm)程度の砂 粒混入	外面：回転ナメ 内面：回転ナメ			
32-18	1180	回復層	研磨	口蓋	口径：(12.6) 高さ：(4.9)	口縁部1/2 休 体・大底部分1/6 内：86灰	9×(φ～1mm)程度の砂 粒含む	外面：回転ナメ。刮軸ヘラケアリ 内面：回転ナメ			
32-18	1160	回復層	壺	口径：(31.0) 高さ：(4.3)	口縁部1/6 内：86灰 休・大底部分1/6 休・大底部分1/6	9×2.5YR4/1(赤)、2.5YR4/2(黄) 内：86灰 内：86灰	2.5mm以内の粗粒含む	外面：回転ナメ。折ヘラケアリ 内面：回転ナメ			
32-18	1198	回復層	研磨	口蓋	口径：(13.9) 高さ：(4.9)	は延形	9×N8/0(R)、N7/862 内：N8/0(R)	(φ～4mm)程度の石 英等少額含む	外面：回転ナメ。刮軸ヘラケアリ 内面：回転ナメ	天井部に網眼	
32-18	1174	回復層	研磨	口蓋	口径：(10.9) 高さ：(3.8)	口縁部・休部1/7 内：86灰 内：86灰	9×(φ～1mm)以下の砂 粒含む	外面：ナメ。刮軸ヘラ切らのち細いナメ 内面：回転ナメ			
32-18	1167	回復層	壺	口径：(30.9) 高さ：(3.05)	口縁部1/6 休部1/2 内：86灰 内：86灰	9×2.5YR6/2(黄)、2.5YR7/1(赤) 内：86灰 内：86灰	1mm以内の粗粒含む	外面：回転ナメ。刮軸ヘラ引りのちナメ 内面：回転ナメ	外全周的にまだ らに板かぶりと自 然地		
32-18	1190	回復層	研磨	口蓋	口径：(10.0) 高さ：(3.7)	口縁部2/3 大底部分	9×内：2.5YR7/1(赤)	(φ～1mm)程度の砂 粒含む	外面：回転ナメ。刮軸ヘラ切り、ナメ 内面：回転ナメ		
32-18	1164	回復層	壺	口径：(9.9) 高さ：(3.05)	口縁部1/3 休部1/2 内：86灰	9×N5/8 内：N5/8	1mm以下の粗粒含む	外面：回転ナメ 内面：回転ナメ	へき端を洗削。削 点穴		
32-18	1190	回復層	壺	口径：(10.2) 高さ：(3.2)	は延形	9×(φ～2mm)程度の砂 粒等少額含む	外：(φ～2mm)程度の砂 粒含む	外面：回転ナメ。刮軸ヘラケアリ 内面：回転ナメ			
32-18	1179	回復層	壺	口径：(8.8～9.2) 高さ：(2.9)	休 休・大底部分 内：86灰	9×(φ～1.5mm)以下の砂 粒等少額含む	外：(φ～1.5mm)以下の砂 粒等少額含む	外面：回転ナメ。刮軸ヘラケアリ 内面：回転ナメ	口縁部大きく歪む		
32-18	1185	回復層	壺	口径：(10.0～10.6) 高さ：(2.5)	口縁部4/5 休 休・大底部分 内：86灰	9×2.5YR6/2(黄) 内：10YR7/1(赤)	(φ～0.5mm)以下の砂 粒等少額含む	外面：回転ナメ。刮軸ヘラケアリ 内面：回転ナメ			
32-18	1178	回復層	壺	口径：(8.15) 高さ：(2.6)	は延形	9×(φ～2mm)程度の砂 粒等少額含む	外：(φ～1mm)以下の砂 粒等少額含む	外面：回転ナメ。刮軸ヘラケアリ 内面：回転ナメ	外全周的にうす く板かぶり		
32-18	1174	回復層	研磨	口蓋	口径：(15.0) 高さ：(2.9)	3/4	外：2.5YR7/1(赤) 内：N7/862	(φ～2mm)程度の砂 粒等少額含む	外面：回転ナメ。刮軸ヘラケアリ 内面：回転ナメ	口縫差	
32-18	1168	回復層	壺	口径：(7.7) 高さ：(2.45)	口縁部1/8 休部1/4	9×2.5YR6/1(黄) 内：86灰	1mm以下の粗粒含む	外面：回転ナメ。刮軸ヘラケアリ 内面：回転ナメ	重ね焼きの為外面 濃色(ナメかぶり)		
32-18	1148	回復層	壺	口径：(7.24)	大底部分2/3	2.5YR6/1(黄) 内：86灰	1mm以下の粗粒含む	外面：回転ナメ 内面：回転ナメ	外底灰かぶりと自 然地		
32-18	1150	回復層	研磨	口蓋	口径：(11.1) 高さ：(4.2) 受容杯：(12.0)	口縁部1/8 休部1/4	外・内：86灰 内：86灰	1mm以下の粗粒含む	外面：回転ナメ。刮軸ヘラケアリ 内面：回転ナメ		

表9 94-1区出土遺物観察表（3）

件名	図版 番号	実測 No.	区	出土地	器種	断面	法量 (cm)	残存	色調	胎土	調整	備考
32	22	1193		羽黒山	环身	口径：14.0 高さ：4.85 底盤は完全	口縁・側部 底盤1/2	外：N17/1RGL, 2.5YR/2灰黄 内・底：2.5YR/4灰黄	3mm以内の長石含む チート・ラサイ臍・石斑 多く含む	外面：回転ナメ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナメ		
202												
32	22	1188		羽黒山	环身	口径：11.0 高さ：5.2	口縁・側部3/4 底盤1/2	外：N16S/9R, 3N7/1灰黄 内・底：2.5YR/2灰黄	約1mm～1mm以下の砂 含む	外面：回転ナメ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナメ		
203												
32	22	1153		羽黒山	环身	口径：11.0 高さ：5.0 受部径：(12.4)	口縁部1/2 側部・底盤1/2 底盤3/4	外：N16S/9R, 3N6/1灰 内・底：N7/9R	1mm以内の長石含む	外面：回転ナメ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナメ		
204												
32	22	1189		羽黒山	环身	口径：11.6 高さ：4.75	口縁部1/2 側部4/5 底盤3/4	外・内：2.5YR/1灰白	5mm程度の砂粘少 含む	外面：回転ナメ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナメ	表面うす灰かぶ き	
205												
32	22	1145		羽黒山	环身	口径：(10.7) 高さ：4.5 受部径：(13.3)	口縁部1/2 側部1/4 底盤1/2	外・内・底：2.5YR/1灰白	1mm以内の長石含む	外面：回転ナメ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナメ		
206												
32	21	1201		羽黒山	环身	口径：(11.4) 高さ：△4.85 受部径：(12.7)	口縁部1/8 側部1/4 底盤1/2	外：N16S/9R, N5/9R 内・底：N8/9R 受：N7/9R	約1mm以下の砂粘 含む	外面：回転ナメ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナメ		
207												
32	22	1138		羽黒山	环身	口径：(10.6) 高さ：△4.55 受部径：(12.9)	口縁部5/16 側部1/4 底盤1/4	外・内・底：N7/9R白	2mm以内の砂粘含む	外面：回転ナメ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナメ		
208												
32	21	1200		羽黒山	环身	口径：(9.2) 高さ：△5.2	口縁部1/3 側部1/6 底盤1/6	外：N16S/9R白, N7/9R白 内・底：N8/9R白 受：N8/9R白	約1mm～2mm程度の砂 粘中量含む	外面：回転ナメ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナメ		
209												
32	22	1151		羽黒山	环身	口径：(10.7) 高さ：3.8 受部径：(13.0)	口縁部・側部・ 底盤5/16	外：N16S/9R, 10YR6/1灰黄 内：10YR6/1灰黄 受：2.5YR/2灰黄	1.5mm程の長石含む	外面：回転ナメ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナメ	砂器をした状態で 焼成の為内面より 透け	
210												
32	23	1156		羽黒山	环身	口径：(12.4) 高さ：7.15	2/3	外：5.5YR/1RC, N7/9R白	約1mm～6mm程度の石 粘を少量含む	外面：回転ナメ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナメ	細削	
211												
32	23	1155		羽黒山	环身	口径：(12.8) 高さ：△3.7	1/3	外・内：2.5YR/1灰白, N5/9R 内：N7/9R白 受：10YR8/1白	約1mm～2mm程度の石 粘を少含む	外面：回転ナメ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナメ		
212												
32	23	1140		羽黒山	环身	口径：(12.8) 高さ：3.8 受部径：(14.7)	口縁部1/2 側部1/6 底盤3/8	外・内・底：5N6/1灰 内・底：2.5YR/1灰白	3mm以内の長石含む	外面：回転ナメ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナメ		
213												
32	23	1187		羽黒山	环身	口径：(13.30) 高さ：4.6 受部径：(15.0)	ほぼ完形 高さ：△3.7	外・内：2.5YR/1, 2.5YR/2灰白 内：2.5YR/2白	約1mm～4mm以下の砂 粘含む	外面：回転ナメ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナメ		
214												
32	21	1204		羽黒山	环身	口径：(12.7) 高さ：△3.8	底盤1/12	外：N5/9R 内：N6/9R	砂粘(約1mm～1mm以下) 砂粘幾多含む	外面：回転ナメ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナメ		
215												
32	23	1139		羽黒山	环身	口径：(9.78) 高さ：△3.05 受部径：(12.0)	口縁部3/8 側部7/16 底盤3/8	外：2.5YR/1灰白 内・底：2.5YR/1灰白	1.5mm以内の長石含む	外面：回転ナメ、回転ヘラケズリ、ナメ 内面：回転ナメ		
216												
32	23	1144		羽黒山	环身	口径：9.65 高さ：2.6 受部径：(11.6)	口縁・側部1/4 底盤3/8	外：2.5YR/1灰白, 2.5YR/2灰白 内：2.5YR/1灰白	2.5mm以上の長石含む	内外面：回転ナメ	底部に焼成前跡在 (直径3.0cm)	
217												
32	23	1192		羽黒山	环	口径：10.5 高さ：2.3 受部径：(10.6)	口縁・側部3/6 底盤3/6	外：7.5YR/1灰, 2.5YR/2灰白 内：2.5YR/1灰白	約1mm～2mm程度の砂粘 含む	外面：回転ナメ、回転ヘラ切り、ナメ 内面：回転ナメ		
218												
32	23	1162		羽黒山	环	口径：9.4 高さ：△3.1 高台径：10.5	口縁・側部5/6 底盤1/6	外・内・底：5N6/1灰 内：2.5YR/2白	0.5mm以下の長石含む	外面：回転ナメ、回転ヘラキリのナメ 内面：回転ナメ	全体的にやや歪み あり	
219												
32	23	1152		羽黒山	环	口径：(14.0) 高さ：5.55 高台径：(9.43)	口縁部1/24 側部1/6 底盤5/8	外：2.5YR/1灰白, 2.5YR/2灰白 内：2.5YR/1灰白 受：2.5YR/1灰白	3mm以内の長石含む	外面：回転ナメ 内面：回転ナメ		
220												
32	21	1173		羽黒山	环	口径：(15.39) 高さ：5.3 高台径：10.5	口縁部1/12 側部3/6 底盤1/4	外：5.5YR/1RC, 2.5YR/2白 内：2.5YR/1灰白 受：2.5YR/2白	1mm以内の長石含む	内外面：回転ココナメ		
221												
32	21	1170		羽黒山	环	口径：13.2 高さ：4.25 底盤1/3	口縁・側部1/8 底盤1/3	外：5.5YR/1RC, N7/9R白 内：N7/9R白 受：2.5YR/2灰白	1.5mm以下の砂粘含む	外面：回転ナメ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナメ		
222												
32	21	1126		羽黒山	环	口径：(10.0) 高さ：4.2 天井部1/4	口縁・側部1/6 底盤2/3	外・内・底：2.5YR/1灰 内：2.5YR/2灰白	2mm以内の長石含む	外面：回転ヘラケズリ 内面：回転ナメ	ヘラ巻き洗継2条	
223												
33	23	1182		羽黒山	环	口径：11.3 高さ：△3.9 底盤1/5	口縁部16 側部3/6 底盤1/5	外：10YR6/1-5/1灰白 内：2.5YR/2灰白 受：2.5YR/1灰白	約1mm～1mm以下の砂 粘含む	外面：回転ナメ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナメ		
224												
33	25	1123		羽黒山	环	口径：(9.56) 高さ：△2.85 底盤1/6	新部1/3 底盤1/6	外・内：2.5YR/1灰白 内：5YR/1灰白	約1mm～5mm程度の長 石を少量含む	外面：回転ナメ、回転ヘラケズリ 内面：ナメ		
225												

表 10 94-1 区出土遺物観察表 (4)

標図 番号	回復 番号	実用 No.	区	出土地	器種	形態	法量 (cm)	残存	色 調	胎 土	質 構	備 考
35	25	1207		回復層	高杯	底付・直脚	底部1/4	外: N4/R、R6/R8 内: R8/R10	ø ~2mm以下の砂粒 含む	外面: 回転ナデ。カキ目 内面: ナデ		
226												
33	24	1154		回復層	高杯	底付1/4	全体1/5	外: R7/SY4/R8 内: R8/R10	0.5m以下の粗石含む	外面: カキ目 (10~11本/1cm) 内面: 多方向のナデ	透孔A7所か	
227												
35	25	1149		回復層	高杯	底付1/4	全体1/3	外・内・脚: 2.5Y8/2R8 脚部はほぼ焼形 底付1/2	1m以内の粗石含む	外面: ヨコナデ 内面: ヨコナデ	ヘラ焼き底付2条	
228												
33	25	1160		回復層	壺	口付: 1.26 底付: 1.05	口縁部は近方形 底付: 1.05	外: 10YR1/10R8、10YR8/10R8 内: 断: 10YR7/10R8	1m以内の粗石含む	外面: ヨコナデ 内面: ヨコナデ		
229												
33	25	1159		回復層	壺	口付: 1.05 底付: 0.86 側付: 0.25 底付: 0.65	口縁・底付7/10 底付3/8	外・内・脚: 10YR6/2R8 底付3/8	1m以下の粗石含む	外面: ヨコナデ 内面: ヨコナデ	外面とも灰かぶり、内面に自然層	
230												
33	24	1175		回復層	短脚壺	口付: 0.975 底付: 0.725 脚部: 0.6	口縁部1/11 脚部3/16 底付4%	外: N4/R 内: N6/R 脚: N7/R8/R	ø ~1mm以下の砂粒 含む	外面: ヨコナデ 内面: ヨコナデ		
231												
33	24	1203		回復層	付合壺	底付: 0.505 高付: 0.030	底付1/4	外: N4/R 内: N6/R 脚: N7/R8/R	ø ~5mm以下の砂粒 含む	外面: ナデ 内面: ナデ		
232												
33	25	1132		回復層	壺	底付: 0.78 脚部: 0.70 底付: 0.70	底付下部1/5 底付3/4	外: 2.5Y8/1R8 内: 2.5Y8/2R8 脚: 2.5Y8/2R8	2.5m以内の粗石含む	外面: 回転ヘラエリ、90度ナデ 内面: 回転ナデ	底部に細粒の底層	
233												
33	24	1146		回復層	壺	口付: 0.73 底付: 0.585	口縁・脚部 3/16	外: 2.5Y7/1R8 内: 2.5Y7/1R8 脚: 2.5Y7/1R8	1m以内の粗石含む	外面: ヨコナデ 内面: ヨコナデ	外面とも灰かぶり	
234												
33	24	1205		回復層	壺	口付: 0.60 底付: 0.385	口縁部1/12	外・内: 2.5Y7/1R8 脚: 2.5Y6/1黄灰	ø ~2mm以下の砂粒 含む	外面: ナデ 内面: ナデ		
235												
33	24	1125		回復層	壺	底付: 0.155	底付1/4	外・内・脚: SY6/1R8	ø ~1mm以下の砂粒 含む	外面: カキ目 (8~10本/1cm) 内面: ヨコナデ。同心丸タキ	ヘラ焼き底付シラ 焼き底付6~7孔	
236												
33	25	1120		回復層	壺	口付: 0.302 底付: 0.215	口縁部1/4	外: 2.5Y7/1R8 内: 2.5Y7/1R8 脚: N7/R8/R	ø ~2mm以下の砂粒含む 粗石を微量に含む	外面: ヨコナデ。カキ目 内面: ヨコナデ。同心丸タキ		
237												
33	24	1143		回復層	壺	底付: 0.68	口縁・脚部 2 く一端	外・内・脚: SY7/1R8 脚: 2.5Y7/1R8	2m以内の粗石含む	外面: ヨコナデ。平行タキ (3.4/1cm) 内面: カキ目 (9~10本/1cm) 内面: ヨコナデ。ナデ。同心丸タキ	内面とも灰かぶり	
238												
33	26	1129		回復層	壺	口付: 0.330 底付: 0.30	口縁部3/16	外: 2.5Y5/1黄灰 内: N7/R8/R	ø ~1mm以下の砂 粒含む	外面: ヨコナデ。カキ目 (12.6/1cm) 内面: ヨコナデ	8.6(+3.0)標準 底付灰層に4条の 縦書き底付文、6条の 横書き底付文	
239												
33	26	1181		回復層	壺	底付: 0.121	底付1/4	外: 2.5Y8/2R8 内: 2.5Y8/1R8	ø (~1mm以下のチ ート、長柱、カサリ 脚付)	外面: カキ目。平行タキ 内面: ヨコナデ。同心丸タキ		
240												
33	25	1161		回復層	平瓶	口付: 6.5 底付: 1.10.2 脚部: 1.16.7.3	口縁・脚部 斜付 斜脚1/8	外・内・脚: 2.5Y6/1黄灰 2.5Y7/2黄灰	1m以内の粗石含む	外面: ヨコナデ。カキ目 (10~11本/1 cm) 内面: ヨコナデ		
241												
33	25	1172		回復層	平瓶	口付: 0.010 底付: 0.005 脚部: 0.005	口縁部3/4 脚部斜形 脚部1/6	外: SY4/1R8 2.5Y7/2R8 内: 2.5Y6/1黄灰 2.5Y7/1R8 脚部1/6	1m以内の粗石含む	外面: ヨコナデ 内面: ヨコナデ。同心丸タキ	斜脚部分に灰か ぶり	
242												
34	25	1184		瓦器	壺	口付: 14.0~14.8 底付: 4.25	球足形	外: 1.5Y4/R8 2.5Y8/1R8 脚: 2.5Y8/1R8	中空付 ø ~1.5mm以 内の砂粒を含む	外面: ナデ 内面: ナデ、暗文	口縁部大きく歪む	
243												
34	26	1122		瓦器	壺	口付: 0.51.1 底付: 1.42.5	1/4	外: N6/R 2.5Y6/1R8 内: N5/R 3.5Y7/1R8 脚: N8/R8/R	ø (~1mm以下の 石粒を微量に含む)	外面: ナデ、スピオサエ 内面: ナデ。暗文		
244												
34	25	1199		瓦器	壺	口付: 0.33.0 底付: 1.47.5 脚付: 1.49.5	1/2	外: N6/R N4/R 内: N5/R 脚: SY7/1R8	ø (~1mm以下の砂 粒を含む)	外面: ナデ 内面: ナデ。ユビオサエ		
245												
34	26	1171		土師器	小壺	口付: 0.40 底付: 1.4	口縁・底付1/4	外: 1.0YR7/4C5/R 2.5Y8/1R8 脚: 2.5Y8/1R8	1.5mm粒の粗石、チ ート、クリミ、石 英、雲母含む	外面: ヨコナデ、ナデ 内面: ヨコナデ		
246												
34	26	1206		瓦器	割鉢	底付: 1.2.8 幅: 3.1	脚の一部	外: 2.5Y5/1黄灰 2.5Y8/1R8 内: 2.5Y6/1R8 脚: 2.5Y8/1R8	ø (~1mm以下の砂 粒を含む)	外面: ナデ 内面: ナデ		
247												
34	26	1131		瓦器	不明	底付: 1.14.9 幅: 1.14.0	不明	外: N6/R N5/R 内: 2.5Y7/2R8 脚: 2.5Y8/1R8	ø (~1mm以下の砂 粒を含む)	外面: ナデ。ナデ方向ハケ (8本/1cm) 石英、石英、ケシリ脚 含む		
248												

写 真 図 版

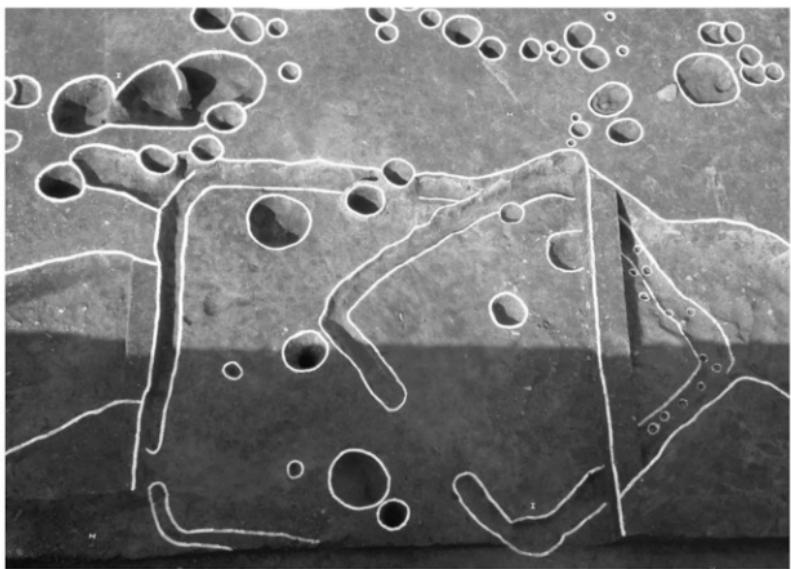




1. 11-1 第1調査区全景（北から）



2. 11-1 第1調査区全景（南から）



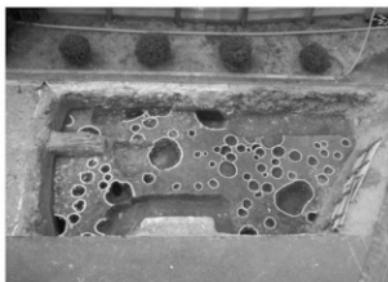
3. 11-1 第1調査区 S11・S12（南から）



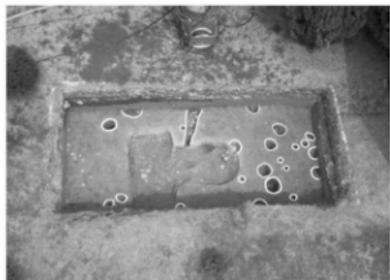
1. 11-1 第2調査区全景（東から）



2. 11-1 第3調査区全景（北から）



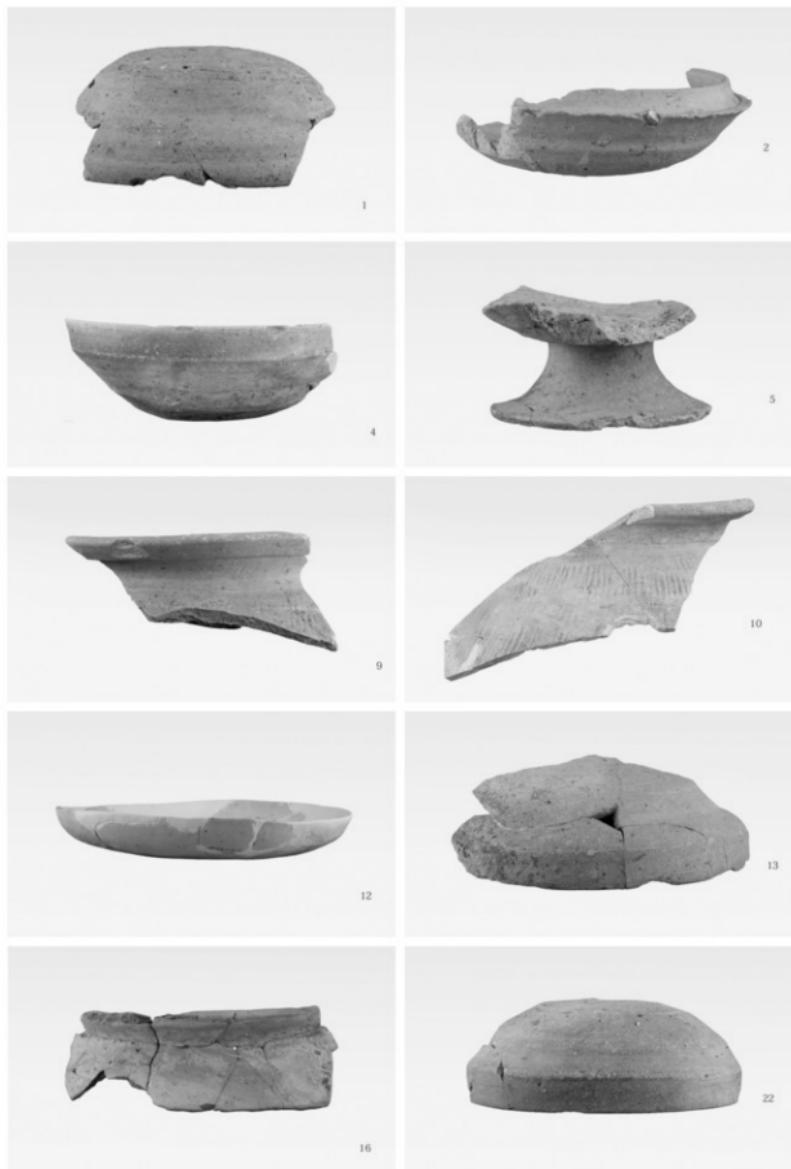
3. 11-1 第4調査区全景（東から）



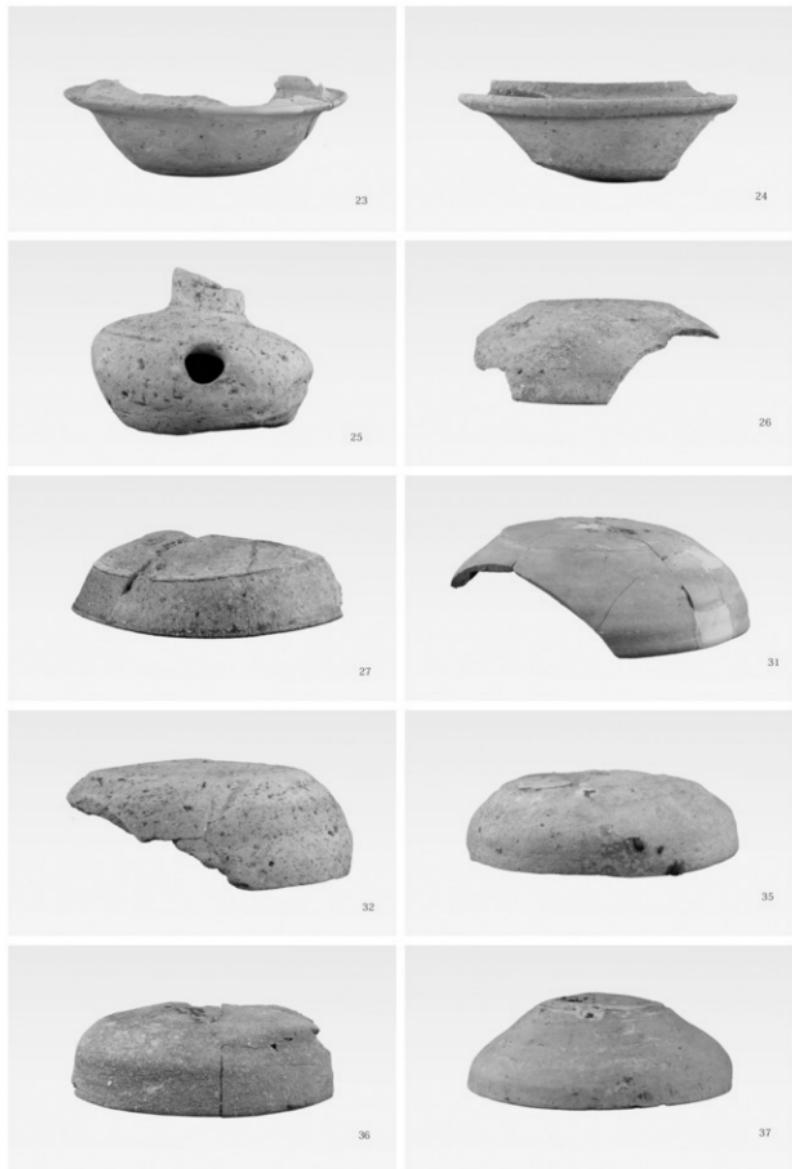
4. 11-1 第5調査区全景（南から）



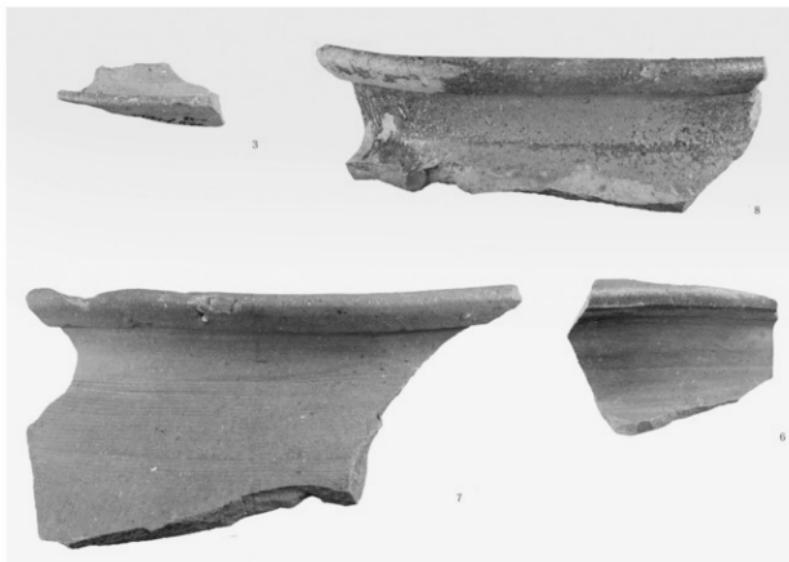
5. 94-1 調査区（東から）



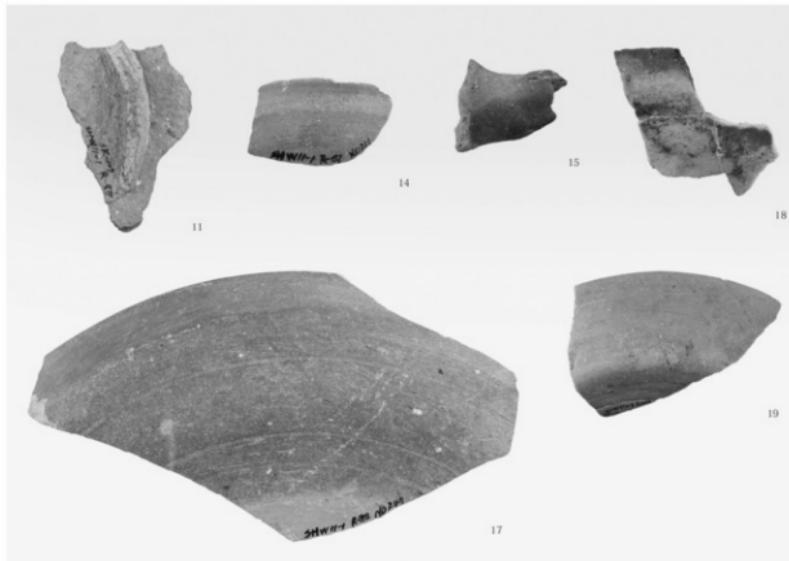
1. 11-1区 第1調査区 S I 1・2、S X 1、SK 211、SD 1出土土器



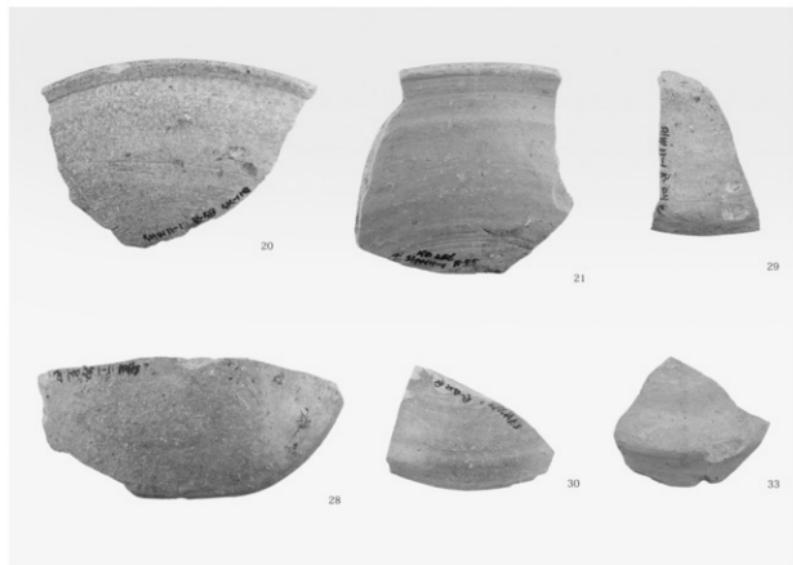
1. 11-1 区 第1調査区 SD 1、包含層出土土器



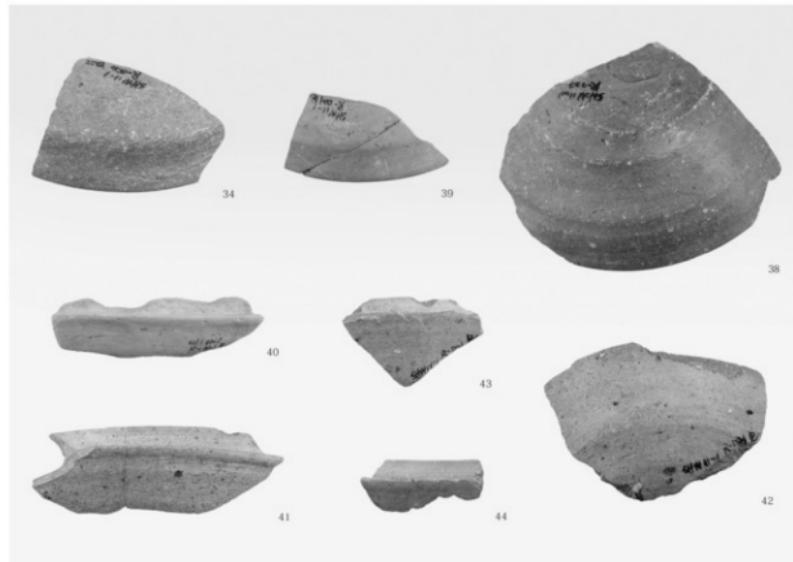
1. 11-1区 第1調査区 SX1出土土器



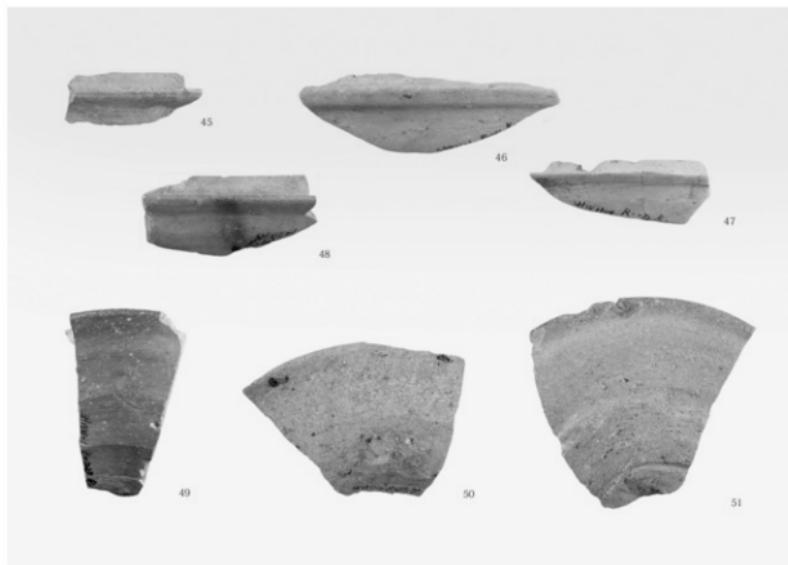
2. 11-1区 第1調査区 SP10・213、SK117・211・247出土土器



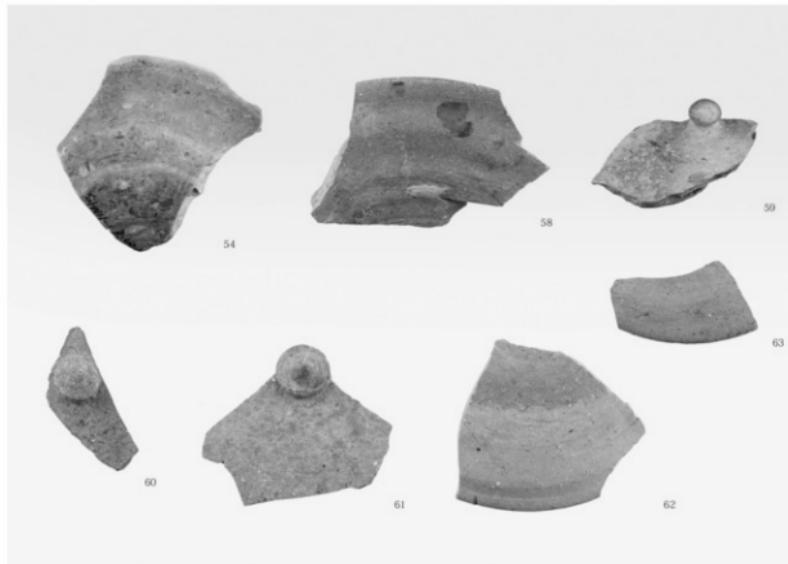
1. 11-1 区 第1調査区 S P 118・256、包含層出土土器



2. 11-1 区 第1調査区 包含層出土土器



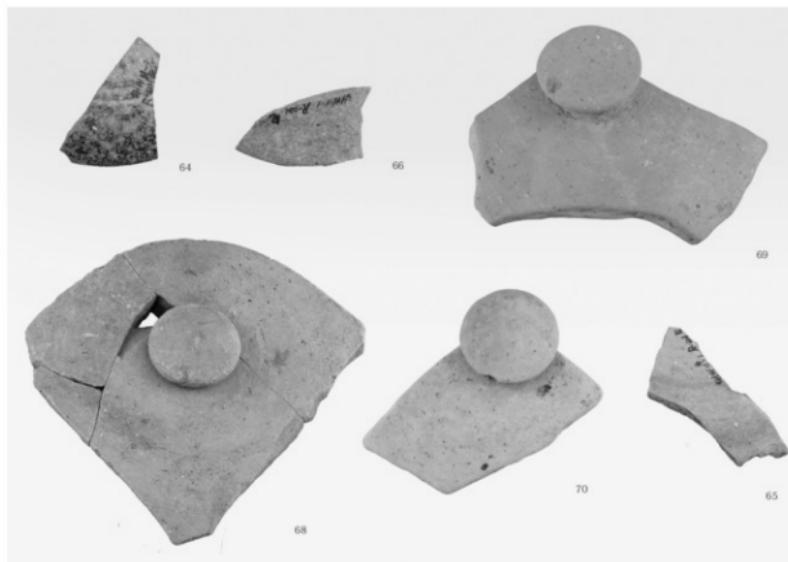
1. 11-1区 第1調査区 包含層出土土器



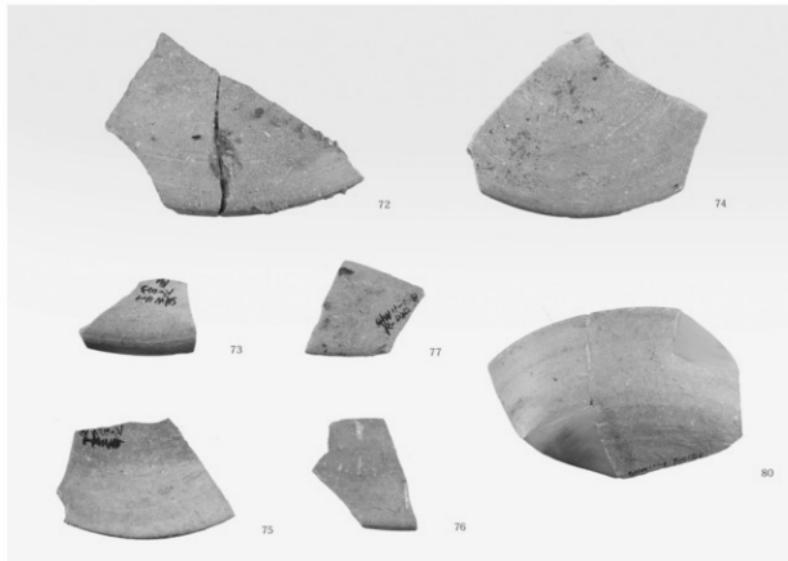
2. 11-1区 第1調査区 包含層出土土器



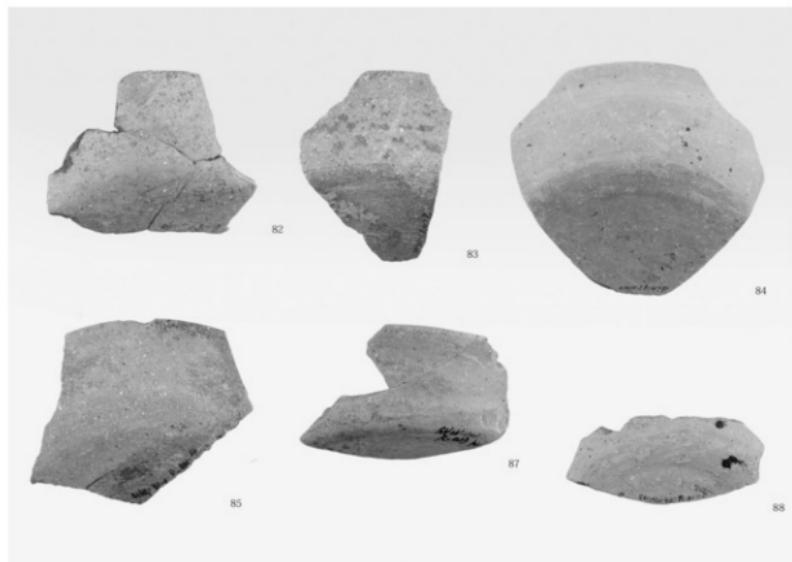
1. 11-1区 第1調査区 包含層出土土器



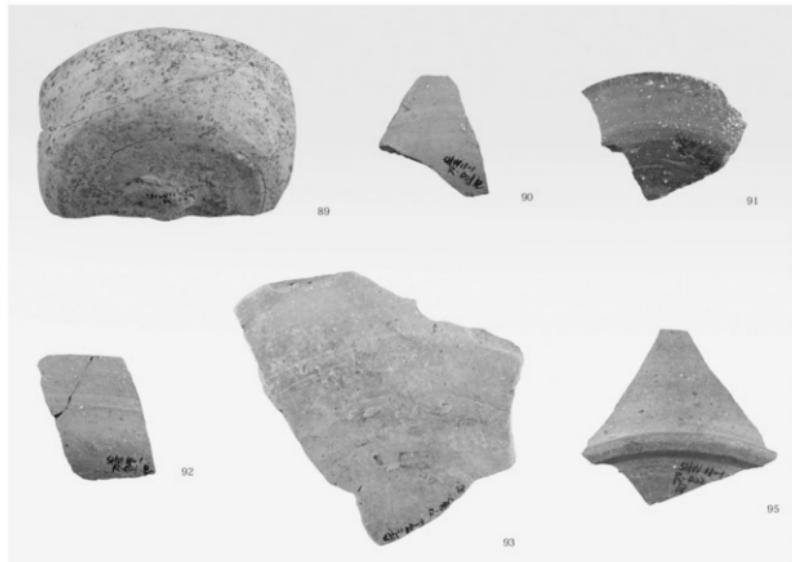
1. 11-1区 第1調査区 包含層出土土器



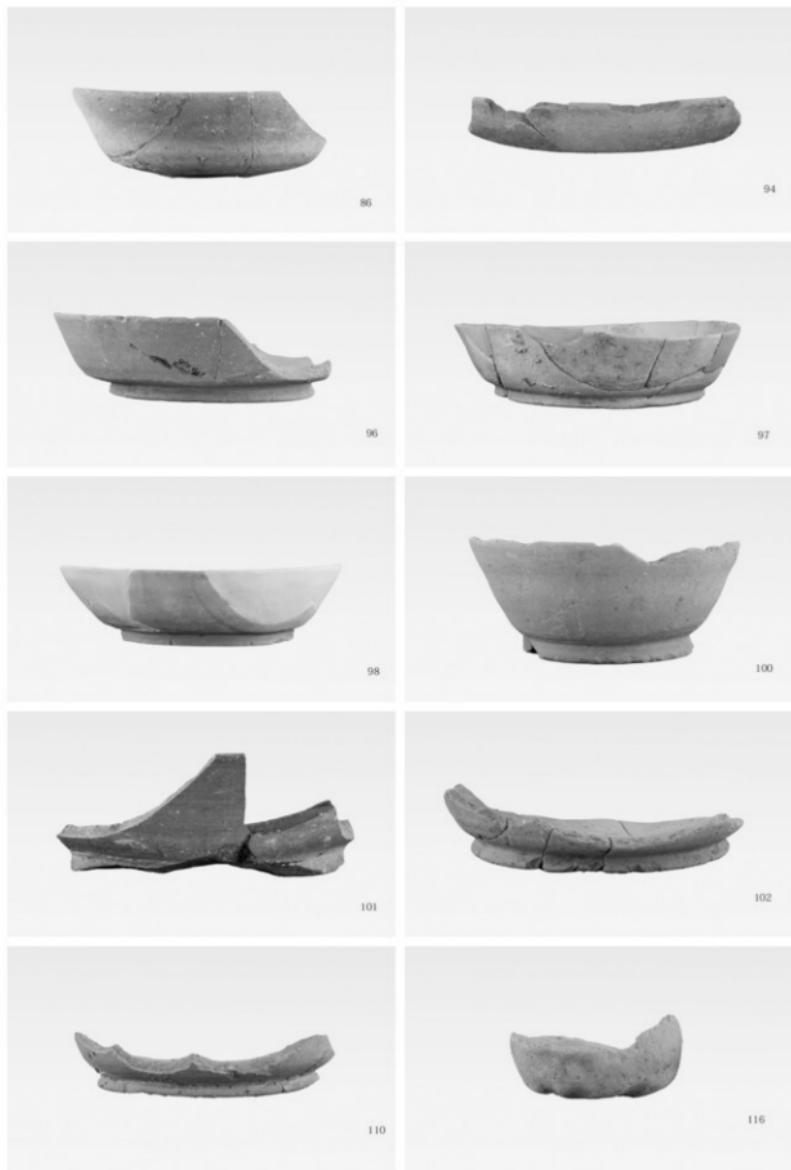
2. 11-1区 第1調査区 包含層出土土器



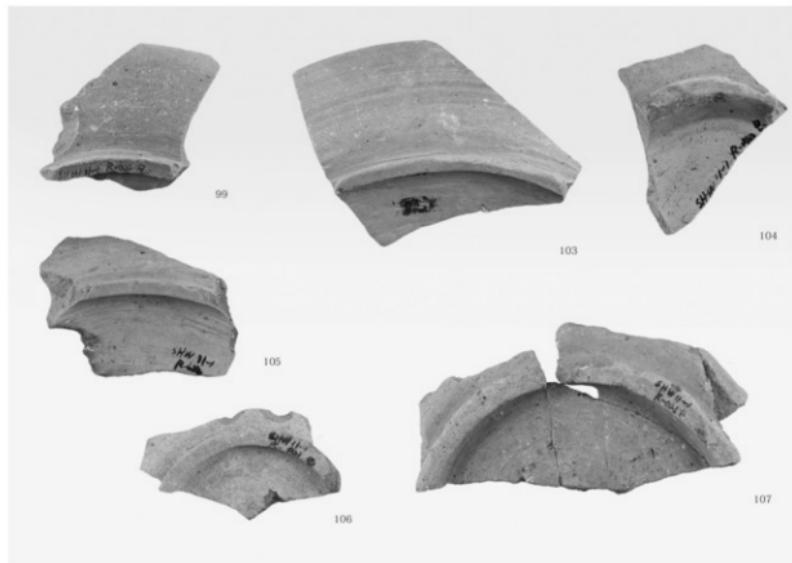
1. 11-1 区 第1調査区 包含層出土土器



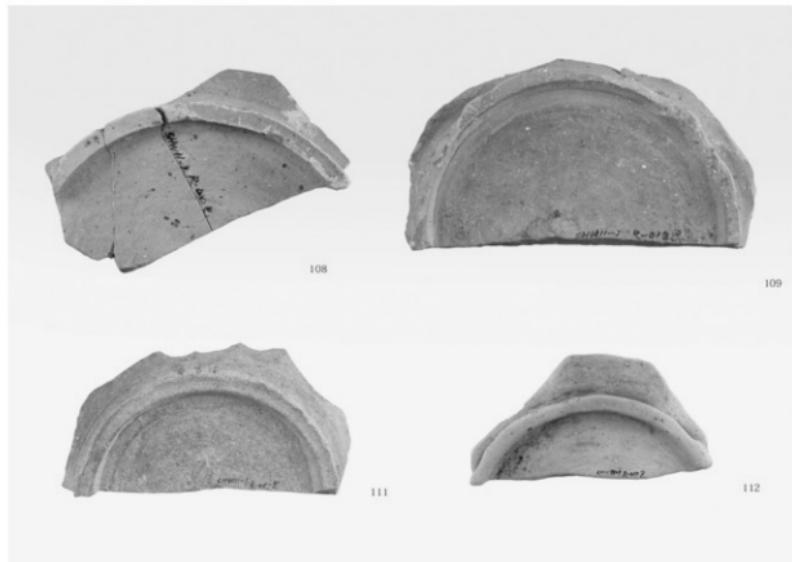
2. 11-1 区 第1調査区 包含層出土土器



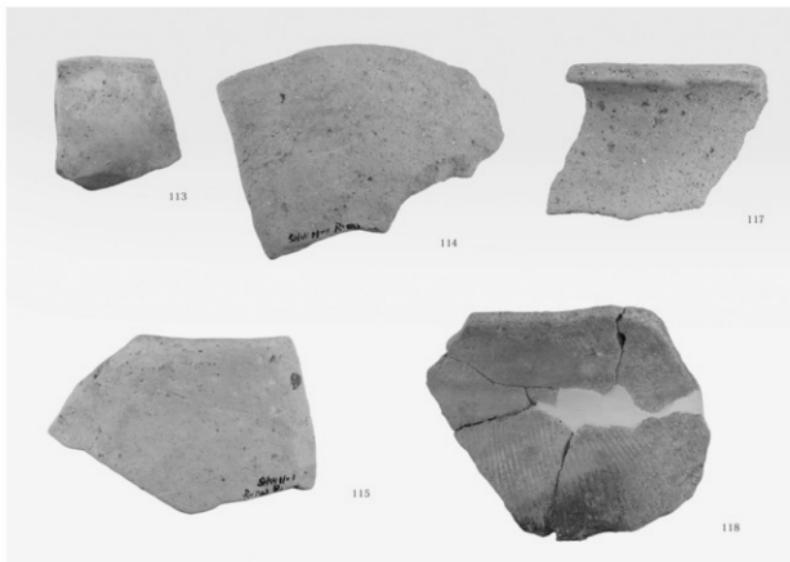
1. 11-1区 第1調査区 包含層出土土器



1. 11-1 区 第1調査区 包含層出土土器



2. 11-1 区 第1調査区 包含層出土土器



1. 11-1 区 第1調査区 包含層出土土器



2. 11-1 区 第1調査区 包含層出土土器



1. 11-1 区 第1調査区 包含層出土土器



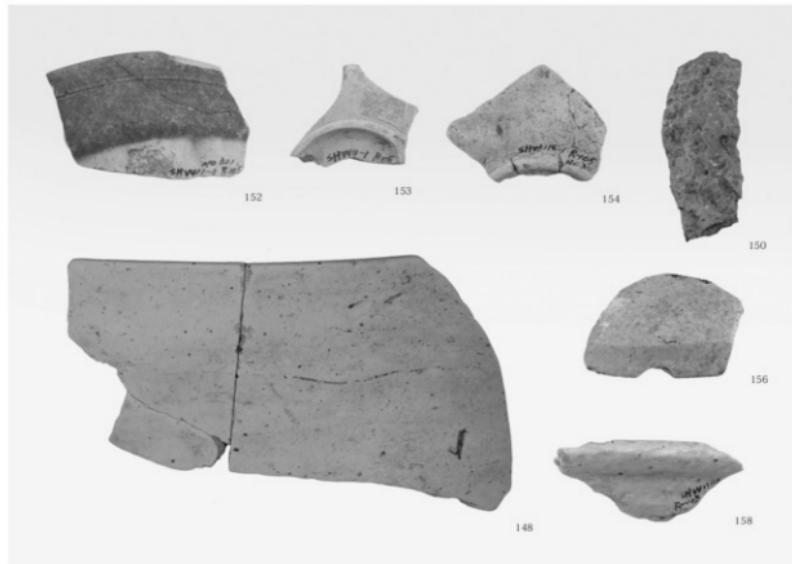
2. 11-1 区 第1調査区 包含層出土土器



1. 11-1 区 第1調査区 包含層、第2調査区 包含層、S P 280、S K 341 出土土器



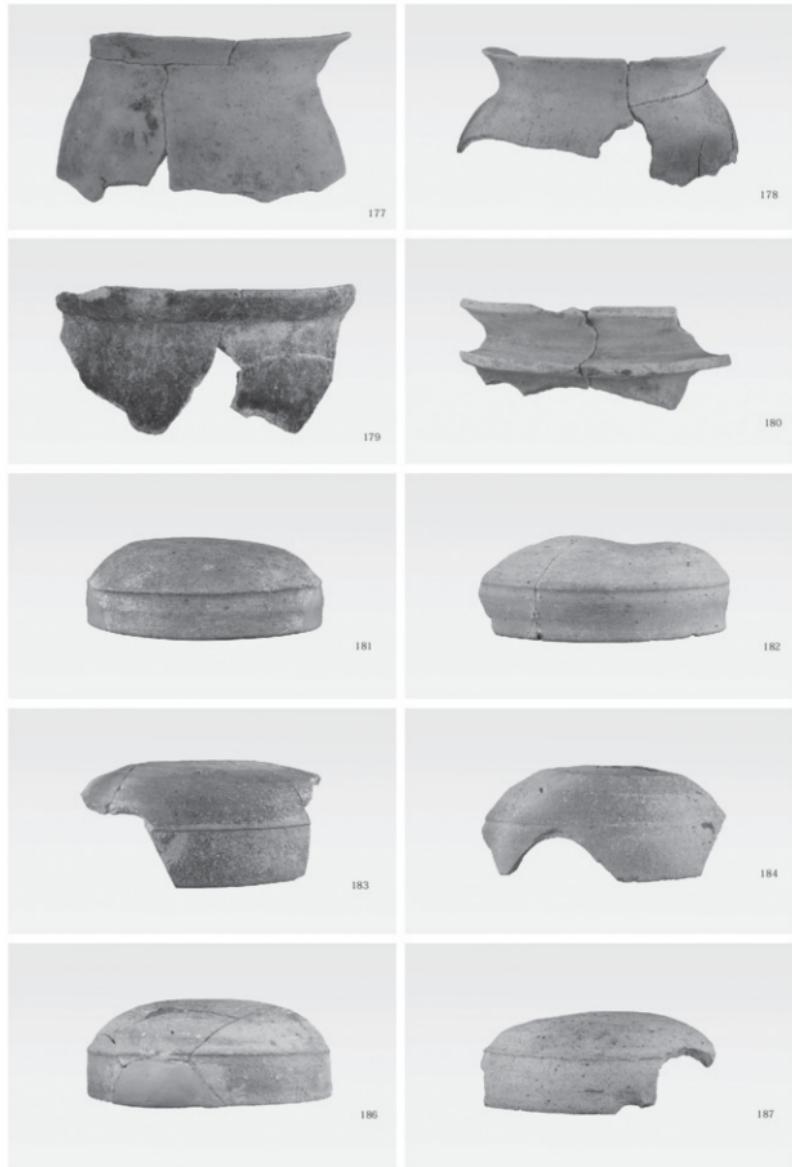
1. 11-1区 第1調査区 包含層出土土器



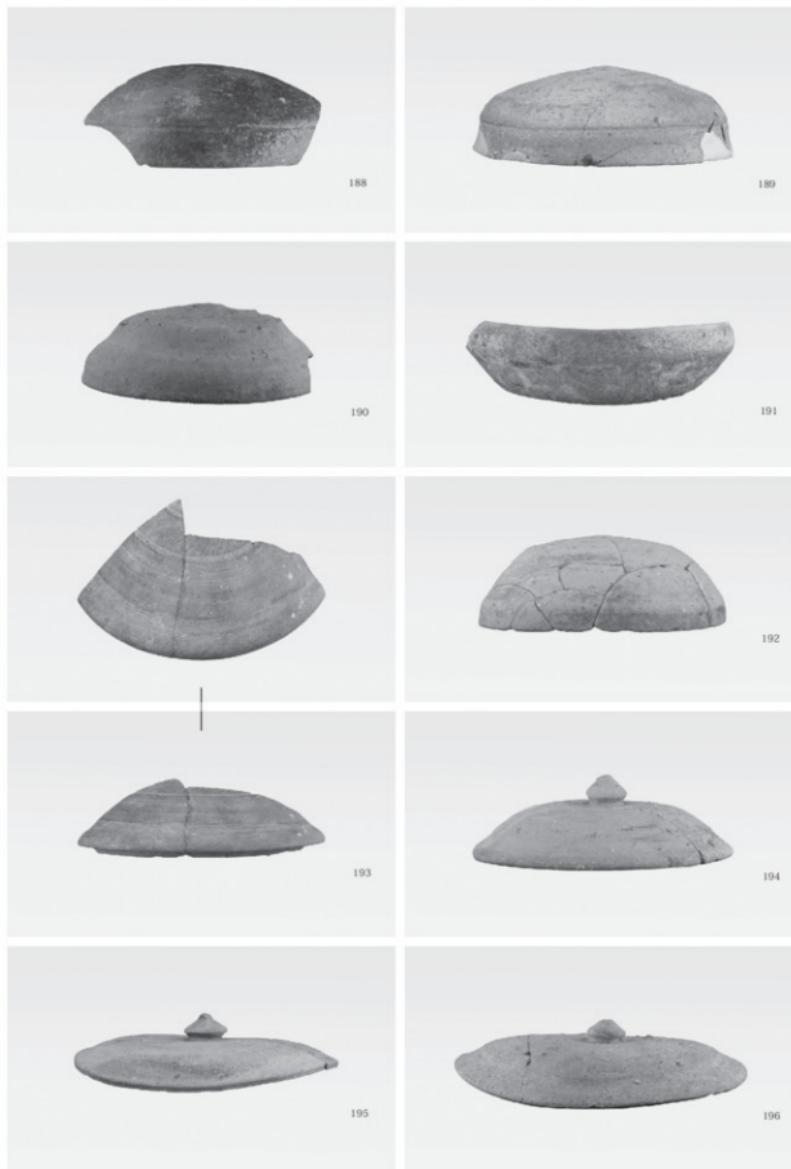
2. 11-1区 第1調査区 包含層、第2調査区 SK 341 出土遺物



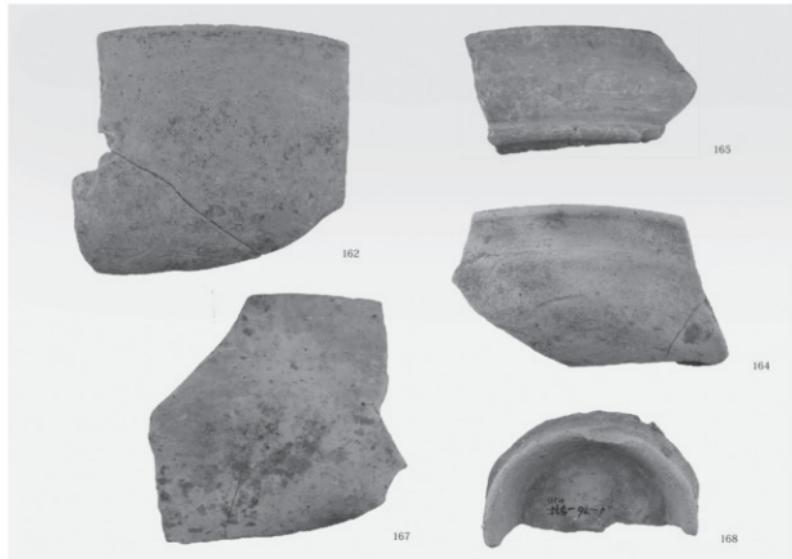
1. 94-1 区 出土土器



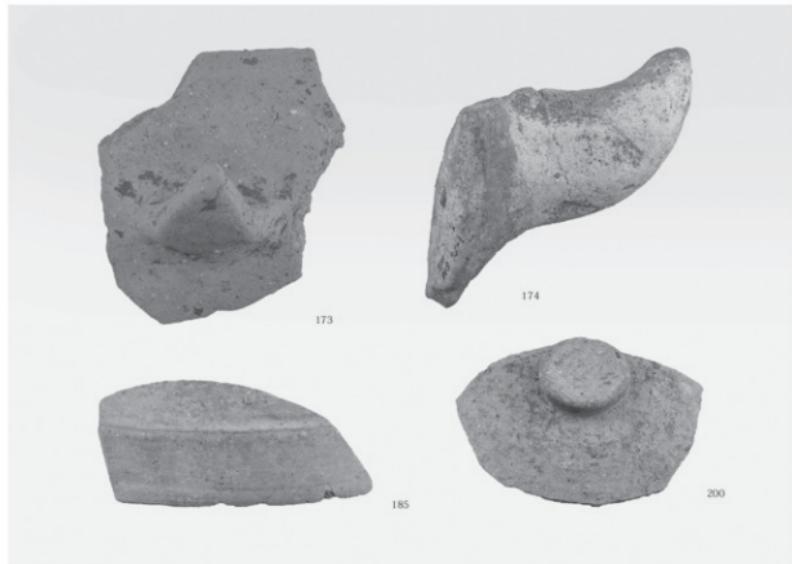
1. 94-1 区 出土土器



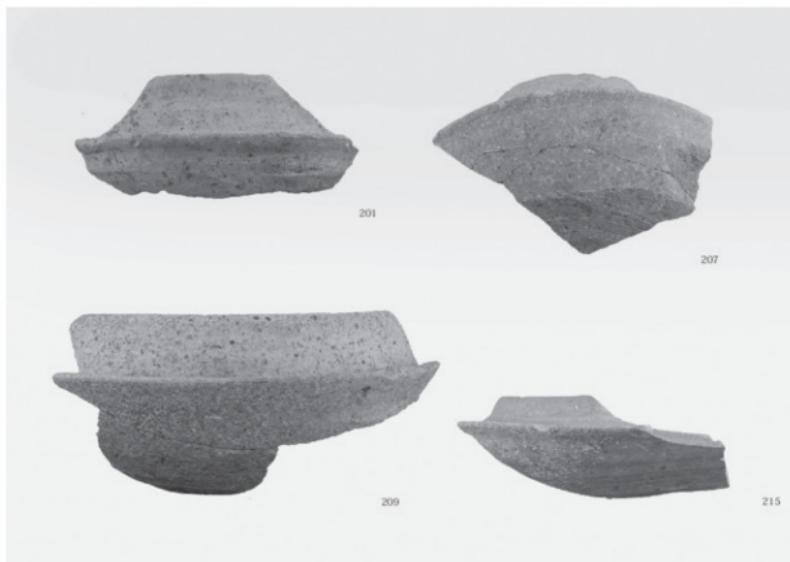
1. 94-1 区 出土土器



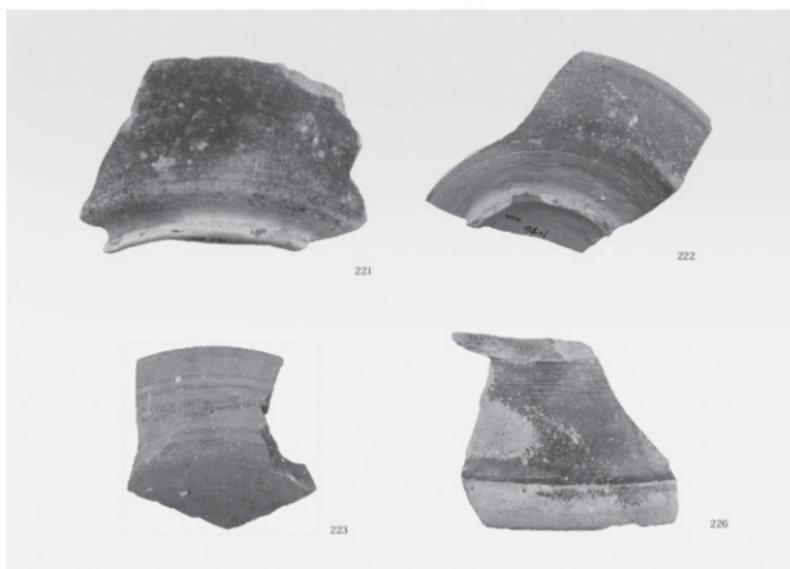
1. 94-1 区 出土土器



2. 94-1 区 出土土器



1. 94-1 区 出土土器



2. 94-1 区 出土土器



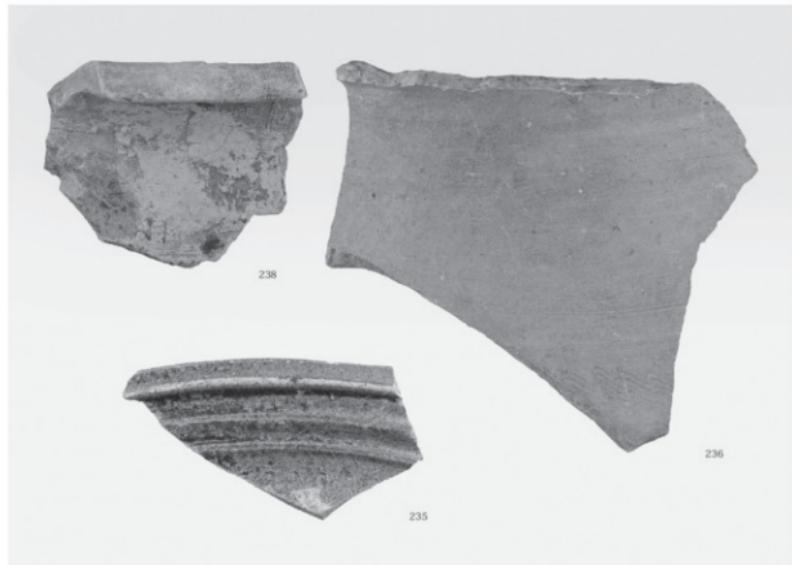
1. 94-1 区 出土土器



1. 94-1 区 出土土器



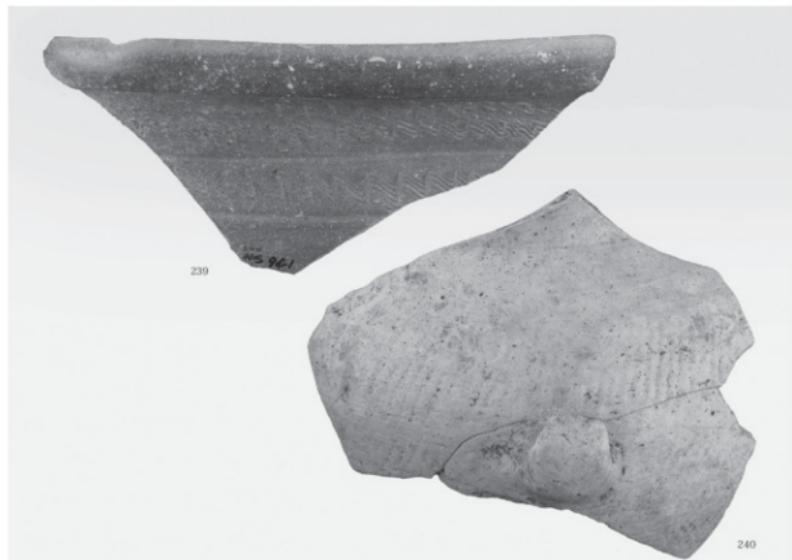
1. 94-1 区 出土土器



2. 94-1 区 出土土器



1. 94-1 区 出土土器



1. 94-1 区 出土土器



2. 94-1 区 出土土器

## 報告書抄録

茨木市文化財資料集 第69集

## 宿久庄西遺跡2

発行日 平成29年3月31日

編集 茨木市教育委員会

〒567-8505 大阪府茨木市駅前三丁目8番13号

電話(072)622-8121(代表)

発行 茨木市教育委員会

印刷 株式会社トウユー